

第七十五回帝國議會 院 所得稅法改正法 律案外三十件 委員會議錄(速記)第二十二回

付託議案
所得稅法改正法律案(政府提出)(第七號)
法人稅法案(政府提出)(第八號)
特別法人稅法案(政府提出)(第九號)
配當利子特別稅法案(政府提出)(第一〇號)
外貨債特別稅法中改正法律案(政府提出)(第一一號)
相續稅法中改正法律案(政府提出)(第一二號)
建築稅法案(政府提出)(第一三號)
礦區稅法案(政府提出)(第一四號)
臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)(第一五號)
營業稅法案(政府提出)(第一六號)
地租法中改正法律案(政府提出)(第一七號)
酒稅法案(政府提出)(第一八號)
清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)(第一九號)
砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)(第二〇號)
織物消費稅法中改正法律案(政府提出)(第二一號)
揮發油稅法中改正法律案(政府提出)(第二二號)
物品稅法案(政府提出)(第二三號)
遊興飲食稅法案(政府提出)(第二四號)
取引所稅法中改正法律案(政府提出)(第二五號)
通行稅法案(政府提出)(第二六號)
入場稅法案(政府提出)(第二七號)
印紙稅法中改正法律案(政府提出)(第二八號)
骨牌稅法中改正法律案(政府提出)(第二九號)
狩獵法中改正法律案(政府提出)(第三〇號)
明治四十四年法律第四十五號中改正法律案(砂糖消費稅織物消費稅等)徵收ニ關スル件(政府提出)(第三一號)
大正九年法律第五十一號中改正法律案(內地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移

會 議
昭和十五年三月十二日(火曜日)午前十一時
二十五分開議
出席委員左ノ如シ
委員長 堀切善兵衛君
理事小山倉之助君 理事濱野徹太郎君
理事木村 淺七君 理事高橋熊次郎君

理事小笠原三九郎君 理事立川 平君
理事河野 密君
長野 高一君 山本 条吉君
成島 勇君 池本甚四郎君
中島彌團次君 川崎末五郎君
內藤 正剛君 長野 長廣君
川崎 克君 飯田 助夫君

渡邊玉三郎君 塚本 三君
伊藤 五郎君 船田 中君
宮本雄一郎君 山川頼三郎君
森 肇君 森田 福市君
西川 貞一君 瀧澤 七郎君
鈴木 英雄君 田方 清臣君
松永 義雄君 永江 一夫君

石坂 繁君 藤本 捨助君
北 勝太郎君 武田徳三郎君
同日委員深澤吉平君辭任ニ付其ノ補闕トシ
テ渡邊玉三郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ
出席國務大臣左ノ如シ
大藏大臣 櫻内 幸雄君
內務大臣 伯爵兒玉 秀雄君

出席政府委員左ノ如シ

內務政務次官 鶴見 祐輔君

內務省地方局長 挾間 茂君

內務書記官 三好 重夫君

大藏政務次官 木村 正義君

大藏省主稅局長 大矢半次郎君

大藏書記官 田中 豐君

大藏書記官 池田 勇人君

營繕管財局理事 松隈 秀雄君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

所得稅法改正法律案(政府提出)

法人稅法案(政府提出)

特別法人稅法案(政府提出)

配當利子特別稅法案(政府提出)

外貨債特別稅法中改正法律案(政府提出)

相續稅法中改正法律案(政府提出)

建築稅法案(政府提出)

鑛區稅法案(政府提出)

臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)

營業稅法案(政府提出)

地租法中改正法律案(政府提出)

酒稅法案(政府提出)

清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)

砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)

織物消費稅法中改正法律案(政府提出)

揮發油稅法中改正法律案(政府提出)

物品稅法案(政府提出)

遊興飲食稅法案(政府提出)

取引所稅法中改正法律案(政府提出)

通行稅法案(政府提出)

入場稅法案(政府提出)

印紙稅法中改正法律案(政府提出)

骨牌稅法中改正法律案(政府提出)

狩獵法中改正法律案(政府提出)

明治四十四年法律第四十五號中改正法律

案(砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件)(政府提出)

大正九年法律第五十一號中改正法律案

(內地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル

物品ノ內國稅免除ニ關スル件)(政府提出)

支那事變特別稅法及臨時稅增徵法廢止

法律案(政府提出)

營業收益稅法廢止法律案(政府提出)

資本利子稅法廢止法律案(政府提出)

法人資本稅法廢止法律案(政府提出)

臨時稅措置法中改正法律案(政府提出)

地方稅法案(政府提出)

地方分與稅法案(政府提出)

府縣制中改正法律案(政府提出)

市制中改正法律案(政府提出)

町村制中改正法律案(政府提出)

北海道會法中改正法律案(政府提出)

北海道地方費法中改正法律案(政府提出)

地方分與稅分與金特別會計法案(政府提出)

出)

家屋稅法案(政府提出)

所得稅法人稅外地關涉法案(政府提出)

昭和十二年法律第九十四號中改正法律案

(支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ

對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル

件)(政府提出)

大正十三年法律第六號中改正法律案(外

國船舶ノ所得稅等免除ニ關スル件)(政府

提出)

アルコール製造事業等ニ對スル所得稅等

ノ免除規定ノ改正ニ關スル法律案(政府

提出)

租稅法規ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等ノ規

定ノ整理ニ關スル法律案(政府提出)

○堀切委員長 是カラ開會致シマス、都合

ニ依リ休憩致シマシテ、午後一時十五分ヨ

リ又開會致シマス

午前十一時二十六分休憩

午後一時四十七分開議

○堀切委員長 ソレデハ是ヨリ開會致シマ

ス、先ヅ此ノ際三月三日ニ小委員會ニ審查

ヲ付託致シマシタ地方稅法案外七件ノ小委

員長ノ報告ヲ承リマス——小山君

○小山委員 所得稅法改正法律案外三十件

委員會中、地方稅法案外七件ノ審查ヲ付託

セラレマシタ小委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御

報告申上ゲマス

小委員會ハ三月四日委員長、理事ノ互選

ヲ行ヒ、不肖私ガ委員長ニ推サレマシテ、

直チニ審查ニ入りマシタ、爾來連日會議ヲ

開キ、昨日マデ回ヲ重ヌルコト七回、其ノ

間委員諸君ハ最モ熱心ニ、內務大臣及ビ政

府委員トノ間ニ質疑應答ヲ重ネラレマシ

タ、殊ニ三部經濟制度廢止問題、新稅ノ免

稅點問題、三收益稅ノ伸張性問題、小學教員

俸給縣費負擔問題ノ諸點デアリマシタ、委員

等ニ於テ慎重審議議事ノ圓滑ヲ期シ、昨日

ノ委員會ニ於テ其ノ議決ハ本委員會デスル

コトト致シマシテ、終了致シタ次第デゴザ

イマス、而シテ其ノ質疑應答ノ詳細ハ速記

録ニ依ツテ御承知ヲ願フコトニ致シマシテ、

省略サセテ戴キタイト存ジマス、簡單デア

リマスガ、以上御報告申上ゲマス

○堀切委員長 次ニ昨日申上ゲマシタ通

リ、今日ハ各派ノ贊否ヲ決スルニ付テ必要

ナル基礎的質問ヲ、各派ノ代表ニ御願致ス

コトニ致シマシタノデ、先ヅ川崎君ヨリ御

質疑ヲ願ヒマス

○川崎(克)委員 只今委員長御宣告ノ如ク

基礎的質問、即チ本稅ニ直接關係ノアル分

ニ付キマシテ、極ク簡單ニ要點ヲ擧ゲテ

御尋ヲ申上ゲタイト思ヒマス、隨テ答辯モ

其ノ積リデ簡單明瞭ニ御答下サルコトヲ豫

メ御願申上ゲマス、此ノ委員會ニ於テ問題

トナツテ居リマス分類所得稅中ノ勤勞所

得、專業所得ノ基礎控除ニ關シマスル觀念

デアリマスガ、此ノ問題ハ各委員カラ屢質

問ガ出テ居リマシテ、數回ニ互ツテ質疑應

答ガ行ハレタノデアリマス、所デ此ノ觀念

ガハツキリシテ居ナイノデアリマスカラ、

之ヲ成ベクハツキリサシテ置キタイト思ヒ

マス、基礎控除シタ分ニ付テ委員側ノ尋ネ

テ居リマス所ハ、最小限度生活ノ確保ト云

フ所ニ重點ヲ置イテ、此ノ四百圓、六百圓ト

云フモノハソレニ該當スルカ否カト云フコ

トヲ尋ネテ居ルノニ對シマシテ、大臣其ノ他

ノ御答辯デハ、必ズシモ基礎控除ハ國民生

活ノ最小限度ヲ指シタモノデハナイト云フ

コトヲ言ツテ居ラレマス、併シナガラ扶養

控除ノ方ハ、明瞭ニソレヲ指シテ居ルモノ

デアアルノデアリマスカラ、ドウモ觀念上ト

シテハ最小限度ノ生活保障ヲスル意味ヲ多

分ニ含マレテ、其ノ基礎控除ガ生レテ居ル

ノデハナイカト、斯ウ云フ風ニ見テ居ルノ

デアリマス、ソレニ對シテ改メテ一ツハツ

キリシタ觀念ヲ承ツテ置キタイノデアリマ

ス

○櫻內國務大臣 分類所得稅ノ中デ勤勞所

得、竝ニ專業所得ニ對スル基礎控除ノ問題

ニ付キマシテ、右ハ生活最小限ト云フモノ

ヲ考慮ノ中ニ入レテ拵ヘタノデアアルカト云

フヤウナ御話デアリマス、此ノ點ハ御質問

ノヤウナ意味ガ含マレテ居ナイトハ申シマ

ト主眼ト致シタノデアリマシテ、家族控除モ等シクヤハリ其ノ實體ヲ考慮シテ、負擔ノ緩和ヲ目標ト致シテ決定致シタモノデアリマシテ、生活最小限度ト云フコトハ、一番主要ナル要素ニハ考ヘテ居ラナイ次第デアリマス

○川崎(克)委員 只今ノ御答辯ニ依リマシテ、豫テ政府ガ説明シテ居リマス負擔ノ均衡ト云フコトハ、モウ分ツテ居リマスガ、併シ生活ノ最小限度トハツキリハ申サスガ、サウ云フ意味ハ多分ニ含マレテ居ルト云フコトヲ御述ベニナリマシタカラ、ソレガ全體デナクテモ多クノ或ル部分ヲ占メテ居ル、斯ウ云フヤウニ諒解シテ宜イト思フノデアリマス、サウ致シマス此ノ控除規定ト云フモノハ、物價ノ關係等ト重大ナ關係ヲ持ツノデアリマス、今日ノヤウナ物價騰貴ノ場合ニ於テハ、此ノ控除規定ハ、其ノ點カラ控除ヲ更ニ擴ゲナクテハナラヌヤウニ考ヘラレルガ、其ノ意味ヲ、ドウ云フ風ニ御考ニナリマスカ、ソレヲ伺ヒタイト思ヒマス

○川崎(克)委員 ソコガ問題デアルト思ヒマス、此ノ稅ノ事變ノ進展ニ伴ツテ、將來稅率ガ増加セラレベキ性質ヲ、多分ニ持ツテ居ル稅デアリマス、其ノ稅率ガ課稅ノ増加スル方ニ動クコトガ多ク、其ノ場合ニ此ノ基礎控除ノ觀念ニ、又動キガ生ズル虞ガアル、其ノ觀念ニ動キノ生ズル虞ハ、惡イ方ニ解釋セラレベキコトガ多分ニアリマス、生活ノ最小限度ヲ保障スルト云フ所ニ重點ガ置カレテアレバ、政府ハ此ノ稅率ヲ動かスコトニ付テ、餘程考慮シナケレバナラス、只今大藏大臣ノ御答辯ニ依ツテモ、負擔ノ均衡ヲ一面睨ンデ居ルガ、他面ニ於テハヤハリ生活標準ト云フモノヲ、多分ニ織込シデアルト云フコトハ述ベラレテ居ルノデアリマス、殊ニ戰時下ニ於テ最小限度ノ生活確保ト云フコトハ、政府ノ政策ノ中ノ最モ大キイ政策ト致シマシテ捉ヘラレテ居ル、ソレヲ此ノ稅ノ上ニ現ハスト云フ意味ニ於テモ、將來此ノ稅ガ稅率ノ變更ヲ最モ多ク見ル危險性ノ多イ稅率ノデアリマスル爲ニ、ソコノ所ハ強ク確メテ置カナケレバナラス

○櫻内國務大臣 只今ノ御話ノ問題ニ付キマシテハ、其ノ點私モ考慮致シマシテ、間接稅等ニ於キマシテハ所謂生活必需品、其ノ他ソレニ關聯スルモノニ對シマシテハ、手心ヲ加ヘテ居ツタ譯デアリマシテ、生活ノ最小限度ト云フモノニ付キマシテハ、考慮ノ中ニ入レテヤツテ居リマスケレドモ、前ニ申シマシタ通り負擔ノ緩和ト云フコトニ主眼ヲ置イテ、控除ヲ定メタノデアリマス、稅ノ建前ト致シマシテハ物價ガ騰貴シタカラ、直チニ基礎控除ヲ殖ヤサナケレバナラヌト云フコトハ考ヘテ居ラヌノデアリマス

點デアリマス、而シテ此ノ問題ニ付キマシテハ、或ハ戶數割ノ廢止デアルトカ、或ハ間接稅ノ増徴ニ對シテノ考慮ヲ拂フトカ、サウ云フコトニ依リマシテ今回ノ改正ハ生活上ニ於テモ充分考慮シテ居ルモノト考ヘテ居ルノデアリマス

○川崎(克)委員 負擔ノ緩和ト云フコトハ一面カラ言ヒマス、負擔力ノアルナイト云フコトニモナツテ來ル、負擔力ノアルナイト云フコトヲ押進メレバ、最小限度ノ生活ヲ保障スル、斯ウ云フコトニナツテ來ルノデアリマス、此ノ觀點カラ私共ハ見テ居ルノデアリマス、言葉ハ外ニ逃ゲラレマスケレドモ、ドウシテモ其ノ觀念デ押シテ居ルモノト見テ宜イト思ヒマス、是以上ハ押問答ニナリマスカラ述ベマセヌガ、大體私ハサウ云フ觀念ノ下ニ是ガ控除ガ行ハレルモノダト思フ所デ不動産所得ト配當利子ト云フモノニ對シマシテハ、免除點ハ百圓デアアルノデアリマスガ、是ガ何故ニ控除規定ヲ置カナカツタカ、不動産所得ト云ヒ、利子所得ト云ヒ、ソレハ非常ナ金持階級ノ收入デアルカノヤウニ見エルトデアリマスガ、是ハ極ク細民デ不動産ダケノ所得デ衣食ヲスル者、或ハ配當利子ノ所得ダケデ衣食ヲスル者、其ノ中ニハ極ク零細ナ金デ生活シテ居ル者ガアル、今マデノ蓄積シタル僅カバカリノ資本、二三千圓位或ハ四五千圓位ノモノ、ソナモノカラ得テ來ル所ノ利子收入ヤ何カデ生活スル者ガアル、サウ云ツタ極ク下級ナ所ヲ狙ツテ、是ガ生レテナイコトニ遺憾ナ點ガアルト思フノデアリマス、性質ノ上カラ行ケバ、成程不勞所得デアルト云フヤウニ見エルカモ知レマセヌガ、極ク低イ程度ノ者ニ付テハ勤勞所得、事業所得ト殆ド選ブ

所ノナイヤウナ性質ノモノモ中ニアル、之ヲドウ云フ風ニ見テ居ラレルノデアリマスカ、免稅ニシテ之ヲ控除規定ニシナカツタト云フノハ、不勞所得デアツテ、不動産所得及ビ配當利子所得ハ、事業所得、勤勞所得ト性質ガ違フ、斯ウ云フ觀點カラ見ラレタノデアリマスカ、其處ヲハツキリ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○櫻内國務大臣 不動産所得ノ少額所得者ハ其ノ生活ノ上ニ於テモ、總テニ於テ勤勞階級ト選ブ所ガナイト云フコトニ付キマシテハ、私川崎君ノ御意見ニ御同感デアリマスガ、稅ノ建前カラ申シマス、一方ハ勤勞ノ所得デアリ、一方ハ不勞所得デアルト云フコトガ一ツト、ソレカラ今一ツハ不動産所得或ハ配當所得、是ハ資産ガアツテ其ノ資産ニ依ツテ生ズル利益デアリマシテ其ノ故ニ、勤勞所得トハ少シク性質ガ違ヒマスノデ、其ノ點ニ付キマシテ今回ノ稅ニ於キマシテハ控除ノ必要ガナイ、斯様ニ考ヘテ本案ヲ決定致シタ譯デアリマス

○川崎(克)委員 其ノ點ハ大藏大臣ト私共ノ見方ガ少シ違フノデアリマス、所デ此ノ點ヲ伺ツテ見タイノデアリマス、假ニ勤勞所得ノ六百圓ヲ八百圓トシ、事業所得ノ四百圓ヲ六百圓トスル、ソレカラ不動産所得、配當利子所得ノ百圓ヲ二百圓ト云フ免稅若クハ控除規定——數字ハ同ジデスガ、斯様ナコトニスレバ其ノ稅額ノ減リマス分ハドレダケデアリマスカ、又序ニ伺ヒタイノデスガ、其ノ表ハ出來テ居ララウト思ヒマスガ、勤勞所得ノ八百圓ト或ハ七百圓ノ場合、或ハ留保所得ノ五百圓、六百圓ノ場合等ノ數字ハ、ドウ云フ風ニナリマスカ、ソレモ伺ヒタイ

○櫻内國務大臣 只今ノ數字ニ付キマシテハ今取調ベ中デゴザイマス、正確ノ數字ハマダ出來上ツテ居リマセヌノデ、一寸此ノ席デ御答致シ兼ネマス

○川崎(克)委員 此ノ數字ハ本案ヲ決定スルノニ、相當ノ重大ナ數字デアリマスノデ、是ハ是非至急ニ取調ベテ、出來ルナラバ今日中ニデモ御出シ願ヒタイ

ソレカラ此ノ分類所得稅ノ中デ、屢、問題ニナツテ居リマス五千圓マデハ、比例稅ニナツテ居リマスカラ、控除ガアルノデ果進デアルト云フコトヲ説明シテ居リマスケレドモ、三千圓、四千圓近クノ上ノ方ニ行ケバ、累進ノ感ジガズツト薄クナツテ居ルノデアツテ、是ハ段階ノ階級ヲ付スルコトガ必要デアルノデハナイカ、若シ付スルトスレバ配當利子所得ノ如キハ、之ヲ付スルニ困難ヲ感ズルデアリマセウガ、勤勞所得ノ如キハ、階段ヲ付シ得ルモノデアルト思ハレルノデアリマス、ソレニ對シテ此ノ法案ヲ御作リニナル時分ニ、サウ云フ風ニ御考ニナツタコトガアルデアラウカ、又サウ云フ風ニスレバドウデアラウカト云フコトニ付テノ、政府ノ所見ヲ伺ヒタイ

○大矢政府委員 其ノ點ニ付キマシテハ、案ヲ作製スル場合ニ、十分考究ヲ重ネタノデアリマスケレドモ、源泉課稅ヲ致スモノニ付キマシテハ、ドウモ實行困難ダト云フコトニナツタノデゴザイマス、配當利子所得等ハ別ト致シマシテ、勤勞所得ニ付テハ、實行シ得ラレルノデナカラウカト云フ御話デアリマスケレドモ、勤勞所得ト雖モ、一人ニシテ數箇所カラ受クルト云フヤウな場合モ相當アルノデアリマシテ、色々ノ場合ヲ考ヘテ見マス、中々實行困難ダト云フ結

論ニナツタ次第デアリマス
○川崎(克)委員 勤勞所得ハ實行困難ト言フガ、勤勞所得ハ實行出來ルト思フノデアリマス、出來ナイト云フ譯ハナイト私共ハ思フノデス、勤勞所得ト云フモノハハツキリシテ居ル、ソレハ俸給生活者ノ中デモ色色ノモノガアルカラヤリニクイト云フコトニアルデセウガ、ヤリニクイト云フコトト、出來ナイト云フコトハ別デアリマス、不可能ト云フ譯ハナイト思ヒマス

○大矢政府委員 勤勞所得ニ於キマシテモ、例ヘバ毎月ノ俸給ガ更ニ異動ガナイト云フモノデアリマスケレドモ、宜シイノデアリマスケレドモ、月々ニモ相當異動ガアルモノガアリマス、又賞與ノ關係モアリマス、其ノ他一人デ數箇所カラ給與ヲ受ケルト云フモノモ相當アルノデゴザイマシテ、是等ニ互リマシテ三千圓ナラバ三千圓程度トシテ、稅率ノ區分ヲシテ課稅スルト云フコトハ、實行中々困難デアルト云フ結論ニナツタ次第デゴザイマス

○川崎(克)委員 ドウモソコハ分リマセヌ、困難カモ知レナイガ、此ノ稅ヲ以テ控除規定ヲ設ケテ——アナタノ言フヤウナコトデアレバ、此ノ稅ヲ實行スルノガ困難ニナツテシマフノデ、出來ナイ譯ハナイト私ハ思フ、是ト同ジヤウニ又困難ト云フ御話ガ出來ルルカモ知レマセヌガ、現在保險料ハ控除規定ガアリマシテ、控除サレテ居ル、是モ亦困難ダト云フ理由デ、保險料ハ控除シナイト云フコトニナルガ、是ハ扶養控除規定ニ依ツテ扶養控除ノ出來ルヤウニ保險料ノ控除ト云フコトハ出來ル、是ハ唯困難ニ名ヲ藉リテ、唯サウ云フ理由デ斯ウ云フ社會政策ノ意味ヲ持ツタモノヲ控除シナイ、現行

法ニアルノニ控除シナイト云フコトハ——今日ノヤウナ將來ニ互ツテ改革ヲ致ス稅法ヲ編ム時ニ、ドウシテモ良イモノハ殘サナケレバナラス、殊ニ保險料ノコトニ付キマシテハ、戰時保險ノ場合ニハ相當大キナ犠牲ヲ拂ツテ居ルト云フコトハ、ドナタカノ御質問ノ中ニモアツタガ、非常ナ犠牲ヲ拂ツテ居ルノミナラズ、保險料ト云フモノハ所謂現在受ケル家族扶助ノ關係デナシニ、將來ニ對スル家族扶助ノ關係ヲ持ツ意味ガ保險ノ性質デアアル、サウ云フ意味ヲ持ツテ居ルモノニ對シテ、唯困難トカ何トカ云フ名前デ控除フシナイト云フコトハ、餘程考ヘナケレバナラス、是ハ出來ルノデス、出來ルコトハ分ツテ居ルノニ控除シナイ、是ハ御考直シニナル必要ガアルト思フガ、如何デアリマセウカ

○大矢政府委員 是マデ度々御答致シテ置キマシタ通り、分類所得稅ニ於テ一ツノ非常ナ特色ト申シマスカ、長所ト申シマスケルハ、源泉課稅致シマシテ納稅ヲ簡易化スル、徵收ノ側カラ見マシテモ、又納付スル側カラ致シマシテモ手數ヲ掛ケズニ簡易ニ、而モ納稅者ニ於テ苦痛ヲ感ズルコト少クシテ納メルト云フノガ非常ニ長所デ、ソコガ分類所得稅ノ大キナ狙所ダト思フノデアリマス、前ニ申シマシタ俸給所得ニ於ケル三千圓ナラバ三千圓ヲ限界ト致シマシテ、稅率ニ差等ヲ設ケルト云フコトモ、若シモ稅務署ニ於キマシテ、總テ其ノ人ノ所得ヲ綜合致シマシテ、課稅ヲ致シマス場合ニハ、是ハ出來ルノデアリマスケレドモ、支給者ノ側ニ於キマシテ他トノ連絡ナク、自分ノ所ノ支給額ダケ見テ稅率ヲ盛ル、斯ウ云フ場合ニ果シテ其ノ人ガ三千圓以上デアルカ、

以下デアアルカト云フコトヲ見ルノハ中々困難ダ、ソレカラ俸給ハ普通月額拂ニナツテ居リマスカラ、月稅ニナツテ居リマシテ、毎月々々納稅ヲ濟マシテ行ク、斯ウ云フノデアリマスカラ、豫メ其ノ人ガ三千圓ニナルカドウカト云フコトモ、亦支給者ノ側ニ於テ支給ノ都度判定スル譯ニモ參ラヌ、斯ウ云フコトガアルノデアリマスケレドモ、殊ニ保險料ノ控除ニナリマスケルト、中各人ガ一體ドレ位保險料ヲ、其ノ年ニ於テ拂フカト云フコトヲ見テ、サウシテ毎月是ガ控除ヲ爲スト云フコトハ、實際問題トシテ非常ニ複雑ナル手數ヲ掛ケルト思フノデアリマシテ、是ハ徵收義務者ニ對シテ、斯ノ如キ非常ナ重荷ヲ負ハセルト云フコトハ、源泉課稅ノ特質ヲ餘程傷ケルコトニナリハシナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘマスノデ、サウ致シマスケルト寧ロ此ノ保險料ノ控除ノ制度ハ廢止致シマシテ、併シ唯廢止シタダケデハ今マデヨリモ納稅者ニ對シテ不利益ニナルノデアリマスカラ、サウ云フ點モ十分考慮致シマシテ、家族控除ノ制度ヲ思切ツテ擴張致シマシテ、負擔力ニ應ズル課稅ヲ致サウ、斯ウ云フ風ニ考ヘタノデアリマス、ソレカラ度々申上ゲマス通り生命保險料ノミヲ、ドウシテモ控除シナケレバナラスモノデアリマセヌデ、若シモ出來得ルナラバ、生命保險料ノ外ニ郵便貯金ニ預入レ、或ハ貯蓄銀行ニ貯金スルト云フヤウな性質ノモノモ、併セテ考慮シテ然ルベキデハナイカト云フ議論モ立チ得ルト思フノデアリマシテ、要スルニ是ハ生命保險料ノミ是非トモ控除シナケレバナラヌ性質ノモノトモ思ハレナイノデアリマシテ、從來所得稅ニ於テ控除セラレタモノヲ、

以下デアアルカト云フコトヲ見ルノハ中々困難ダ、ソレカラ俸給ハ普通月額拂ニナツテ居リマスカラ、月稅ニナツテ居リマシテ、毎月々々納稅ヲ濟マシテ行ク、斯ウ云フノデアリマスカラ、豫メ其ノ人ガ三千圓ニナルカドウカト云フコトモ、亦支給者ノ側ニ於テ支給ノ都度判定スル譯ニモ參ラヌ、斯ウ云フコトガアルノデアリマスケレドモ、殊ニ保險料ノ控除ニナリマスケルト、中各人ガ一體ドレ位保險料ヲ、其ノ年ニ於テ拂フカト云フコトヲ見テ、サウシテ毎月是ガ控除ヲ爲スト云フコトハ、實際問題トシテ非常ニ複雑ナル手數ヲ掛ケルト思フノデアリマシテ、是ハ徵收義務者ニ對シテ、斯ノ如キ非常ナ重荷ヲ負ハセルト云フコトハ、源泉課稅ノ特質ヲ餘程傷ケルコトニナリハシナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘマスノデ、サウ致シマスケルト寧ロ此ノ保險料ノ控除ノ制度ハ廢止致シマシテ、併シ唯廢止シタダケデハ今マデヨリモ納稅者ニ對シテ不利益ニナルノデアリマスカラ、サウ云フ點モ十分考慮致シマシテ、家族控除ノ制度ヲ思切ツテ擴張致シマシテ、負擔力ニ應ズル課稅ヲ致サウ、斯ウ云フ風ニ考ヘタノデアリマス、ソレカラ度々申上ゲマス通り生命保險料ノミヲ、ドウシテモ控除シナケレバナラスモノデアリマセヌデ、若シモ出來得ルナラバ、生命保險料ノ外ニ郵便貯金ニ預入レ、或ハ貯蓄銀行ニ貯金スルト云フヤウな性質ノモノモ、併セテ考慮シテ然ルベキデハナイカト云フ議論モ立チ得ルト思フノデアリマシテ、要スルニ是ハ生命保險料ノミ是非トモ控除シナケレバナラヌ性質ノモノトモ思ハレナイノデアリマシテ、從來所得稅ニ於テ控除セラレタモノヲ、

廢止スルト云フコトニ付キマシテハ、私共相當考究ヲ重ネマシタケレドモ、分類所得稅ニ於テ源泉課稅ノ制度ヲ取ル以上ハ、已ムヲ得ナイデハナカラウカ、斯ウ云フ結論ニ達シタ次第デゴザイマス

○川崎(克)委員 私モ簡單ニ伺ヒマスカラ、簡單ニ御答辯ヲ願ヒタイ、今貯金ト言ハレタケレドモ、貯金ハ全然性質ガ違フ、扶養控除ヲ御認ニナルナラバ、保險ハヤハリ將來ニ互ル扶養控除ヲ認メルト同ジコトニナル、保險ハ自分ガ受取人ニナル場合ハ少クテ、家族ガ受取人ニナルノガ多イ、即チ扶養控除ノ精神デヤツテ居ル、將來性ヲ持ツ扶養控除ト云フコトニナル、ソレガ困難ダト仰シヤルケレドモ、決シテ困難デハナイ、保險ノ申込書ニ保險料ノ領收證ヲ示セバ、簡單明瞭ニ分ルコトデ、扶養控除ト同ジ手數デハナイカ、簡單ニ區別ガ付ク、此ノ位明瞭ナモノハアリマセヌ、如何デス

○大矢政府委員 私ハ實行ガ絕對不可能ノモノトハ決シテ考ヘテ居リマセヌ、唯徵收義務者ニ手數ガ掛ルコトヲ願ハナケレバナラス此ノ際、保險料ノ控除マデスルト實務ニ當ル人ノ手數ガ中々容易デナカラウ、此ノ點ニ付テハ私共ハ現ニ生命保險ノ業務ヲ擔當シテ居ル相當ノ人ニ意見モ聽イテ見タノデアリマスガ、此ノ實行ハ中々容易デナイヤウニ思フ、自分等モ小額ノ保險料ニ付テ全部ノ資料ヲ作製シテ、各勤務先ニ送ルト云フノハ中々大キナ負擔ダト云フコトヲ申シテ居ルヤウデアリマシテ、是ハ要スルニ此ノ保險料ノ控除ノ仕事ノ分量ト云フモノハ、下ノ程度ノモノダト云フコトニ付テ判斷ガ自ラ違ツテ來ルコトト思ヒマス

○堀切委員長 其ノ程度デ宜シイデセウ

○川崎(克)委員 保險料控除ハ社會政策的意味ガ多分ニ含メレテ居ルノデ、其ノ點ニ於テモハ控除スベキ性質ヲ持ツテ居ルモノデアアル、而モ扶養控除ト云フコトガアル以上、其ノ線ニ沿ウテ當然保險料控除ヲ爲スベキモノデアアル、ソレガドウシテヤレナイコトガアルカ、唯手數ガ増ス位ノコトハ理由ニナラナイ、手續ガ増スコトハ扶養控除モ同ジコトデアアル、是以上ハ議論ニナルカラ止メマスガ、私ハ是ハ必ず出來ルモノト諒解致シマス、ソレカラ株式配當ノ二割控除ノ問題ト利子控除ノコトガ、ズツト問題ニナツテ來テ居ルノデアリマスガ、是ハ今日ハ議論ハ致シマセヌ、二割控除ヲ致シマスト云フト、一體今度ノ改正法ニ依ツテ二割控除ヲ致シマス、ドレダケノ金額ガ減ルカ、ソレハハツキリシタ數字ガアルダラウト思ヒマス、ソレカラ利子控除ハ全部ニ對スル利子控除ヲシタ場合ニ、是ハ簡單デナケレバ駄目ナノデスケレドモ、利子控除ヲシタ場合ニ是モ亦ドレダケ位ナ収入減ニナルカ、ソレモ大體御調ベガアリマスレバ承リタイ

○大矢政府委員 株式配當ニ割控除ハ、現在ノ制度ヲ維持スルコトニ致シマスレバ、原案ニ對シマシテ大體三千六百萬圓程ノ減收ニナルト存ジテ居リマス、負債利子全額控除スルコトニ致シマスレバ、ドレ程ノ減收ニナルカト云フコトデゴザイマスガ、未ダ此ノ調査ハ出來テ居リマセヌ

○川崎(克)委員 ソレハ何時御出シテ願ヘマスカ

○大矢政府委員 ソレハ至急提出スルコトハ出來マセヌ、調査ハ出來テ居リマセヌカラ、至急提出スル譯ニハ參リマセヌ

○川崎(克)委員 是ハ驚イタデスネ、此ノ問題ハ此ノ委員會始ツテ以來、相當論議モ盡サレタ問題デアリマス、之ヲ選擇スルノニハ相當ニ是ハ研究サレ盡サレテ居ルノデアアルカラ數字ガ分ラナクテハナラヌ、今時分ニナツテ調ベガナイト云フコトハ意外千萬デアアル

○大矢政府委員 本委員會ニ於キマシテ、私ノ承知致ス所ニ依リマスレバ、負債利子全額控除ハ、私共ト致シテモ是ハ現在ノ制度ノ下ニ於テハ行ハレ難イモノ、理論的ニモ行ハレ難イモノ、斯ウ信ジテ居リマスノデ、是ガ調査ハ實ハ致シテ居ナイノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ點ニ對スル資料ハ取調ベテ提出スルコトヲ申上ゲタコトハナイト存ジテ居リマス

○川崎(克)委員 私ハ其ノ資料ヲ頂戴スルト云フコトヲ要求シテ、ソレガ出ナカッタト云フコトヲ責メルノデアリマセヌ、此ノ問題ハ所得稅ノ根本觀念ニ於テ、一體所得稅ト云フモノハ如何ナルモノニ課ケルノカ、自由ニ處分シ得ベキ所得、ソレニ課稅スルノガ合理的ダト云フ建前カラ、外國ノ立法例モ引イテ、是ハ非常ニ論議サレタ問題デアアル、今マデ前回ノ稅ノ委員會モ、其ノ前回モ議論サレタ、一昨年ノ如キ際君ノ如キハ稅法ノ委員會ニ於テ此ノ事ヲハツキリ論ジテ居ル、速記録ニモ載ツテ居ル、是ハ全部ノ負債利子控除ヲスベキモノダト云フコトヲ論ジテ居ル、此ノ問題ハ今日始ツタ問題デアリマセヌ、永年論議シテ來タ問題ダカラ、今度ノ稅法ノ根本的改正ヲオヤリニナルノニ當ツテ、此ノ問題ニ付テ御調ベガナイト云フコトハ、是ハドウモ意外千萬ダト思フカラ今申上ゲタノデアアル、是

ハ案ヲ出シテ吳レト要求シナイノデ出サヌノダト云フヤウナコトデハナクシテ、是ハ當然ノコトデアアル、二割控除ノ問題ト此ノ問題ト見比べて研究スル上ニ於テ、重大ナル資料ニナルコトデアツテ、是ハドウシテモ達觀的デモ何デモ宜イカラ、御調ベニナツタ數字ヲ御出シ願ハネバイカヌ

○大矢政府委員 本委員會ニ於キマシテモ此ノ問題ハ度々論議セラレマシテ、私モ再三御答シテ居ルト思フノデアリマス、結局私共ト致シマシテハ、負債利子ヲ全額控除スル場合ニ於キマシテハ、一方財產ノ處分益、或ハ自家用住宅ノ利用價格ト云フモノモ所得ニ計算シナケレバナラヌ、斯ウ云フモノト兩々相俟ツテ行カナケレバナラヌモフト考ヘテ居ルノデアリマスガ、今回ニ於キマシテハ財產ノ處分益ノ如キ、或ハ自家用住宅ノ利用價格ノ如キモ、所得ノ計算上之ヲ算入シナイ建前ヲ執ツテ居ルノデアリマシテ、隨テ負債利子全額控除ト云フモノ、實ハサウ云フ理論的根據ニ基キマシテ、餘リ詳細ニ調ベハシテ居ナイノデアリマス、是ハ一面ニ於キマシテ簡單ニ調査ガ出來ルモノナレバ、勿論致スノデアリマスケレドモ、是ノ推定ト云フノハ中々困難デアルト云フコトモ、一ツ十分御諒承願ヒタイト存ジマス

○川崎(克)委員 私ガ之ヲ度々繰返シマスコトハ、是ガ根本觀念デスカラ御許ヲ願ヒタイ、一體稅ヲ決メルニ當ツテ、所得稅ノ根本觀念ヲ決メルノガ、一番大事ナ問題デアアル、所得稅ハ言フマデモナク自由ニ處理シ得ベキ所得デナケレバナラヌ、ソレデアアルカラ理論的ニ負債控除ガ附イテ廻ハル、ソレハ實際困難ダト云ツテモ、理論上成立チ

得ル議論ナラバ、吾々ヤレト思フテ居ル、ソレデアアルカラ是ハ理論ノ線ニ沿ウテ、近イヤウニ御考ニナラナケレバナラヌ、ソレデ此ノ稅法ヲ盛ル場合ニ於テハ、理論ノ通ルダケハ理論ヲ貫クヤウニ持ツテ行カレルノガ宜イ、出來ルダケソコヘ持ツテ行カナケレバナラヌ、ソレデアアルカラ當然此ノ問題ハ御考ニテツテ居ナケレバナラヌ、ソレガ稅法ヲ扱フ上ニ於テ最モ親切ナコトデアアル、ドウスレバ正シイ稅ガ盛レルカト云フ、所得稅ノ如キ根本的ナ稅ハ、自由ニ處分シ得ベキ所得ニ課ケルノガ一番正シイノダト云フ、此ノ觀念ダケハ確カナデアアルカラ、殊ニソレヲ全ク檢討モシナイデ通シテ行ツタト云フコトデアレバ、吾々ハ此ノ審議ヲ進メテ行クノニ非常ニ困ル、是ハモツト一ツ御考直シテ願ヒタイ、何トカ考ヘテ戴キタイ。

○田中(農)政府委員 負債ノ利子ヲ無條件ニ全額控除シタ場合ニ於ケル減收額ト云フモノハ、只今主稅局長カラ御答辯申上ダゲタ通り調査ヲ致シテ居リマセヌ、併シソレニ關シテ理論的ナ問題トシテ、所得稅ニ於テ之ヲ全額控除シテ課稅スベキ議論ガ十分成立ツコトハ、仰セノ通りデアリマス、又一面ニ於キマシテサウ云フ制度ヲ執リマシテニ於テハ、有ユル所得ヲ總テ綜合シテ課稅スルト云フ建前ヲ執ルコトモ亦前提ナラデアリマシテ、其ノ兩者何レモ非常ニ調査ノ困難ナモノデ、ソレニ依ル歲入ノ増減ノ調査ト云フコトハ困難デアリマスシ、又現在課稅シテ居ナイ他ノ所得ニ課稅スルト云フコトハ、事實上今ノ所デハ殆ド不可能ニ近イ點デアリマシテ、兩方トモ此ノ際行ヘナイ、斯ウ云フヤウナ大體ノ結論ニ相成ツテ

居ル譯デアリマス、其ノ金額等ニ關シテハ、色々ナ推測ハ出來マセウケレドモ、全然今マデ出入ノ合致シテ居リマセヌ範圍ニ於テ、個人ガ借入金ヲシテ色々ナコトニ使ツテ居ル、其ノ利子ヲ拂ツテ居ルト云フ點ヲ色々調ベル譯デアリマシテ、會計計畫ヲ致シタコトモゴザイマシテ、一應數字ハ出タコトモアリマシテ、是ハ迎モ信用ノ置ケルヤウナ數字デハナイト云フヤウナコトデ、其ノ儘ニ相成ツテ居ルヤウナ次第デアリマス、尙ホ之ニ關聯シマシテ、今回ノ負債利子ノ控除、株式ノ二割控除ヲ止メテ、負債ノ利子ノ控除ヲ致スト云フコトニ付キマシテハ、是ハ調査致シテ居リマシテ、其ノ株式ノ取得ニ要シタ負債利子トシテ控除致シマス額ハ六千四百萬圓、之ニ對スル稅額減收ニナリマス分ハ、一千七百萬圓程度デゴザイマス。

○川崎(克)委員 是ハ洵ニ私遺憾デアリマス、遺憾デアリマスルガ、是ハ達觀的ノ數字デモ尙ホ御示ヲ願フコトガ出來レバ、洵ニ仕合せダト思ヒマス、洵ニ是ハ遺憾デアツテ私共此ノ審議ヲ進メルノニ、斯様ナコトデ自分ノ方ノ利益デアレバ、此ノ負債利子ノ政府ノ計算ヲスル程度ニ於テノ負債利子ノ控除ト云フモノデアレバ、千四百萬圓ト云フ數字ガ出テ居ル、是ト五千七百萬圓ト云フ數字ヲ睨合ハスト云フコトダケハ分ル、分ルガ吾々ノ問ウテ、居ル所ハ違フ、ダカラシテ是ハ出ナイコトハ甚ダ遺憾ト思フノデスガ、尙ホ是ハ他ノ諸君カラモドウモ御尋ニナルコトト思ヒマスカラ、私ハ此ノ程度デ極メテ不満足デアルガ、進行上次ノ質問ニ移リマス、相續稅ノコトデスガ、是モ此ノ委員會デ屢、問題ニナツテ居リマス、サウシテ論議

ハ盡キテ居ルノデアリマス、此ノ稅率ニ付テモ、本會議ニ於テ小山君邊リカラ質問ガ出テ居ルシ、又他ノ諸君カラモ出テ居ル、所デ百分ノ三十三ト云フ最高稅率デ、現在ノ此ノ儘ノ制度デ押シテ行ツテ、不動產ニ對スル所ノ所得稅、相續稅ナドヲ決定スルノニ當ツテ、此ノ稅率デオヤリニナレバ、是ハ明ニ稅ヲ納メラレナイ者ガ出テ來ル、實例ヲ申シマスレバ時間ヲ取リマスケレドモ、私ハ二分間モアレバ濟ム、實例ヲ申上ゲマスト、今ノ稅デナクシテ、百分ノ八程度ノ相續稅、今カラ十何年モ前ノコトデアリマスガ、三百五十萬圓ノ山林ノ所有者ガアツテ、ソレヲ七百萬圓ニ決定サレタ、サウシテ稅ヲ三年間納メテ納メラレナイ、納メラレナクナツテ、初メテ是ハ最初ノ査定ガ誤リデアツタト云フコトガ分ツタ、ト云フノハ愈、稅ガ納メラレナクナツタモノダカラ調ベテ見テ、サウシテ當時ノ新宮積渡シノ時價材木ヲ計算シテ、餘ツタ山ニ付テ一々五千人カラノ人ヲ入レテ調ベタ、此ノ山ハ何百萬圓ニ見積ツタ、此ノ山ハ何十萬圓ニ見積ツタ、前ノ臺帳ト突合シテ見ルト倍額ニ見積ツテ居ル、倍額ニ見積ツタカラ誤謬訂正ヲシテ稅額ヲ減ラシタ、ソレハ事實アツタコトデスカラ、大藏省デ御調ベニナレバ分リマス、三年間稅ヲ納メテ誤謬訂正ヲシタ事實ガアル、石渡君ハ課長ノ時分其ノ局ニ當ツタ人デアアル、約三年納メテ後ニ誤謬訂正ヲシテ、初メテ七百萬圓ノ査定ガ違ウテ三百五十萬圓ト云フコトガ分ツタ、サウ云フ間違ガアルノデス、ソレガ百分ノ八位ノ稅ノ時ニ納メラレナカツタ、是ハ石渡君ガ居レバ尙ホ能ク分ルノデスガサウ云フ事實ガアル、今度ノ百分ノ三十三ニナレ

バ、是ハ納メラレナイコトハ明カデ、其ノ時分デスラモ納メラレナカツタ、ソコデ私ハ多年唱ヘラレテ居リマス所ノ物納ノ制度ト云フモノハ、不動產ニ對シテハ是ハ認メナケレバナラナイ、物納ヲ認メルト云フコトハ、ドウ云フ所カラ之ヲ認メルト云フコトノ必要性ガアルカト云フト、課稅ノ適正ヲ期スルト云フコト、澤山ニ見積ラナクテ、内輪ニ見積ツテ行ケバ、物納デ納メテモ缺損ガ出テ來ナイ、ソレヲ今ノ三百五十萬圓ノモノヲ七百萬圓ニ見積ルト云フヤウナコトヲシテ、異議ヲ申立テモ中々聽カナイデ、訂正ヲシタト云フヤウナ實例ガアル、ソレヲ百分ノ三十三ノ稅率デアレバ、モウ到底納メラレナイ、是ハ納メルヤウニシナケレバナラヌ、ソコデ金デ納メルカ物デ納メルカ、其ノ選擇權ヲ納稅者ニ任シテ置クト云フコトハ、不動產ノ資産ヲ査定スル場合ニ適正ニ査定シテ、大藏省ガ之ヲ受取ツテモ損ガ行カヌ程度ノ査定ヲスルト云フコトニナルカラ、適正ニナル譯ナラデアリマス、大藏省ニ選擇權ガナクシテ、納稅者ニ選擇權ヲ任カスト云フコトニシテ、初メテ適正ナモノガ出テ來ル、ソレヲ官吏ノ獨善デ此ノ相續稅ヲ決定セラレタ日ニハ堪ツタモノデナイ、是ハ今カラ十年前ノ事實デアリマスケレドモ、ソレデモ納メラレナカツタカラ、今日三十三ニナツタラ斷ジテ納メラレマセヌ、課稅ノ適正ヲ期スルト云フ上ニ於テモ、物納ヲ認メル制度ヲ作ラレト云フコトハ、是ハ極メテ必要ナ點デアリマス、劃期的ノ統制ヲ今度御作リニナル場合ニ於テ、課稅ノ適正ヲ期スルト云フ所ニ重點ヲ置ク、負擔ノ衡平トカ、負擔ノ均衡トカト云フヤウ

ナ問題ヨリモ、モツト突込シテ問題ハ、課税ノ適正ナ物差ヲ當テラレナケレバナラヌ、間違ツタ物差デ官僚獨善デヤラレタ日ニハ堪ツタモノデハナイ、適正ヲ期スル上ニ於テ物納ヲ認メルト云フコトハ、是ハ最モ必要ナコトト考ヘテ居リマス、私ハ此ノ問題ニ付テ大藏大臣ハドウ云フ風ニ御考ニナツテ居ルカ、其ノ御返事ヲ承リタイ

○櫻内國務大臣 只今川崎君ノ御話ノ點ニ付キマシテハ、從來左様ナコトガアツタヤウナコトモ聞キマスノデ、此ノ點ニ付テハ最モ注意致サナケレバナラヌ所ト考ヘテ居リマス、其ノ缺點ノ主眼ハ何處ニアルカト申シマス、要スルニ評價ノ點ニアルト思ヒマス、評價ガ若シ適當デアルト致シマスレバ、今回ノ税法ニ於キマシテモ、半額以上ガ不動産デアリマシタ場合ニ於テハ、十年ノ延納ヲ許サレテ居ルノデアリマスカラ、相當税ノ支拂ニ差支ナイト思ヒマス、唯評價ニ對シマシテ、ソレガ今御話ノヤウナ事柄ガアルト致シマス、自然ト納税ヲスルコトガ出來ナイ、又納税者ヲシテ苦メルト云フコトニナルト考ヘマス、故ニ此ノ評價査定ト云フコトニ付キマシテハ、最モ公正ニ致スガケノ途ヲ講ズル必要ガアルト私ハ考ヘテ居リマス、而シテ其ノ方法トシテ物納ヲ宜イデハナイカト云フ御尋デアリマスガ、是モ亦私ハ御議論トシテハ決シテ反對ヲ致ス者デアリマセヌ、併シナガラ物納ヲ致シマス場合ニ於キマシテハ、可ナリ面倒ナモノガアリマス、相當準備モ致サナケレバナリマセヌ、又物納トシテ取りマシタ品物ヲドウ處分スル下カ、ドウ管理スル下カト云フヤウナコトモゴザイマス、殊ニ相續ヲ致ス場合ニ於キマシテ、或ル一定ノ區域ニ財産ガ限

定サレテアレバ宜イノデアリマスケレドモ、日本全國ノ各地ニ跨ガツテ財産ノ散在シテ居ルト云フヤウナコトモアリマスノデ、サウ云フ場合ニ於テ、其ノ物納ニシテヤリマシテモ、中々面倒ガ起ツテ來ルト思ヒマス、又例ヘバ、百坪ノ所ニ百坪ノ家ガ建ツテ、一軒ヨリ外ナイ、サウ云フ時ニ物納ト云フコトニナリマス、ドウ云フ風ニスルカト云フヤウナ問題ガ起ルノデアリマシテ、其ノ場合ニ於テハドウモ評價ヲ公平ニシテ、サウシテ負擔ニ耐ヘラレルヤウナ風ナ途ヲ講ズルト云フコトガ、一番問題デハナカラウカト思ツテ居リマス、兎ニ角物納ノ問題ニ付キマシテハ、私ハ非常ニ關心ヲ持ツテ居リマスガ、ソレヲ今直チニ實行ニ移サウト致シマシテモ私ハ行ハレナイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○川崎(克)委員 評價ノ適正ニ行ハレルト云フコトガアリサヘスレバ、物納ノ問題モ解消サレル、是ハ當然デアアル、所ガ評價ノ適正ガ行ハレナイ爲ニサウ云フ間違ガ起ル、評價委員會ヲ作レバ宜イノデ、評價委員會ヲ作ルト言ツタ所デ、ソレノ構成ニ付テ、評價委員會ヲ作ツテモ大藏省ノ息ノ掛ツタ人間ガ評價委員ニナレバ同ジコトナノデス、ソレヲ證明シテヤルニ過ギナイコトニナル、ソレヲ裏カラ見テ、評價ノ適正ヲ期スルヤウニ、誰ガ見テモ其ノ評價ガ適正デアラウト云フ場合ニ、俺ノ方ハ是ダケニ評價スル、間違ツタヲ引取ツテヤルノダ、斯ウ云フ所ニ初メテ評價ノ適正ガアル、百万圓シカナイモノヲ三百万圓ニ評價シテ置イテ、サウシテ税ダケハ取ルト云フヤウナヤリ方ハ、ソレハ不安ニ堪ヘナイコトニナル、其ノ代リニ物納ヲ認メルト云フ制度ハ、其ノ評價

ノ適正ナモノデアアル、大藏省ガ見タ眼ハ違ハヌノダ、評價委員會ニ掛ケナクテモ適正ナモノダ、ソレカラ損失ガ起ラヌノダト云フコトヲ裏カラ證明シテ、納税者ヲシテ安心セシメルト云フ制度ヲ置クト云フコトハ、是ハ最モ必要デアアルト思フ、今直チ行ヘヌト言ヒマスガ、今カラ法律ヲ作ツテオヤリニナレバ宜イ、今カラ其ノ方針デオヤリニナレバ宜イ、直グニ出來ナイと言ツテモ、ヤル方針ナラバヤレル、納税者ヲシテ不安ナカラシムルト云フコトガ必要デアアル、サウシテ公正ニ評價スルハ公正評價ト云フハ、役人ノ評價シタモノハ公正デアアルノダト云フコトニ、裏カラ證明スル方針ニ出ル、ソコマデ御考ニナツテ、此ノ劃期的ノ税制ヲ御布キニナル場合ニ於テ、是非ノヲ考慮シテ戴キタイノデスガ、考慮出來マスカ出來マセヌカ、ソレモ一ツ承リタイト思ヒマス

○櫻内國務大臣 物納制度ニ對シマシテハ、是ハ十分研究致サナケレバ、直チニ法律案ヲ出スト云フコトハ申上兼ネマスガ、兎ニ角直チニ之ニ對シマシテ、眞劍ニ研究ヲ致スト云フコトダケハ、私考ヘテ居ル次第デアリマス

○川崎(克)委員 眞劍ニ御考ニナルト云ツテ、ソレハ御考ニナルノハ結構ダガ、考ヘルダケデハ何モナラナイノデ、ソレヲ實行ニ移スト云フコトニ考ヘテ、サウシテ今カラ著手スルノダト云フコトニ考フ置イテ戴キタイ、サウ云フ意味デ御答辯ヲ御願致シタイ、ソレト一緒ニ伺ヒタイノデスガ、是ハ或ハ主税局長カラ伺ツテモ宜イト思ヒマスガ、税金ヲ損金ト見ルコトニ依ツテ國庫ノ收入減ガドレダケニナリマスカ、法人ト個人ノ場合ニ付テ御答願ヒマス、ソレカラ會

社ノ缺損ヲ前一年ヲ見テ居ルノデアリマスガ、之ヲ前三年ヲ見ルト云フヤウナ考ヘ方ヲスルトシテ、大體ノ數字ガ出マスカ出マセヌカ、若シソレガ出マスレバ承リタイ

○大矢政府委員 法人ノ所得、臨時利得稅ヲ經費ニ見ナイト云フコトニナツテ居ルガ、之ヲ經費ニ見ルガ爲ニ、ドレダケノ稅收入ノ減ニナルカト云フノハ、計算ガ困難デゴザイマスガ、相當巨額ニ上リマス、二億圓内外ノ減收ニナルカト思フノデゴザイマス、ソレカラ個人ノ場合ニ付テノ御尋ガアリマシタガ、個人ハ別ニ此ノ度改正シタ譯デハゴザイマセヌカラ、計算ハ致シテ居リマセヌ、ソレカラ一年前ノ會社ノ缺損金ヲ、當期ノ利益デ補填スルト云フ風ニスル結果トシテ、利益ノ減少額ハ一千万圓トナツテ居リマスガ、之ヲ三年ニ遡ラセテ幾ラニナルカト云フ計算モ、實ハ出來テ居ナイノデアリマス

○川崎(克)委員 ソレハ缺損ノ方ハ三年ニ遡ツテモウ一遍御調ヲ願ヘバ、直グ出ルダラウト思ヒマス、稅引ノ方ノ二億萬圓ト云フ數字、是ハ私非公式ニ承ツテ居ツタ數字デアリマスガ、此ノ二億萬圓ト云フ數字ニ私ハ疑フ持ツテ居ル、是ハ委員諸君モ大分疑フ持ツテ居ラレル、是ハモウ少シ内譯ヲ明確ニ承リタイ、二億萬圓ト云フ數字ノ出ル根據ハ何デアルカ、餘リニ數字ガ多過ギルト思フ

○大矢政府委員 法人稅、臨時利得稅ヲ經費ニ見ルコトニ依ル減收二億圓ト云フノガ、大キ過ギルト云フ御感ジヲ持タレルノハ御尤モト存ズルノデアリマスガ、御承知ノ通り、法人稅モ臨時利得稅モ、各、五億圓内外ノ稅收ニナツテ居ルノデアリマスカラ、

之ヲ損ニ見ルカ見ナイカト云フコトハ、會社ノ益金ノ計算上非常ニ影響スル所ガ多イノデアリマシテ、殊ニ臨時利得稅ヲ納メル方面ノ會社ニ於キマシテハ、之ヲ損ニ見ナイト云フガ爲ニ益ガ殖エテ、其ノ益金ハ所謂利得ノ方ノ上積ニナツテ、高イ稅率ヲ適用サレル方面ニナツテ來ルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ度ノ稅法改正ニ當リマシテハ、此ノ法人稅及ビ臨時利得稅ヲ經費ニ見ナイト云フ點ヲ考慮致シマシテ、其ノ結果稅率ヲ從來ノ如ク致シマスレバ、非常ニ法人ノ負擔ガ增加スルノデアリマシテ、ソレデ稅率モ大體據置ニ致シタ外、臨時利得稅ノ如キハ、從來新設法人ニ對シテハ資本金ノ年七分ヲ超ユル利益ニ對シ課稅シテ居タル、今度ハ撤廢スルトカ、稅率ヲ相當低メルトカ、各種ノ方法ニ依ツテ負擔ヲ緩和シテ居ル、ソレカラ其ノ期ノ臨時利得稅ヲ差引イタ殘リヲ、法人稅ヲ課稅スル課稅所得ニ見ルトカ、色々ノ考慮ヲ運ラシテ居ルノデアリマスガ、此ノ法人稅、臨時利得稅ヲ損ニ見ナイト云フノ損ニ見ルト云フコトニシテ、其ノ他ノコトハ改正案ノ通りニ計算スルト云フト、非常ニ法人ノ負擔ガ輕クナル、其ノ結果ト致シマシテ、改正案ニ依ル平年度ノ收入ニ對シマシテ、的確ニ計算ハ中々困難デアリマスケレドモ、大體二億圓内外ノ減收ニナルノデハナカラウカ、斯ウ考ヘテ居リマス、結局法人ノ負擔ガ現行法ノ下ニ於ケルヨリモ、寧ロ輕クナルト云フ結果ヲ來スノデハナカラウカト考ヘテ居リマス

○川崎(克)委員 主稅局長ノ仰シヤルコトハ私ニハ分ラナイノデスガ、私共餘リ能ク分ラヌノカモ知レマセヌガ、モツト簡單ニ要領

ヲ摘ンデ伺フト分ルカモ知レマセヌ、ドウモ多ク語ツテ而シテ要領ヲ得ラナイヤウニ言ハレテ居ル、ソレデハ數字ノコトデスカラ、分ルヤウニ一ツ表ヲ出シテ戴キタイ、サウスレバ分リマス

○櫻内國務大臣 只今ノ稅引ノ問題デアリマスガ、凡ソ二億圓内外ト申シマス、一寸考ヘルト是ハ多過ギルヤウナ風ニ見エマス、私モ左様ニ實ハ此ノ報告ヲ聽イテ感

シタノデアリマス、ソレハ主稅局長ガ申シマシタ通り、若シ其ノ稅引ヲ致スト云フコトニナリマス、今日ノ現行法ヨリハ少シク減稅ニナル結果ヲ齎シマス、ソレカラ今回ノ增稅ノ主タル點ハ、此ノ稅込ト云フ關係ニアリマス、其ノ結果ハ法人稅ダケノ何割カ稅額ニ掛ケマス、サウ云フ大キナ金額ニナリマセヌガ、臨時利得稅ニ於キマス、ソレガ非常ニ大キナ數字ニナリマス、色々サウ云フ場合ニ於ケル上ノ方ノ大キナ配當ヲ見テ居ル場合ニ於テ、ドウ云フ結果ニナルカト云フコトヲ、今調べテ居ル最中デアリマスガ、大凡ノ數字ハ二億圓見當デアリマス、若シ表ガ出來マスレバ、可ナリ困難ナ表ニナルカト思ヒマスガ、今調べ中デアリマス

○堀切委員長 ソレハ此ノ審議中ニ出來マスカ

○櫻内國務大臣 概略ノ表ハ出來ルト思ツテ居リマス

○川崎(克)委員 概略ノ表ヲ御出シテ願ツテ置キマス、簡單ニ伺ヒマスカラ簡單ニ御答願ヒタイ、超過所得稅ヲ臨時利得稅ニ入レラレテ居リマスガ、是ハ別ニスルコトガ當然デハナイカト見ルノデアリマス、超過所得稅ハモウ今日ニ於テハ戰時ト云フヨリモ

平常化シタヤウナ意味ニナツテ居ル性質ノ稅デアリマスガ、之ヲ臨時利得稅ノ中ニ入レルト云フコトハ、稅ノ性質上妥當デナイ、斯様ナ見方ヲ持ツテ居ルノデアリマス、大藏大臣ハ如何ニ御考ニナリマスカ

○櫻内國務大臣 臨時利得稅ト超過所得稅トハ、稍、其ノ性質ガ異リマス、之ヲ二ツ合セテ臨時利得稅ト致スコトニ付キマシテハ、多少ノ議論ガアルト思ヒマスケレドモ、併シナガラ其ノ性質ハ殆ド似タモノデアリマシテ、之ヲ二ツ置クコトニナリマスレバ、重複致ス點モアリマス、斯ウ云フ場合ニ於テハ之ヲ統一シテ、一ツノ稅ニシタ方ガ簡明ニナル、斯様ナ見地カラ致シタノデアリマス、尤モ此ノ臨時利得稅ハ、申スマデモナク臨時的ノモノデアリマスカラ、是ガ廢止致スベキ場合ニ於テハ、固ヨリ從來ノ臨時利得稅ノ含シタモノハ、除外致スベキデアリマスケレドモ、差當リハ之ヲ統合シテヤツテ置ク方が、重複スル煩モナケレバ、取扱ノ上ニ於テモ便利ダト云フ見地カラ、斯様ニ致シタノデアリマス

○川崎(克)委員 取扱ノ便宜ト簡明ニスルト云フコトカラ來テ居ルヤウナ御答辯デアリマス、超過所得稅ハ時局ノ波ニ乗ツテ儲ケタ臨時利得稅ト、性質ノ異ルモノガアルト思フノデアリマスガ、サウ云フ觀點カラ之ヲ分離スル必要ガアルコトヲ私共ハ認メル、其ノ點ハ大藏大臣モサウ云フ性質ノ所モアルト云フヤウニ御考ニナツテ居ルヤウデアリマスガ、ソレ以上追究致シマセヌ、大體委員長ニ御約束シタノハ一時間ト云フコトデアリマシタガ……

○堀切委員長 川崎君、尙ホ御述べ下サツテ宜イデス、アナタト他ノ人ノ質問ガ重複

スレバ、同ジコトヲスルノデスカラ略シテ戴キマスカラ、比較的長ク御述ニナツテ宜シウゴザイマス

○川崎(克)委員 私ハ德義ヲ重シジテ成タケ御約束シタ時間ニ止メタイト思ヒマス、物品稅ノコトニ付テ伺ヒタイノデスガ、物品稅ノ問題ニ付テハ、委員會大分議論モ盡サレテ居ル問題デアリマスガ、私モ一寸關聯質問ヲ御尋シタノデアリマス、ソレハ私共責任者ノ一人デアリマスカラ、ドウシテモアノ場合發言ヲ許サレナケレバナラヌヤウナ場合デアツタ、昨年政友會、民政黨ノ意見トシテ院議ニナツタ問題デ、物品稅トシマシテ茶デアルトカ、化粧石鹼デアルトカ、或ハ練齒磨ト云フヤウナ種類ノモノガ、又今年額ヲ出シテ居ル、是ハドウ云フ譯デ額ヲ出シタカト云フト、全體ノ物品稅ノ鈞合ヲ考ヘレバ、昨年ハアア云フ風ニナツタケレドモ、全體ノ稅法ノ改正ヲ行フ場合ニハ、ヤハリ其ノ鈞合上、此ノ下級ナ物ニモ稅ヲ課ケタ、是レ以下ノモノモアルノダカラ、課ケルノハ當然ダト云フヤウナ意味カラ來テ居ルヤウニ承ル、私ハ此ノ間モ例ヲ舉ゲテ言ツタノデス、石鹼ノ稅ハ百匁三十五錢ト云フ、十六七錢位ノモノモ大抵課カルト云フコトヲ申上ゲタノデスガ、化粧石鹼ノ最下級品ニ課カツテ居ル、サウ云フ所ニ稅ヲ課ケルト云フノハ、此ノ物品稅ノ目的デナイ、殊ニ昨年は大衆課稅デアルシ、此ノ最下級品ニ稅ヲ課ケルコトハ宜クナイト云フコトデ、各派ノ意見ガ一致シテ院議ニナツテ居ル、其ノ昨年院議ニナツタモノヲ今年又ヤツテ居ル、シカウメラシイ事ヲ申サユデアリマスガ、政治德義ノ上ニ於テ、ドウモ是ハ餘リ厚カマシ過ギルノ

事ヲ申サユデアリマスガ、政治德義ノ上ニ於テ、ドウモ是ハ餘リ厚カマシ過ギルノ

デハナイカト思フ、餘程心臓ノ強イヤリ方
ダト思ヒマス、ソレハ税ノ方デ行ケバ何デ
モ取ラナケレバナラヌト云フヤウナ理窟ハ
ドウデモ付キマス、是ハ恐ラク石鹼ノ百匁
三十五錢ハ理窟ガ付カヌト思フ、之ニ做ツ
テ是等ノ下級品ニ物品税ヲ課ケルコトハ宜
クナイ、昨年はハ決マツク問題デアラガ、
容易ナラザルコト決マツク、三日間モ之
ヲ折衝シテ、採ミニ採ンデ最後ノ結論ガコ
コヘ來テ決マツタト云フコトハ、主税局長
モ國稅課長モ能ク御承知デス、ソレヲ御出
シニナルト云フハ、餘リニ厚カマシ過ギ
ルノデアラガ、是ハドウシテモ御引込メニ
ナル方ガ宜カラウ、御引込メニナラナケレ
バ、コチラノ方然レバ御話ヲ申上ケル、
斯ウ云フコトニナルノデアリマスガ、是ハ
ドウ御考デスカ

○大矢政府委員 昨年ハ御話ノ通り、臨時利
得税、物品税ヲ中心トシタル増税デアリマ
シテ、増税ノ額モ比較的少カツタノデアリ
マス、今年ハ所得税ヲ中心ト致シテハ居リ
マスルガ、其ノ外消費税等、各種ノ税ニ互
リマシテ、全般的ニ相當増徴ニナツテ居リ
マシテ、増税ノ額モ五億程度ニナツテ居ル
ノデアリマス、織物消費税ノ如キハ、昭和
十二年ノ臨時増徴法以來更ニ増税シナカ
ツタガ、此ノ度ハ増税スルコトニシテ居リ
マス、斯ウ云フコトモアルノデアリマスカラ、
昨年提案致シマシテ議會ニ於テ修正削除致
サレマシタガ、之ニ付テモウ一遍檢討シテ
見マシテ、院議ノ在ル所モ十分尊重シテ積
リデアリマス、他ノ方面ト均衡ヲ圖リマシテ、
昨年ヨリ免稅點等、或ハ課稅範圍等ニ於キ
マシテモ、相當之ヲ變更致シマシテ、サウシテ
或ル程度ノ課稅ヲシヨウ、斯ウ云フ風ニシ

久ノデアリマシテ、院議ハ十分尊重シテ積リ
デゴザイマス(森田委員)出シテ居ルノガカラ、
尊重シテ居ナイデヤナイカト呼フ)昨年ノ
増税モ、此ノ度何モノモ増税セズシテ茶、
齒麩、石鹼ノミヲ課稅スルコト云フノ提案
致シマスレバ、私ハ全ク院議ヲ無視シタモ
ト云フ非難ヲサレテモ、甘受シナケレバ
ナラヌト思ヒマスケレドモ、サウ云フ趣旨
デナクテ、十分院議ヲ尊重致シマシテ、他
トノ權衡上此ノ程度ハ已ムヲ得ナイモノト
考ヘタ次第デゴザイマス

○川崎(克)委員 今ノ主税局長ノ答辯ハ全
然答辯ニナツテ居ナイ、院議ヲ御尊重ニナ
ルナラバ、昨年通りニ御控ヘニナルノガ當
然ナンデス、物品税金全體ニ付テ忌憚ナク
言ヘバ、物品税ノ中デモ是等ノモノヲ主要
ニシテ出テ來テ居ル、是等ノモノヲ主要ニ
シテ出テ來テ居ルノデスカラ、サウ云フコ
トヲ仰シヤツテモ答辯ニナリマセヌ、ナリ
マセヌシ政治德義ニ私ハ悖ルト思フ、院議
ヲ尊重スルコト云フ其ノ本當ノ精神ガオアリ
ニナルナラバ、ソレハモウ引込メラレタラ
宜シイ、併シモウソレ以上ハ私ハ追究致シ
マセヌガ、答辯ニハ全然ナツテ居ナイ、ソ
レカラ遊興飲食税ノ中デ「カフエ」「パー
」ノ問題ガ問題ニナツテ居ルノデアリマス
ガ、是ハ免稅點ヲ置クノハ、實ハ「カフエ」
「パー」ト云フモノハ一體其ノ遊興ガ目的
ト云フノデ、税ヲ課ケルコト云フ趣旨カラ來タ
ノデアラウト思フガ、是ハ吾々モ遊興税ヲ
置ク以上ハ、其ノ遊興ガ主ニナツテ居ナケレ
バイケナイ、斯ウ云フヤウニ思フノデスカ、
之ヲ段々細カク調べ見ルト、極ク最下級
ノ「カフエ」「パー」式ノモノアル、是ハ
適當ノ免稅點ヲ置クノガ宜イノデハナイカ

ト云フ論ガ起ツテ居ルノデアリマスガ、之
ニ付テハ色々免稅點ヲ置クナラドウ云フ
設備ノモノニ課稅ヲスルカト云フコトハ、
大體當局ニ於テモ御調べニナツテ居ラレ
ヤウニ思フ、デスカラシテ若シ御案ガアル
ナラバ、此ノ際其ノ案ヲ承リタイ
○大矢政府委員 大體使用シテ居ル人ノ數
ニ依ツテ區分スルノガ、適當カト存ジテ居
リマス、五人程度ヲ限界ニ致シタイト思フ
ノデアリマス

○川崎(克)委員 使用人ノ五人ト云フ所ニ
限定ヲ置ク、サウスルト金額デハナシニ人
デ抑ヘテ行ク、斯ウ云フ御考ト承知致シマ
スガ、左様デアルト云フト四人以下ノ所ハ、
税ガ課カラヌカラ遊ビニ行ク、五人以上ノ
所ヘハマア遊ビニ行ケバ税ガ課カルノダ、
斯ウ云フコトニナツテ來マスガ、ソレハ人
ノ數ガ少イカラ遊興ガナシ、人ノ數ガ多イ
カラ遊興ガアルト云フノハ、少シ性質ノ上
カラ違フノデハナイカト思ヘル所ガアル、
金額デ押ヘレバ、幾ラカ遊興ノ精神ヲ抑ヘ
ル、斯ウ云フコトニナリハセヌデセウカ、
ソコノ所ノ見方ハドウツチガ宜イノカ、私ノ
今承ツタ五人ト云フモノニ限界ヲ置クトス
ルト、ソコニ精神論ノ貫カヌモノガアルヤ
ニ、一寸思ヘルノデスカ、如何デスカ

○大矢政府委員 理論的ニハ川崎サンノ仰
ジヤルノモ、十分私ハ御尤モト存ジマスケ
レドモ、實際問題ト致シマシテ度々申上ゲ
テ居ルノデアリマスガ、金額ヲ以テ切ルト
云フノハ、此ノ種業態トシテハドウモ不適
當ナノデアリマス、東京市等ニ於テ歡興稅
トシテ施行シテ居ルモノヲ見マシテモ、寧
ロ人デ區分ヲスルト云フノガ趣旨ニナツテ
居ルヤウデアリマシテ、昨年モ稅制ノ委員會

ニ於テ問題ニナツタノデアリマスガ、「チッ
プ」等ノ調査ハ、實際問題トシテ不可能
ノヤウナ狀況ニナツテ居ルト云フノデアリ
マスカラ、金錢デ切ル譯ニハ行カヌ、併シ
ソレデハ全然免稅點ナシニ行ツタラドウカ
ト云フト、御示シノヤウニサウ奢侈的トモ
思ハレナイ所マデモ、課稅ヲ及ボスト云フ
弊ガアリマスノデ、慎重ヲ期スル爲ニ、全
國ニ互リマシテ十分資料ヲ蒐集致シマシテ
檢討ヲ加ヘマシタ所、大體五人程度ヲ限界
ト致シマスレバ、皆様方ノ御心配ニナツテ
居ルヤウナ地方ノ、所謂名バカリ「カ
フエ」トカ言ハレル、「カフエ」ト云フテモ
寧ロ實質ハ寧ロ一般食堂ニ類スルヤウナモ
ノハ、殆下大部分此ノ稅ヲ施行セラレル圍
外ニ出テシマフノデアリマシテ、關東地方
ヲ調べ見マシテモ、斯ノ如ク致シマスレ
バ東京以外ノ地方ニ於テハ、一縣ニ於テ五
六軒カ、或ハ十數軒ト云フモノニ止マリマ
シテ、サウ云フ所ハ行ツテ見ルト、正ニ奢
侈的ノ場所トシテ課稅致シテ差支ナイ狀況
ニナツテ居ルト云フノデアリマシテ、是ハ
寧ロ理論ヨリモ實情ヲ見テ、其ノヤウニ致
シタイト考ヘテ居リマス

○川崎(克)委員 其ノ問題ハ其ノ程度ニシ
テ、ソレカラ入場税中撞球場ノ入場稅ヲ百
分ノ十ヲ二十ニサレタノデアリマスガ、是
ハヤハリ遊興ト云フヤウナ意味カラ來テ居
ルノカ、私ハ撞球ナドハ其ノ中ニ入ラナイ
ト思ヒマスガ、玉突ヲ遊興ト見ルガ宜イカト
云フ點モ考ヘナケレバナラヌト思フノデス
ガ、是ハ一ツノ運動デアルト云フヤウニモ見
ラレル、同時ニ此ノ玉突場ト云フモノノ經營
モ場末邊リニアル玉突場ト云フモノハ、稅
ヲ負擔シテ現在デモ大分苦シクナツタト思

ヒマス、玉突場が大變少クナツタ、玉突場ヲナクシテシマフト云フノモ一ツノ見方カモ知レマセヌガ、ソコマデ行クト少シ行過ギルノデハナイカ、此ノ稅ハ一寸性質論カラ申シテモ行過ギルヤウニ考ヘラレルノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ御伺致シタイ

○大矢政府委員 撞球場ニ類似スルモノニ對スル課稅デゴザイマスガ、是ハ別ニ奢侈ト云フ意味デハナイノデアリマスガ、兎ニ角撞球場ニ行ツテ或ル程度ノ料金を支拂フ、サウ云フ者ハ其ノ出入ノ際ニ、或ル程度稅ヲ負擔シテ戴カウ、斯ウ云フ趣旨デゴザイマス、例ハバ「ゴルフ」場ノ如キモ遊興トハ申サレナイノデアリマスケレドモ、ヤハリ其處ニ出入スル者ハ相當ノ負擔力ガアルトシテ課稅シテ居ルノデアリマスガ、是ハ奢侈的ノモノデアルカラ課稅スルト云フ趣旨デハナイノデアリマス、或ハ勞働者等ノ行ク方面ニアリマシテハ御説ノヤウナコトモアルカトモ存ジマスケレドモ、大體全體ヲ通觀シテ見マシテ、ソレカラ是等ノ料金及ビ此ノ稅率ト云フヤウナ點ヲ考ヘテ、此ノ程度ハマア辛抱願ヘルデハナカラウカト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○川崎(克)委員 時間ヲ取りマスカラ簡單ニ要領ダケ申シマスガ、内務大臣ハ見エマセヌカ

○堀切委員長 内務大臣ハ本議場ニ答辯ノ爲ニ參リマシタ

○川崎(克)委員 ソレデハ私内務大臣ニ御尋スル問題ガ二ツダケアツテ、極ク簡單ニ濟ミマスカラ後デ御許ヲ願ヒタイト思ヒマス、他ノ方ガ出マシタラソレデモ宜シウゴザイマス、ソレカラ商工大臣ニモ私一問ダケアリマス、ソレハ後デ若シ適當ナ機會ニ商

工大臣御出デニナレバ伺ヒタイ、是モ皆合セテ五分モアレバ宜イト思ヒマス、ソレヲ他ノ諸君カラ御尋ガアリマシタラバ私ハ差控ヘマス、尙家屋稅デスガ家屋稅ニ於テハ私立圖書館ハ同法第三條ノ規定デ免除サレルコトニナルノデアリマスガ、之ヲ伺ヒマス

○田中政府委員 家屋稅ノ免除ニ付テハ、命令ニ依ツテ定メル部分ガ相當アリマスカラ、是ハ今御話ノ私立圖書館ニ付テモ、命令制定ノ際十分考慮スルコトト致シマス

○川崎(克)委員 私ノ質問ハ是ダケデアリマス

○立川委員 一寸川崎君ノ御要求ニナツタ資料ニ付テ……先刻川崎君ヨリ分類所得稅ニ付テ、基礎控除ヲ高メタ場合ノ減收ヲ御要求ニテリマシタガ、川崎君ノ御要求ニナツタノハ四百圓ヲ六百圓、六百圓ヲ八百圓ニシタ場合デスガ、ソレヲ一律ニ八百圓ニ高メ、ソレカラ不動産所得ノ免稅點百圓ト云フモノヲ、三百圓ノ基礎控除ニ改メタ場合ノ數字ヲ、御示シテ願ヒタイト思ヒマス

○堀切委員長 ソレデハ次ニ高橋君ニ願ヒマス、只今川崎君カラ御質問ニナリマシタ點ハ、同ジ意味ノモノデゴザイマシタラバ、川崎君ガ代表サレテ爲サレタモノト、斯ウ認メマスカラ、サウ云フ重複ノ點ハ除イテ、其ノ他ノ點ダケヲ御質疑ヲ願ヒマス——高橋君

○高橋委員 同ジコトヲ繰返シテモイケンアイデセウカラ、前後スルヤウデアリマスガ、斯ウ云フ場合デアリマスカラ、先ヅ初メニ後ノ方デ申上ゲルコトヲ先ニ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、此ノ度ノ稅制整理ハ色々ナ意味デ劃期的ノ大改革案ト思ツテ、吾々ハ大イニ之ヲ歡迎スルト共ニ、熱心ニ吟味シツツアルノデアリマスルガ、如何ニ平衡ヲ期スルトカ、負擔ノ均衡ヲ圖ルトカ、或ハ經濟政策トノ調整ヲ圖ルヤウニ考慮シタトカ、生産擴充ヲ妨ゲナイヤウニスルトカ云フヤウナ色々ナコトヲ申サレテモ、兎ニ角稅ヲ高クスルト云フコトニナレバ、僅カナ行過ギモ非常ニ大キナ影響ヲ及ボス、斯ウ云フヤウナコトヲ考ヘラレルノデアリマス、而シテ將來ニ向ツテ伸縮性ガアルト云フコトヲ度々繰返サレ、又此ノ改革案ニ對スル趣旨説明ノ上ニモ織込マレテ、度々御説明ニナツタノデアリマス、時局ハドウ云フ變化ヲ來スナドト云フコトハ、誰モガ之ヲ豫言スルコトガ出來ナイ今日ニアツテ、將來增稅ガ行ハレルカモ知レヌト云フコトハ期待シナケレバナラナイト、吾々ハ考ヘテ此ノ稅制ノ討議ニ當ツテ居ルノデアリマスガ、サウ云フコトヲ考ヘマス、生産擴充ト云フコトハ、稅ノ増徴ト云フコトモ大切デアリマセウガ、ソレニモ越シテ、物資ヲ豐富ニスルト云フコトハ、尙ホ大切ナコトハ毎日々々世間ニ繰返サレ、各方面ニ、又各人ニ依ツテ叫バレテ居ル通りト、私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、殊ニ今回ノ稅制改革案ニ依リマス、其ノ增稅ノ目標ト云フモノハ的確デハナイ、斯ウ云フコトハ數次ノ委員諸君ノ御質問ニ依ツテ明ニナツテ居ルノデアリマス、公債増發、之ニ

對スル……

○堀切委員長 高橋君ニ注意致シマスガ、議論ハマダ抜キニシテ戴キマシテ、質疑ノ點ダケヲ簡單ニ……

○高橋委員 承知致シマシタ、前段デアリマスカラ一二分間我慢ヲ願ヒタイト思ヒマス——議論ヲシテ居ル譯デハアリマセヌガ、サウ云フ意味ニ於テ私共ハ稅制ニ付テ措置ヲ巧妙ニヤラナケレバナラス、斯ウ考ヘル、ソコニ臨時措置法ト云フモノヲ運用スル妙味ガアルト、私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、臨時措置法ヲ巧ミニ利用スルコトニ於テ、只今私ノ申上ゲタヤウナ趣旨ガ徹底スルト云フコトヲ考ヘテ居ルノデ、色々ナ弊害ヲ伴フ、殊ニ生産擴充ヲ妨ゲル、或ハ國民ノ生活ヲ不安ナラシムルト云フヤウナ方面ハ、此ノ臨時措置法ヲ運用スルコトニ於テ十分緩和ガ出來ルノダ、此ノ御用意ガ洵ニ足りナイヤウニ考ヘルノデアリマスガ、先ヅ將來是等ノ點ニ付テ、相當ノ御考慮ガアル筈ダト思ツテ居リマスガ、是等ニ付テノ御用意ノアル點ヲ、豫メ承ツテ置キタイト思フノデアリマス

○櫻内國務大臣 只今高橋君ノ御話ニ付キマシテハ、要スルニ臨時措置法ニ於テモ、相當稅制ヲ緩和スル點ニ付キマシテ、考慮致シテ居ルノデアリマシテ、御趣旨ニ對スル所ノ措置ト致シマシテハ、適當ナ措置ヲ執ラナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、今ソレニ對シマス細カイ事ニ付キマシテハ政府委員カラ答辯致サセマス

○大矢政府委員 目下生産力擴充ハ我國ノ産業界ニ最も重要ナコトニナツテ居リマスノデ、之ニ對シテ其ノ稅制上モ相當考慮シナケレバナラヌト云フコトハ、仰セノ通り

對スル……

對スル……

對スル……

對スル……

デアリマス、隨ヒマシテ臨時租稅措置ニ於
キマシテモ、或ハ法人ノ留保所得ヲ生産設
備ノ擴張等ニ運用シタル場合ノ課稅ノ輕
減ノ程度ヲ、或ル程度擴張致シマストカ、
ソレカラ同族會社ニ對スル加算稅ノ制度ヲ
改正致シマシテ、事業會社ニ對スル負擔ヲ
緩和スルトカ、或ハ海外企業ノ所得ニ付テ
稅率ヲ輕減スルトカ致シマシテ、又扱ヒノ
上ニ於キマシテモ、固定資産ノ減價償却ニ
付テ、更ニ再檢討ヲ加ヘルト云フヤウナコ
トニ致シタイト存ジテ居ルノデアリマス、
尙ホ其ノ外ニ於キマシテモ所得稅法、法人
稅法等ニ於キマシテ、重要物產製造業ニ付キ
マシテハ、開業ノ年カラ三年間免稅スルト
云フ規定ヲ設ケマシテ、其ノ製造業ノ種類
ハ、隨時勅令指定シ得ル仕組ニナツテ居
リマシテ、是ノ活用ニ依リマシテ十分ニ租
稅上ニ於テモ、生産擴充ノ目的ニ副フコト
ガ出來ルヤウニナツテ居ルト存ジテ居リマ
ス。

○高橋委員 只今御學ニナツタノデアリマ
スガ、國民ノ要求スル極ク一部分デアリ、
殊ニ非常ニ輕イ方法ヲオヤリニナツテ居
ル、ソノナコトデハ前段ニ御述ニナツタ目
的、私ノ申上ゲタ目的ナドハ達成シ得ラレ
ナイ、ソレデ生産擴充ガ十分ニ行ハレルナド
ト云フコトハ、私ハ出來ヌト考ヘテ居リマ
ス、殊ニ御學ガニナツタ同族會社ニ於テ、
事業ヲ主トスル方面ニ於テハ、加算稅ヲ手
加減シタト云フヤウナコトヲ擧ゲラレマシ
タガ、之ニシテモモウ少シ私ハ考慮ノ餘地
ガアル問題デハナイカト、斯ウ考ヘテ居リ
マス、殊ニ一面ニ於テハ配當ヲ制限致シテ
置イテ、留保シタモノニ對シテ重稅ヲ課ス
ル、加算ヲスルト云フヤウナコトハ、時局

ノ生産ヲ助長スルト云フヤウナ意味ニ於ケ
ルヤリ方デハ決シテナイ、斯ウ云フヤウニ
考ヘマス、是ハ私ノ一ツノ例ニ過ギナイノ
デアリマスガ、斯ウ云フ方面ハドウ云フコ
トニ考ヘラレルカ、一方私ハ今御言葉ガア
ツタカラ其ノ例ヲ捉ヘタノデアリマスルガ、
其ノ他ニ於テモ配當ヲ配當制限令ニ於テ制
限シテ置キナガラ、今度ハ留保シタ、積立
テタモノニ對シテ重稅ヲ課スルト云フ方法
ハ、不合理デハナイカト云フヤウナコトヲ
考ヘテ居リマスガ、一應之ニ付テノ御所見
ヲ承ツテ置キタイ

○大矢政府委員 國家總動員法ノ發動ニ依
ツテ、配當ノ制限サレテ居ルヤウナ事業會社
ニ對シマシテハ、加算稅ノ適用ハ致サナイ
積リデゴザイマス、其ノ外留保所得ニ對シ
マシテ、特ニ稅ノ負擔ヲ重カラシメテ居
ルト云フコトハゴザイマセヌ

○高橋委員 私ハサウ考ヘテハ居リマセヌ
ガ、是等ニ付テハ他日又論議ヲスルコトモ
ゴザイマセウカラ此ノ程度ニ致シテ置キマ
ス、臨時措置法ヲモウ少シ——モウ少シデ
ハナイ、大イニ運用シテ相剋摩擦ノ少イヤ
ウニ、此ノ増稅ニ依ル弊害缺陷ト目サレル
方面ヲ緩和サレルヤウニ、御考慮アラコト
ヲ此ノ場合ニ希望シテ、此ノ點ハ是デ止メ
タイト思ヒマス

モ四百圓程度マデ之ヲ擴張シテ行カケレ
バナラスノデハナイカト云フヤウナコトモ
考ヘテ居リマスカラ、此ノ四百圓程度ニ引
上ゲタナラバドウ云フ數字ガ現ハレルカ、
其ノ邊ノ御計算ヲ願ツテ見タイト思ヒマス、
事業所得ニ於ケル六百圓、勤勞所得ニ於ケ
ル八百圓、ソレカラ稅率ノ方面ニ於キマシ
テモ不動產ノ所得ハ百分ノ十ト云フノガ重
過ギル、不動產ニ對シマシテモ、少額所得
者ニ於テハ非常ナ重イ負擔デアリ、又色々
ナ特例モアリマシテ、之ニ重點ヲ置イテ生
活ヲ支ヘテ居ル者モアルノデス、サウ云フ
意味ニ於テ之ヲ八%程度ニ下ゲタ場合ニ
ハ、ドレダケ稅收ガ減ズルカト云フ御計算
モ願ツテ置キタイト思ヒマス

ソレカラ事業所得ニ於キマシテハ甲乙ト
分レテ居リマスガ、甲ノ八・五ヲ七・〇ニシタ
ナラバ、ドウ云フ差ガ生ズルカ、又乙ノ所
得ガ七・五、之ヲヤハリ七・〇ニ下ゲタナラ
バ、ドウ云フ數字ガ茲ニ現ハレルカト云フ
コトモ、一ツ御計算ヲ御示願ヒタイ、以上
是等ノ計算ノ御示ヲ願ツテ置キマス、此ノ
數字ニ付テハ是ハ假定的ノ數字デアリマス
ルガ、之ヲ基礎トシテ色々考慮シテ見タイト
思フノデ、是等ノ點ヲ御調査願ツテ置キ
タイト思フノデアリマス

テ置キタイト思ヒマス

株式ノ配當ニ付テノ問題ハ川崎君ト同一
ナル主張ヲ致シ、其ノ要求モ同一デアリマ
ス、保險料ハ二百圓以下ノ保險料ヲ控除ス
ル、是ハ現行ノ通りデアリマスガ、是モ川
崎君ノ主張ト同一ナル主張ヲ以テ、政府ノ
御考慮ヲ願ヒ、又ソレニ對スル表等ヲ御示
ヲ願ヒタイト思ヒマス

尙ホ貯蓄銀行ノ預金並ニ産業組合ノ貯蓄
預金其ノ他類似ノモノデアリマスガ、産業
組合等ニ於テハ非常ナ議論ガ闘ハサレテ居
リ、又深刻ナ質問ガ度々繰返サレタノデア
リマスルガ、斯ウ云フモノハ貯金ヲ獎勵ス
ル、貯蓄ヲ獎勵スルト云フ場合ニ於テハ、
是等ニ課稅ヲセザルコトガ適當デハナイカ、
斯ウ思ハレル、銀行ノ貯蓄預金、産業組合
ノ貯蓄預金、又是等ニ類似スルモノニ課稅
シナイ方ガ宜イノデハナイカ、斯ウ云フコ
トヲ考ヘマスガ、之ニ對スル政府ノ御所見
モ承ツテ見タイト思ヒマス、尙又……

○堀切委員長 ソレデハ餘リ長クナリマス
カラ、一先ソレヲ聽イテカラ、又質問致
シタラ如何デスカ

○高橋委員 ソレハ時間ヲ節約シヨウト思
ツテ端折ツタノデアリマスガ、ソレデハ以
上ニ對スル政府ノ御所見ヲ、先ツ伺ツテ置
キタイト思ヒマス

次ニ所得稅ノ方面デアリマスガ、先程川
崎君ガ御述ニナツタ不動產所得或ハ勤勞所
得ニ付テ、基礎控除ヲ高メタ場合ハドウデ
アルカト云フ事項ニ付テ、私共ハ同様ノ主
張ヲ持ツテ居ル者デアリマス、更ニ其ノ不
動產所得ニ於キマシテハ、基礎控除ハドウ
モ百圓ヤ二百圓程度デハ、實際ノ國民ノ生
活、活動ノ上ニハ足りナイ、是ハドウシテ

○櫻内國務大臣 只今御註文ニナリマシタ
ヤウナ計算書ハ、出來マス限リ差出シタイ
ト思ツテ居リマス、ソレカラ今最後ニ御述
ニナリマシタ産業組合並ニ貯蓄銀行ノ貯金
等ニ對スル課稅ノ問題ハ、川崎君ノ御意見
ノ中ニアリマセヌデシタガ、此ノ問題ニ付
キマシテハ今日ノヤウナ場合デアリマスガ
ラ、ヤハリ本案程度ノ課稅ハサセテ載キタ

ハ六%ニスル、斯ウ云フコトデアリマスガ
レドモ、千圓程度ト云フモノハ極ク微弱ナ
モノデアリマシテ、今日ノ實情ニ於キマシ
テハ、ドウシテモ是ハ千圓ヲ三千圓程度位
マデ高メナケレバナルマイ、斯ウ云フヤウ
ナ感じモ致スノデアリマスガ、若シ三千圓
程度マデ之ヲ高メテ見タナラバ、其ノ減收
ハドウ位ニナルカト云フコトモ御調ヲ願ツ

イ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○高橋委員 一時恩給ト退職給與デアリマスガ、之ニ對シテハ更ニ基礎控除ヲ設ケル必要ガアルト思ヒマス、吾々ハ五千圓程度位ノ基礎控除ヲ認メタラドウカト云フ感シモ致スノデアリマスガ、是等ニ對スル一應ノ御所見ヲ承ツテ見タイト思ヒマス

○大矢政府委員 一時給與ニ付キマシテハ、從來モ五千圓ハ控除シテ居リマシテ、今度ノ改正案ニ於キマシテモ其ノ點ハ變更致シテ居リマセヌ、基礎控除五千圓デゴザイマス

○高橋委員 實ハ五千圓ト申シタノハ私ノ言ヒ間違デアリマシテ、私ノ考ハ、一万圓程度ト云フノ間違ヘテ質問シタノデアリマスガ、一万圓程度ノ基礎控除ヲ認メタラドウカ、斯ウ云フ意味デアリマス

○大矢政府委員 五千圓ヲ以テ適當カト存ジテ居リマス

○高橋委員 ソレハ意見ノ相違デアリマスカラ、是以上ノ論議ハ他ノ機會ニ譲リ、此ノ程度ニ致シテ置キマス、水産所得ニ付キマシテハ、水産業ハ元來水揚ガ年ニ依リ非常ニ不同デアリマシテ、或ハ三年、五年ト云フモノ、不漁ガ續クト云フヤウナ、斯ウ云フヤウナ、魚類ノ交游關係モアリマシテ、非常ニ收穫ガ不同デアルト云フヤウナ所ニハ、特別ノ考慮ヲ拂ハレベキモノト考ヘテ居ルノデアリマスガ、是等ニ付テ簡單デ宜シウゴザイマスカラ、一應ノ御所見ヲ承リタイト思ヒマス

○大矢政府委員 總テ前年ノ實績ニ依ツテ課稅スルト云フ風ニナツテ居リマスカラ、丁度一年遅レニナツテ行クカラ差支ナイノデハナカラウカト考ヘテ居リマス

○高橋委員 去年獲レタモノニ對シテト云フ觀念ハ、前年度ノ實績ニ付テ、今年ハ獲レヌデモ課稅スルト云フ觀念ハ面白クナイ、殊ニ斯ウ云フ水物ノ收穫ノ業トシテ居ル漁業家ニ於テハ、非常ニ重イ負擔ヲ思フノデアリマスガ、モウ一應ノ御考慮ヲ煩ハシテ置キタイト思ヒマス

ソレカラ勤勞所得ニ付キマシテ、收入金額ニ依ルト云フコトニナツテ居リマスルガ、定額旅費ノ問題ガ度々問題ニナツテ居リマシタガ、此ノ定額旅費ニ付テ吾々ハ尙ホ政府ノ御所見ヲ、ハツキリ承ツテ置ク必要ガアルト思フノデアリマスルガ、定額旅費ハ、勤勞所得トシテ之ヲ算入スベキモノニアラズト、吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマスルガ、政府ハドウ云フ御所見ヲ持ツテ居ラレマスカ

○大矢政府委員 定額旅費ト申シマス、其ノ内容ハドウ云フノデゴザイマセウカ、旅費ハ從來課稅シテ居リマセヌ、今度ノ改正案ニ依リマシテモ、旅費ハ課稅致サナイ、斯ウ云フコトニナツテ居リマス

○高橋委員 定額旅費ハ課稅シテ居ラナイ、是モ委員會ニ於テ當局トノ間ニ屢々問題ニナリ、一時ハ議員ノ歳費ノ如キモノハ、之ヲ旅費ナリト言ハレタコトモアル、又定額ニ於テ支拂ヘバ旅費ト雖モ算入スルト云フヤウナ御意見ガアツタリ、ソコハ區デアツタト思フノデアリマスルガ、旅費ノ性質ヲ帯ビテ居ルモノハ、旅費ト御決定ニナル、斯ウ云フヤウナ御考ガアルノデアリマスガ、又定額ト云フコトト、ソレカラ定額デナイモノトノ間、差等ヲ設ケラレルカト云フヤウナコトモ、考ヘラレルノデアリマスガ、定額デアアル旅費、旅費ト言ヘバ定額

デナイモノモ無論含ムデアリマセウガ、議員ノ歳費ノ問題等ハ他ノ議員カラモ申述ベマシタカラ、私ハ諄々ト申上ゲマセヌケレドモ、餘リ自分ニ密接ニ關係アル論議スルコトハ遠慮スベキデアルト云フコトデ、皆様ガ控ヘテ居ラレルカラ、私ガ特ニ此ノコトヲ申上ゲルノデアリマスルガ、議員ノ旅費ノ如キモノハ良イ適例ダト考ヘルノデアリマシテ、此ノ問題ハ考慮スル、考慮スルト云フ儘ニナツテ居リマスルシ、過日ノドナタデアリマシタカノ御質問ノ中ニアツタヤウニ記憶致シテ居リマスガ、マダ當局ニ於カレテ御考慮ノ儘デアツタト思フノデスガ、此ノ場合ニ御所見ヲ承ツテ見タイト思ヒマス

○大矢政府委員 定額旅費ト云フノハ、一寸私實例ガドウ云フノデアルカ、能ク分リマセヌガ、今度ノ改正案ニ於キマシテ、費用辨償ノ中デ定額デ以テ支給スルモノハ、他ノ勤勞所得同様ニ課稅スルト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、是ハ東京市等ニモアリマシテ、年ニ一千圓トカ、二千圓トカ費用辨償ノ名前デ、定額デ支給シテ居ルノデアリマシテ、其ノ實質ハ衆議院議員ノ歳費ト同様ダト存ジマシテ、此ノ度課稅スルコトニ致シタノデアリマスルガ、是モ從來扱ヒノ上デ或ル程度課稅シテ居タモノヲ今度法文化シタ次第デアリマス

ソレカラ衆議院議員ノ歳費ニ付テデアリマスガ、是ハ過日モ本委員會ニ於テ問題ニナツタノデアリマスルガ、此ノ性質ハ旅費ナリヤ否ヤト云フ點ヲ問題ニセラレテ居ルノデアリマスガ、私共實ハ旅費ナリト云フ風ニモ考ヘテ居ナイ次第デアリマシテ、二三年前議會ニ於テ問題ニナツタ場合ニ於キマシテモ、寧ロ旅費トシテデハナク、或ハ

是ハ普通ノ給與ト違ヘテ、必要經費ト見テ課稅スベキモノデハナカラウカト云フコトデ、其ノ點ハ一ツ考究シテ見タイ、斯ウ云フコトヲ其ノ當時御答シテ居タノデアリマス、此ノ度其ノ點ヲ考究シテハ見マシタケレドモ、中々ドノ程度ガ必要經費ナリヤト云フコトヲ、個々ノ場合ニ見ルト云フノハ頗ル困難デゴザイマスルノデ、從來通りニ一般ノ勤勞所得ト同様ノ扱ヒヲスルヨリ外ナカラウト云フノデ、從來通りニ致シテ居ル次第デゴザイマス

○高橋委員 只今議員ノ歳費ノ問題ヲ申上ゲマシタガ、ドウモ之ヲ所得トシテ所得稅ヲ課ケラレル以上ハ、ヤハリ之ヲ旅費ニアラズ、一ツノ報酬ト見ラレルナラバ、ヤハリ議員ノ滞在費ト云フモノヲ支給サレナケレバナラヌト、私共考ヘルノデアリマス、之ニ對スル御所見ヲ簡單ニ伺ツテ置キタイ、定額旅費ト云フモノハ、地方ノ農會デアルトカ、産業團體トカデハ其ノ都度ニ旅費ヲ拂フト云フコトハ手續上手數ガ重ナルト云フノデ、月ニ二十五圓トカ三十圓トカ、又上級ノモノハ五十圓トカ、稀ニハサウ云フノデアリマス、サウ云フ定額旅費ヲ支給スルト云フコトニナツテ居ル、サウスルト此ノ例ニ依リ、又他ノ實費辨償ト云フヤウナ場合ノ例ニ依リマシテ、之ヲ所得トシテ加算サレルト云フコトニナレバ、地方ノ産業團體ニハ非常ニ大キナ衝動ヲ起スコトト思フノデアリマス、此ノ點ニ付テ一應御所見ヲ承リタイ

○大矢政府委員 定額旅費ト云フノハ今聽イテ見マス、地方ニ相當アルサウデアリマス、是ハ要スルニ旅費ヲ或ル金額デ切ツテ居ルガ、大體實費辨償ノ趣旨デ支給シテ

居ルモノデゴザイマスカラ、之ニ對シテハ課稅致シマセヌ

○高橋委員 先キノ議員ノ滞在費支給ト云フヤウナコトニ付テハ、ドウ云フ御考デアリマス、是ハ大藏大臣カラ一ツ……

○櫻内國務大臣 議員ノ歳費ノ問題デアリマスガ、是ハ御承知ノ通り、歳費トシテ支給致シテ居ルノデアリマシテ、元來カラ申セバ、地方ノ人ガ東京ニ來テ居ラレルノデアリマスカラ、東京ノ宿賃ト云フヤウナモノヲ認メルカ、認メナイカト云フヤウナ問題ガ起リマスガ、支給致シテ居リマスノガ、所謂歳費トシテ、旅費ノ實費辨償デアルトカ、定額旅費トカ云フモノデ支出サレテ居ナイノデアリマシテ、歳費トシテ支出サレテ居ルノデアリマスカラ、ソレニ對シテハ只今ノトコロ課稅スルト云フ風ニナツテ居ルノデアリマス

○高橋委員 大臣モ議員ノ一人デアリマスガ、答辯シニクイヤウナ御遠慮ハ要ルマイト思フノデアリマス、一國ノ閣僚トシテ、一ツハツキリシタ御答辯ヲ願ヒタイト思フノデスガ、歳費トシテ税金ヲ課スルノダト云フ以上ハ、旅費ノ性質ヲ帯ビテ居ナイ、旅費ナラバ所得稅ヲ課サナイガ、歳費トシテ所得稅ヲ課スト云フ以上ハ、旅費ト云フモノノハドウシテモ支給シナケレバナラヌト云フコトニナル、ソレデ旅費ヲ支給セヌデモ宜イト云フコトナラバ、歳費ハ旅費ノ性質ヲ帯ビテ居ルノダト云フコトニナツテ、之ニ課稅スルノハ不穩當ダ、斯ウ云フ理窟ニモナルト考ヘマスガ、如何デゴザイマスカ

○櫻内國務大臣 歳費ト旅費ト云フモノハ自ラ性質ガ違フト思ヒマス、旅費ノ實費辨

償ノ意味ニ於テ出スト云フコトニナラバ、御話ノ通りデアリマスガ、現ニサウ云フコトヲ申スト何デスケレドモ、東京ニ住ンデ居ツテ、東京ニ居ル者ニモ歳費ハ出テ居ルノデアリマス、ソレカラ又一流ノ宿屋ニ入ツテ居ラレル人モ亦「アパート」ニ住ンデ居ラレル人モ、均シク歳費ハ出テ居ルノデアリマシテ、旅費ノ見地カラ云ヒマス、歳費ト云フモノガ改メテ旅費ト云フコトノ名前ニ變ツテ來レバ、當然私ハ課稅ノ標準ニハナラヌト、斯様ニ考ヘテ居リマス

○高橋委員 一寸私大臣ノ答辯ヲ、失禮ナ話デスガ大臣ガ答辯デナク逆ニ質問ヲ發セラレルヤウニ私ニ聞ヘルノデス、ソレガ歳費トシテ課稅スル以上ハ、旅費ノ性質ヲ帯ビナイノデアルカラ、旅費ヲ出シテ呉レナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマスカ、斯ウ云フコトヲ一ツ第一ニ伺ツテ置キタイノデス、ソレハドウデス

○櫻内國務大臣 議員ニ旅費ヲ出スカ出サヌカト云フコトハ、是ハ別個ノ問題デアリマシテ、私共カラ考ヘレバソレハ地方カラ來ラレテ宿屋住ヒヨサレテ、相當經費ノ掛ツテ居ル方ニ對シテ、旅費ヲ出スコトガ、或ハ適當デアルカモ知レマセヌケレドモ、此ノ稅ノ建前カラ申シマス、歳費デアツテ旅費ノ性質トハ自ラ變ツテ居ルトシマスレバ、已ムヲ得ズ課稅ヲシナケレバナラヌト思ヒマス

○高橋委員 非常ニ諄イヤウデスガ、斯ウ云フコトハ議會ノ度々繰返サレヌ議論ト思ヒマスカラ、モウ少シ此ノ場合ハツキリシテ置イテ戴キタイト思フノデス、此ノ東京ニ住所ヲ構ヘテ居ラレル方モ議員トシテ、殊ニ議會ノ三箇月ノ間ト云フモノハ、外ノ

事務ナドト云フモノハ、全部ウツチヤリ放シダト思フノデス、殊ニ辯護士ノ諸君モ、今日ノ議會ニハ澤山議席ヲ占メラレテ居ルノデアリマスガ、開會中ハ殆ド人任セデアリマシテ、自分トシテハ開店休業ノ形デアルト、私達ハ考ヘテ居ルノデス、サウ云フコトデアリマスカラ、僅ノ歳費ナドト云フモノデ總テテ賄ヒ切レルモノデアリマイト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌト共ニ、國家ガ同一ニ待遇サレテ居ル他ノ勅任官ト云フヤウナ人々ハ、勤ク度ニ少カラザル旅費日常ヲ、俸給ノ外ニ支給ヲサレテ居ルノデス、是等ト比較ヲスル時ニ於テ此ノ儘デハ濟マサレマセヌ、課稅ヲスルワ、外ニ必要ナ經費ハ支拂ハナイト云フ處置ハナカラウデハナイカ、ソレデハ餘リニ官僚獨善ト云フヤウナコトヲ言ハレテモ仕方ガナイノデアリマスカ、斯ウ私共ハ考ヘルノデスガ、其ノ點ニ付テ大藏大臣ハ一ツ明瞭ナル答辯ヲナサレテ、其ノ答辯ニ依ツテ政府ヲ刺戟サレテ……

○櫻内國務大臣 旅費ヲ支給スルト云フ事柄ハ、私ハ別個ノ問題ダト思ヒマス、旅費ノ支給ヲスルコトガ宜イカ悪イカト云フコトニ對シテ、私ニ對スル御注意デアリマスレバ、是ハ私ハ相當考慮シナケレバナラヌト考ヘマス、考ヘマスガ今歳費トシテ旅費ト云フコトニナツテ居ラズシテ、其ノ性質ガ旅費ト自ラ異ツテ居リマス以上ハ、是ハドウシテモ課稅標準トナツテモ已ムヲ得

○堀切委員長 靜肅ニ願ヒマス

○高橋委員 適正ナル處置ヲ取ラレルヤウニ導カレンコトヲ、希望ヲ添ヘテ質問ヲ繰返シマス

○櫻内國務大臣 旅費ヲ支給スルト云フ事柄ハ、私ハ別個ノ問題ダト思ヒマス、旅費ノ支給ヲスルコトガ宜イカ悪イカト云フコトニ對シテ、私ニ對スル御注意デアリマスレバ、是ハ私ハ相當考慮シナケレバナラヌト考ヘマス、考ヘマスガ今歳費トシテ旅費ト云フコトニナツテ居ラズシテ、其ノ性質ガ旅費ト自ラ異ツテ居リマス以上ハ、是ハドウシテモ課稅標準トナツテモ已ムヲ得

○堀切委員長 此ノ問題ハ此ノ程度ニシテ、次ニ移ツテ戴キマス

○高橋委員 承知致シマシタ、此ノ歳費ノ問題ニ付テハ、無理ガアルト云フコトハ御分リニナツタト承知シテ宜シト思ヒマス、無理ガアル以上ハ之ヲ調整スルヨウ、運用上行政的手段ニ依リ、大藏大臣ハ部下ニ命ジテ處置ヲ御講ジニナルノガ適當デアルト思ヒマス、是デ此ノ問題ハ止メマス

次ニ勤勞所得ニ關スル所得稅徵稅義務者ニ對スル交付金ガ、交付サレルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、此ノ委員會ニ於ケル説明ハ、一人ニ付テ十錢カ十五錢ニ承ツテ居リマスガ、全ク此ノヤウナ少額ナ費用デハ賄ヒ切レナイト思フノデス、今ハ非常ニ人手ノ足リナイ、仕事ノ多イ、各會社工場等ニ於テ使用人ヲ多ク使ツテ居ル場合ニハ、隨分苦勞サレルコトダラウト思フノデアリマシテ、正確ヲ期スル上ニ於テモ、納稅ノ能率ヲ舉ゲル上ニ於テモ、間ニ合フダケノ費用ハ辨償シテヤラナケレバナラマイト、斯様ニ考ヘルノデアリマシテ、是等ハ行政ノ問題デアリマシテ、何レオ役所ノ手ニ依ツテ改廢モ出來ル、命令事項デ御定メニナルコトデアリマスルカラ、將來ノコトハドウシテモ出來ヤウト思フノデアリマシマスガ、一應是ニ付テ御所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○大矢政府委員 此ノ度新シク斯ウ云フ制度ニナリマスノデ、或ハ今御示シノ通り少額ニ過ルト云フ嫌ヒガアルカモ知レマセヌガ、政府デ暫ク施行シテ見マシテ、其ノ實績ニ依ツテ更ニ考慮シナケレバナラヌ場合ニハ、考慮シタイト考ヘマス

○高橋委員

實蹟ヲ俟ツテ考慮シナケレバ

ナラヌト云フ所ニ、非常ニ危イ所ガアルノ

デス、昨年ノ遊興飲食稅ノ時分ニ、三分以

内デアルト云フコトヲ、勅令事項トシテ示

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

昨日ハ議員ノ要求ニ依ツテヤ

ツタト仰セニナリマシタケレドモ、吾々ハ

不幸ニシテ議員ノ要求ナルモノヲ承知シナ

カツタノデアリマシテ、蔭デ行ハレタ、聞

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

從來ノ第三種所得稅ト同

附加稅、此ノ度ノ分類所得稅ト綜合所得稅

トノ合計額ヲ比較致シマシテ、此ノ度ハ多

少増稅ニナツテ居リマスケレドモ、全般ヲ

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

○大矢政府委員

是ハ度々御答致シテ居リ

マスガ、實ハ昨年ノハ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ

賣ルト仰セラレテハ、少シ私共モ遺憾ノ點

ガアルノデアリマス、是ハ十分議會ノ御要

○高橋委員

如何ニ致シテモ本稅ト附加稅

ト別シテ、八十掛以上ニナルト云フヤウナ

コトハ、非常ニ重イ稅金デアツテ、斯ウ云

フヤウナ稅金ノ下ニ幾ラ生産擴充ヲ唱道シ

根本ハヤハリ其ノ人ノ修養ト云フ點ニアル
カト思ヒマス、國民ハ負擔ガ漸次重クナル
ニ從ヒマシテ、稅務官吏ノ仕事ノ如何ニ重
要デアリカト云フコトヲ痛感致シマスノゾ、
此ノ點ニ付テハ深く留意致シマシテ、遺漏
ノナイヤウニ致シタイト存ジテ居リマス

○高橋委員 只今ノ主稅局長ノ御答辯ニ付
テハ、私ハ一部ハ満足致シマス、稅務官吏
ノ優遇ヲヤルト云フコトハ、吾々ハ大イニ
歡迎スルノデス、アア云フヤウナ待遇ノ仕
方デハ、ヤハリ他ノ誘惑ニ應ゼナイト云フ
ヤウナコトヲ期待スルノハ、無理デハナイ
カト思フ程、其ノ仕事ガ過重デアリ、重要
デアル、其ノ待遇ガ非常ニ貧弱デアルト考
ヘラレマスカラ、是ハ速ニ只今御述ニナツ
タヤウナ御趣旨ヲ徹底セラレンコトヲ希望
致シマス、此ノ點ハ大藏大臣ニ十分私ノ希
望ノ在ル所ヲ申シ述ベテ戴キタイト思ヒマ
ス

ソレカラ清算所得デアリマスガ、之ヲ個
人ノ綜合課稅ノ程度デ持ツテ來ルト云フ
ヤウナコトノ非常ニ酷ナルコトハ、度々議
論ニナツテ居ツタノデアリマス、若シ之ヲ
半減シテ綜合課稅ニスルト云フヤウナコト
ニナリマシタラバ、其ノ稅ノ減額ハ下ノ
程度ニナリマスガ、只今表ヲ御持合セニナ
ルナラバ此ノ際承リ、ソレデナケレバ後刻
承ツテモ宜シイト思ヒマス

○大矢政府委員 是ハ取調ベマシテ、後刻
御答致シタイト存ジマス

○高橋委員 法人稅デアリマスガ、所得ノ
計算上ニ於テ、法人稅ノ算入ヲ損金ニ入レ
ルト云フコトヲ現行ノ通リトシテハドウ
カ、其ノ他之ニ關聯スル事項、臨時利得稅
モ同様デアリマスガ、川崎君ノ御議論ハ之

ヲ支持シ、御要求等ハ同ジ要求ヲ進メタイ
ト存ジマス、又前事業年度ノ缺損金額ヲ一
年ダケニセズ、之ヲ前三年間ト云フコトニ
シテハドウカト云フ御議論モアリマシタ
ガ、此ノ御説ニハ吾々モ同感ノ意ヲ表シ、
之ニ對スル稅收關係ノ御請求モアツタヤウ
デアリマスカラ、同様ニ之ヲ要求致シマス

ソレカラ減價償却ノ年限デアリマス、是ハ
法律事項デナク、命令事項ニ互ルコトデアリ
マスガ、議院ノ永年ノ間ノ要求ニ依ツテ政
府モ大イニ考慮サレテ緩和サレ、年限モ短
クサレタト云フヤウナ表ヲ御示シニナツタ
ヤウデアリマスガ、實際ハ所ニ依ツテハ、
サウデハナイヤウナ傾キモアルト云フ聲ヲ
聞クノデアリマス、コシナ程度デハ此ノ時
局ニ於テ生産擴充ヲ國民ニ求メルニ當ツテ、
用意ガ足りナイト思ヒマス、是等ノコトニ
付テハ更ニ之ガ緩和ヲ致シ、從來ノ率ヲ更
ニ強メル必要ガアルト、吾々ハ考ヘテ居ル
ノデアリマス、ソレト同時ニ、是ハ只今内
規デアツテ、公表ヲスベキモノデナイトシ
テ、玉手箱ニ納メテ置カレルノゾ、之ヲド
ウ云フヤウニ運用サレカト云フコトハ、
吾々納稅者ニハ分ラナイノデアリマス、サ
ウ云フヤウナモノデ、是ハ行政事項デアリマ
スカラ、吾々ガ干渉スベキモノデハナイカ
モ知レマセヌガ、強キ希望ヲ申述ベテ置キ
タイト思フノデアリマス、公示スル手續ヲ
執ルコトヲ是非御願シタイノデアリマス、
之ヲ要求スルノデアリマスガ、此ノ二ツノ
事柄、即チ從來ノ償却年限ヲモツト短縮ス
ル御意思ハナイカト云フコトト、之ヲ公示
スル御意思ハナイカト云フコトヲ、一ツ承
ツテ置キタイノデアリマス

○大矢政府委員 減價償却ノ年限ニ付キマ
シテハ、昭和十二年以來數度ニ互ツテ改正
ヲシテ來タノデアリマス、殊ニ昨年ノ如キ
ハ或ル一部ノモノニ付テハ、劃期的ノ改正
ヲシタノデアリマスケレドモ、全般ヲ通ジ
テ尙ホ考慮ヲ要スルモノガアルト存ジマシ
テ、目下至急ニ是ガ改正方ヲ調査中デアリ
マス、成ベク早イ機會ニ實現ヲ期シタイト
存ジテ居リマス、ソレカラ減價償却ノ年限
モ、實ハ昨年から發表シテ居ルノデアリマ
シテ、御手許ニモ御配リシタ租稅法規ノ一
番最後ノ方ニ表ガ載ツテ居リマス、斯ウ云
フモノモ外部ニ對シテ賣出シテ居ルノデア
リマシテ、今日ニ於テハ内部ノ扱ヒシテ祕
シテ置ク意思ハ毛頭ゴザイマセヌカラ、御
了承願ヒマス

○高橋委員 只今ノ御答辯ハ至極要領ヲ
得テ居リマスガ、成ベク早クト云フコトハ、
議會ガ過ギテカラデハ、吾々ハ窺ヒ知ルコ
トハ出來ナイノデアリマスカラ、一兩日ノ
間ニ御示シアランコトヲ附加ヘテ要求致シ
テ置キマス

次ニ特別法人稅デアリマス、是モ熱心ニ
委員諸君カラ繰返サレタノデアリマスガ、
議員諸君ノ御論旨ノアル所ニ鑑ミラレテ、
御當局ハ之ニ對シテ如何ナル御感懷ヲ持ツ
テ居ラレカ、其ノ點ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○大矢政府委員 今別ニ原案デ差支ナイモ
ノト存ジテ居リマス

○高橋委員 吾々ハ此ノ産業組合、殊ニ農
村方面ノ産業組合ノ發達ヲ阻礙スルト云フ
コト、又公法人デアルト云フ氣構ヘデ、大
イニ仕事ヲシテ居ル其ノ氣分ヲ冷却セシメ
ルト云フヤウナコトニナリ、營利的ナ仕事
ヲシテ居ルヤウナ氣分ニ之ヲ轉換サセルコ
トハ、農村問題トシテ非常ナ危險性ガアル

ト云フ委員諸君ノ御意見ニ對シテ、吾々ハ
之ヲ支持スル者デアリマシテ、是ハ出來ル
ダケ緩和致スナリ、削除スルナリ致シタイ
ト思ヒマスガ、大藏大臣ガオ居デニナラヌ
ノゾ、大臣ノ御意向ヲ承ルコトガ出來ヌノ
ヲ甚ダ遺憾ト致シマスガ、時間ノ關係上此
ノ事ヲ申上ゲテ、大臣ニ傳ヘテ戴イテ、後
刻大臣ノ御意向ヲ承リタイト思ヒマス

相續稅ニ付テハ其ノ稅ノ重イコトヲ吾々
ハ數ヘナケレバナラズ、又不動產其ノ他ニ
付テハ、之ヲ換價處分スルコトハ困難デア
ルカラ、物納制度ヲ設ケテハドウカト云フコ
トハ、ヤハリ川崎君ト同ジヤウニ主張致シ
タイト思ヒマス、更ニ之ニ付テハ五千圓ノ
基礎控除ヲヤツタラ宜カラウト私共ハ考ヘ
ルノデアリマス、又是ハ家督相續バカリデ
ナク、遺産相續ニ於キマシテモ、三千圓程
度ノ基礎控除ヲヤルト云フヤウナコトモ考
ヘテ居ルノデアリマスガ、之ニ對シテ一應
御所見ヲ承リタイ

○大矢政府委員 此ノ度ハ全般ニ互ツテ或
ル程度増稅ヲ致ス際デアリマスカラ、相續
稅ニ付テ今御話ノヤウニ、相當大キナ基礎
控除ヲ致スト云フ考ハ持ツテ居リマセヌ

○高橋委員 撞球場ニ於ケル特別入場稅、
或ハ「カフエ」バーニ於ケル遊興飲食稅
ニ免稅點ヲ設ケルト云フ主張ハ、川崎君ト
同様デアリマス

ソレカラ物品稅ノ中ノ「マッチ」ニ付テハ、
今マデモ千本ニ付テ五錢課稅サレテ居リマ
スガ、「マッチ」不足ノ今日當分ノ間免稅スル
ト云フコトハ、至極適當デアルト思ヒマス、
ソレカラ菓子ノ免稅點五圓程度ヲ三圓程度
ニスルコト、是ハ命令事項デアリマスガ、
斯ウ云フコトヲ考ヘサセラレノゾ、是等

ノ點ニ付テ御所見ヲ承リタイ、ソレカラ石
驗其ノ他ニ付テハ、民政黨ト同ジ意見デア
リマス

○大矢政府委員 「マツチ」ハ從來ノモノヲ据
置イタノデゴザイマスカラ、是ハ差支ナイ
デヤナカラウカト存ジテ居リマス、菓子ハ
三圓ト致シマスルト云フト、相當ノ所カト
存ジマス、是以上課稅最低限ヲ引上ゲル考
ハ持ツテ居リマセヌ

○高橋委員 時間ノ關係上餘リ追究ヲ致シ
マセヌ、地租デアリマスルガ、地租ハ今自
作農ニ付テハ賃賃價格二百圓以下ハ免稅ト
云フコトニナツテ居リマスルガ、是ハ、耕地
全部ニ賃賃價格二百圓以下免稅、自作農ニ
付テハ賃賃價格三百圓以下ニ免稅ヲスルト
云フコトガ、今日農村ノ事情ニ最モ適當シ
タコトト考ヘルノデアリマスガ、之ニ付テ
一應ノ御所見ヲ承リタイ

○大矢政府委員 賃賃價格ノ最近ノ改訂ハ
昭和十三年デゴザイマシテ、現實ノ農產物
價格、小作料其ノモノカラ見ルト、寧ろ相
當低クナツテ居ルノデアリマスカラ、今日
ト致シマシテハ之ヲ引上ゲル考ハ持ツテ居
リマセヌ

○高橋委員 是ハ重要ナ問題デアリマスカ
ラ一應反駁ヲ致シテ置キマスガ、農產物ノ
價格ト云フモノハ御承知ノ通り低物價政策
デ抑ヘラレテ居リマス、而シテ其ノ他之ニ
要スル資材或ハ肥料ト云フヤウナモノハ隨
分上ツテ居リ、入手難デ、闇取引ガ行ハレ
テ居ル事情ヲ、政府ハ十分御考下サラナケ
レバナラヌト共ニ、今日ノ食糧問題、飼料
問題ト云フモノノ、如何ニ重大ナル必要性
ガアルカト云フコトモ十分御考下サイマシ
テ、是等ノコトニ付テ吾々ノ參考ニ資スル

爲、只今私ガ申述ヘテ數字ヲ基礎ト致シマ
シテ、稅ノ收入ノ關係ノ表ヲ作ツテ載キタ
イト云フコトヲ申添ヘテ置キマス

次ニ營業稅ノ方面デアリマスガ、十一條
ノ三號ノ括弧内ヲ削リタイト思フノデス、
ソレハ雜誌ニ付テ月三回以下云々ト云フヤ
ウナ分ケ隔テ付ケルト云フコトハ、非常
ニウルサイ、否不合理デアルト思ヒマス、
斯ウ云フ方面ノ社會ニ對スル效果等モ考ヘ
マシテ、私共ハ此ノ雜誌ニ付テ課稅セザル
コトニシテハドウカト云フ考ヲ持ツテ居リ
マス、之ニ付テノ稅ノ減稅額等ヲ後ニ御示
ヲ願ヒタイト思ヒマスルシ、之ニ對スル一
應ノ御所見ヲ承ツテ置キタイ

○大矢政府委員 ソレニ付テウルサイト云
フコトデアリマスガ、ウルサイコトハナイ
ト考ヘマス

○堀切委員長 高橋君、是ハ既ニ今マデモ
度々御答辯ガアリマシタカラ、此ノ程度
デ……

○高橋委員 私、ウルサイナント云フコト
ハ考ヘナイノデアリマスガ、是非其ノ實現
ヲ期シタイト思ツテ居リマス
ソレカラ地方稅ノ方面デアリマスルガ、
時間ノ關係上今申述ベテ、後デ大臣ニ御傳
願ツテ、一應大臣カラ御所見ヲ承ルコトニ
致シマス、ソレハ住民稅ノコトデスガ、最
高一千圓ト云フコトハ、餘リ地方ノ獨立財
源ヲ無視シタト云フ議論モ今マデアアルノデ
アリマスルガ、ソレニ付テ大都市ヲ二千圓
程度ニシ、市ヲ千五百圓、町村ヲ千圓程度
ニスルト云フコトニ改メテハドウデアラウ
カト云フ吾々ハ希望ヲ持ツテ居ルノデアリ
マスルガ、之ニ對スル一應ノ御所見ヲ承リタ
イノト、ソレカラ住民稅ノ制限外課稅ヲ許

スト云フ建前ヲ取ツテハドウカト思フノデ
アリマス、其ノ制限外課稅ヲ許スト云フノ
ハ、此ノ地方稅トシテ認メラルル三稅ノ附
加稅ニ、制限外課稅ヲ許ス場合ニ限ツテ、住
民稅ニ制限外課稅ヲ許スト云フ方法ヲ取ツ
テ地方財源ヲ涵養シ、彈力ヲ地方財政ニ持
タシムル一ツノ方法トシテ考慮シテハドウ
ダ、斯ウ考ヘテ居リマス、此ノ二點ニ付テ
御所見ヲ承リタイ

○挾間政府委員 市町村民稅ノ各人ノ最高
納稅額ニ付キマシテハ、是ハ個人ノ最高額
ガ團體別ニ依リマシテ左右サレルト云フコ
トハ、適當デナイト考ヘテ居ルノデアリ
ス、サウシテ千圓ト限定致シマシタノハ、
總額五千萬圓ト云フコトヲ押ヘマシタノ
デ、此ノ程度ヲ以テ適當ナリト考ヘマシ
テ、御審議ヲ願ツテ居ルヤウナ次第デア
リマス、ソレカラ三收益稅ノ附加稅ニ對
スル賦課標準ヲ超過シテ課稅スル場合ニ、
市町村民稅ニ對シテモ、制限外課稅ヲ認
メルノガ、負擔ノ衡平上宜イデハナイカ
ト云フ御意見ニ付キマシテハ、元來市
町村稅ト云フノガサウシマシタ負擔ノ
衡平、或ハ之ニ依ツテ大イニ地方ノ財源ヲ
與ヘルト云フ趣旨デナク、負擔ノ分任ヲス
ルト云フ方針ガ稅制ニ現ハレルト云フコト
デ、極メテ輕微ナル稅ト致シタイト考ヘテ
居ルノデアリマス、隨ヒマシテ之ニ對シテ
制限外課稅ヲ認メルト云フコトハ、稅ノ性
質カラ考ヘマシテ適當デナイト思ヒマス、
ノミナラズ之ニ對シテ制限外課稅ヲ認メル
コトニナリマス、結局再ビ戶數割ニ於テ、
吾々經驗シテ居リマス負擔ノ過重、不衡平
ト云フコトガ起ツテ參ルト思ヒマスノデ、
三收益稅ト並行的ニ、此ノ稅ニ對シテ制限

外課稅ヲ認メルト云フコトニ付テハ、當局
トシテハ贊成致シ兼ネル次第デアリマス
○高橋委員 一應諒承致シマシタガ、吾々
ノ主張ハ御答辯ニ依ツテ變更スルコトノ出
來ナイヤウナ感ジガ致シマスカラ、尙ホ大
臣ニ能ク私ノ質問ノ趣旨ヲ御話下サイマシ
テ、更ニ適當ノ機會ニ於テ、大臣カラ御答
辯ヲ承リタイト思ヒマス、ソレカラ更ニ鑛
山關係デアリマスガ、鑛山ニ付テハ家屋稅
ヲ免稅スルト云フ經過規定ガアルノデアリ
マスガ、股賑ナル鑛山等ガアル場合ニ於
テ、家屋稅ガ賦課出來ナイコトニナルト、
財源ニ非常ナ缺陷ヲ生ジマスノデ、町村ノ
附加稅ヲ課スルコトノ出來ルヤウニシタイ
ト云フ考ヲ持ツテ居リマス、是ハ條文ノ削
除等ニ依ツテ出來ヨウト思ヒマス、或ハ制
限ノ撤廢ニ依ツテ出來ヨウト思ヒマスガ、
是等ニ付テ一應ノ御所見ヲ承リタイ

○挾間政府委員 鑛業用ノ物件、工作物等
ニ付キマシテハ、現在課稅ヲ認メテ居ナイ
ノデアツテ、今回ソレニ對シテ課稅ヲ認メ
ルコトニナリマシタガ、家屋ニ付キマシテ
ハ、家屋ノ賃賃價格ヲ國デ調査致シマシテ、
十七年度カラ國稅トシテ賦課徵收スルコト
ニナツテ居ルノデアリマス、此ノ經過的ニ
年度間ハ、各地方ニ於ケル賃賃價格ヲ政府
ガ補正シテ、政府ガ課稅致シマスノデ、此
ノ賃賃價格ノ決定ノ上カラ申シマス、必
ズシモ十分デアルトハ申シ難イ事情ニアリ
マスカラ、十七年度以降ニ於キマシテ、政
府ノ賃賃價格ノ調査完了ヲ待ツテ、課稅ス
ルヤウニ致シタイト思ヒマス、又此ノ鑛業
法ノ改正ノ結果、鑛業家ニ對シマスル課稅
ガ一時ニ總テノ方面ニマデ發展シマスコト
ハ、負擔ノ激増ヲ來スト云フコトモ考ヘラ

外課稅ヲ認メルト云フコトニ付テハ、當局
トシテハ贊成致シ兼ネル次第デアリマス
○高橋委員 一應諒承致シマシタガ、吾々
ノ主張ハ御答辯ニ依ツテ變更スルコトノ出
來ナイヤウナ感ジガ致シマスカラ、尙ホ大
臣ニ能ク私ノ質問ノ趣旨ヲ御話下サイマシ
テ、更ニ適當ノ機會ニ於テ、大臣カラ御答
辯ヲ承リタイト思ヒマス、ソレカラ更ニ鑛
山關係デアリマスガ、鑛山ニ付テハ家屋稅
ヲ免稅スルト云フ經過規定ガアルノデアリ
マスガ、股賑ナル鑛山等ガアル場合ニ於
テ、家屋稅ガ賦課出來ナイコトニナルト、
財源ニ非常ナ缺陷ヲ生ジマスノデ、町村ノ
附加稅ヲ課スルコトノ出來ルヤウニシタイ
ト云フ考ヲ持ツテ居リマス、是ハ條文ノ削
除等ニ依ツテ出來ヨウト思ヒマス、或ハ制
限ノ撤廢ニ依ツテ出來ヨウト思ヒマスガ、
是等ニ付テ一應ノ御所見ヲ承リタイ

レマスノデ、旁、家屋税ハ十五、十六年度ニ限リマシテ、是ハ課税セシメナイコトニ致シテ参リタイト考ヘテ居ルノデアリマス

○高橋委員 昨ハ最後ニ酒ノ方ノ税金ノコトヲ一ニ點御尋シタイノデアリマスガ、酒ノコトニ付テハ委員諸君カラ度々御質疑ガアリマシテ、政府ノ意向モ大體分ツタヤウデアリマスルケレドモ、ドウモ私共ガ腑ニ落チナイノハ、委員會ニ於テ或ル場合ニハ政府當局カラ、酒ハ飲マナクテモ死ナナイト云カ、煙草ヲ喫マナクテモ人ハ死ナナイト云フコトヲ言ハレタコトガアリマス

○堀切委員長 高橋君、質問ヲ願ヒマス

○高橋委員 是ハ質問ノ要旨デアリマスカラ申スノデアリマス——決シテ左様ナモノデナクシテ、今日ニ於テモ酒ハ警澤トシテ居ラレマスケレドモ、鑛山トカ其ノ他ノ方面ニ於テハ労働者方面ノ唯一ノ慰安デアリ、又是ガナクテハ翌日ノ働キガ出來ナイト云フヤウナコトデ、方々ニ於テ工場労働者、或ハ鑛山労働者ノ能率ヲ酒不足ノ爲ニ妨ゲルト云フ事實ガ非常ニ多イノデアリマス、サウ云フヤウナコトヲ私共ハ目撃致シテ居ルノデアリマス、ソレデ米ガ不足デアルカラ酒造量ノ減少ヲシタト云フコトハ、一應ハ諒承出來ルノデスガ、其ノ補充トシテノ方策ハ決定致サナイ、斯ウ云フコトヲ考ヘラレルノデアリマス、ソレデ政府ハ酒造税法ヲ改正サレル場合ニ、非常ニ慌テテ此ノ税法ヲ定メラレタ、斯ウ云フコトニナルノデハナイカ、今マデ、此ノ酒造ト云フ方面ニ對シテハ大藏省ハ之ヲ指導サレ、漸次改良ノ實ヲ擧ガルヤウニト云フコトヲ目標ニシテ進マレテ、殊ニ非衛生的ナル酒ナドハ造ラセナイヤウニト云フコト

マデモ御考ニナツテ、漸次進マレタト考ヘルノデアリマス、然ルニ合成清酒ノコトニナリマスルト、其ノ定義ニ一號、二號トアリマシテ、清酒ニ持ツテ行ツテ唯水ヲ割ツテ伸バスト云フヤウナ觀念ノ下ニ、清酒デハ伸ビガ利カナイカラ、之ニ「アルコール」ト燒酎ヲ入レテ伸バサシメルト云フヤウナコトヲ、第五條ノ第一號ニ書イテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ甚ダ私共腑ニ落チナイト思フノデアリマス、サウ云フヤウナコトモ私ハ自身自身トシテノ参考ニ伺ツテ見タイト思フノデアリマスルガ、斯ウ云フコトニ付テノ一應ノ御所見ヲ伺ツテ、私ノ質問ハ終リタイト思ヒマス

○大矢政府委員 酒税法案ノ第五條デゴザイマスガ、是ハ一號ト二號トアリマスケレドモ、ドチヲ原則ニシ、ドチヲ例外トスルト云フ譯デアリマセズデ、兩方トモ共ニ斯ウ云フ製造方法ヲ認メヨウト云フ趣旨デゴザイマス、漸次品質ノ良イモノヲ造ルヤウニ指導シタイト云フコトハ、私共勿論心掛ケテ居リマシテ、合成清酒ニ對シマシテハ、醸造試験所等ノ機關ニ於テモ今後十分研究シテ行キタイト存ジテ居リマス

○堀切委員長 ソレデ高橋君ノ質疑ハ終了致シマシタ、森田君續イテ願ヒマス、大藏大臣モ内務大臣モ貴族院ノ關係デ一寸出ラレマシタガ、直グ來ルト云フコトデアリマスカラ、當局デ宜ケレバ先ヅ其ノ方カラ御質問ヲ願ヒマス

○森田委員 大藏大臣ト内務大臣ガ居ラレル方ガ、私ハ非常ニ宜イト思ヒマスガ、時問ノ關係ニ上事務當局ニ質問致シマシテ、事務當局カラ大藏大臣ニ御傳ヘ置キテ願ヒタイ、即チ本日ノ質問ハ各派トモ補充質問デ

アリマス、補充質問デアツテ態度ヲ決定スル上ニ於テ必要ガアル爲ニ、モウ一ツ能ク分ルヤウニ言ヘバ、當局モ此ノ補充質問ニ對シテハ、用意ト心構ヘヲシテ置キナサイト云フコトニナル譯デアリマス、其ノ意味ノ質問デアルカラ、御傳ヘ置キテ願ツテ用意ヲ願ヒタイ、私ハ川崎サンヤ高橋サンガ御質問ニナリマシタ點ハ、其ノ質問ノ趣旨ニ全然同感デアリマス、兩君カラ御尋ニナツタ質問ノ趣旨ニハ全然ヨリ以上ノ同感デアリマスカラ、私ハ其ノ點ハ避ケマス、唯質問セラレテ、ソレニ對スル答辯ガアツタ中デモ、分ラナカツタト思フ點ヲモウ一ツ簡單ニ聽キマス

先ヅ個人ノ所得税法ノ中ノ第十一條ノ五號ニアル信用組合貯蓄銀行ノ三千圓以上ニ對シテ、所得稅ヲ課ケル問題デアリマスカラ、斯ウ云フ三千圓ヲ超ユル預金者ニ對シテ課稅ヲスル場合ニハ、其ノ信用組合ノ預金ガ銀行ナリ其ノ他ニ逃ゲテ行ツテ、信用組合ノ運用上非常ニ支障ヲ來スト思フガ、其ノ點ハドウ御考ニナリマスカ

○大矢政府委員 是ハ稅率ノ點ニ於テモ差等ヲ設ケテ、特ニサウ云フ點ヲ考慮致スコトニナリマスカラシテ、此ノ課稅ニ依ツテ産業組合ノ貯金、貯蓄銀行ノ預金等ガ、他ノ金融機關ノ方ニ移ツテ行クト云フ虞ハナイモノト存ジマス

○森田委員 一體主稅局長ト云フカ、事務當局ノ答辯ハ、先程私ハ兩君ノ質問ニ對スル答辯ヲ聽イテ居ルト、此ノ大キナ増稅ヲスル場合デアルカラ已ムヲ得ヌ、稅ヲ殖ヤサウナコトヲ考ヘタト云ヒ、又一面ニハ追込マレルト、今度ハ却テ減稅ニナツテ居ル位デ負擔ハ輕クナツテ居リマセウト云フ

ヤウナコトヲ言ヒ、秩序整然トシタ順序ノ立ツタ答辯デナイ、場合ニ依レバ稅ハ減ツテ居ルト言ヒ、場合ニ依レバ増稅スル場合デアルカラ斯ウ云フコトニナツテ居ルト言ヒ、自分達ノ作ツタ案ハ何デモ良イト云フ頭デ居ルノデセウガ、一箇月以上ニ互互質疑應答ノ結果ハ、相當缺陷ヲ見出サレテ居ル、ソコデ私ハサウ云フ所ハ執念深ク固執セズニ讓ツテ行カレタラドウカ、サウシタラ早ク話ガ付ク、今度何レ各派ノ協議會、次イデ政府トノ交渉ガ始マルコトダト思フガ、今度サウ云フ時ニハ餘リ根強クヤラズニ、簡單ニ讓ツテ、一ツ事ヲ濟シテ戴キタイ、今ノ問題デモ三千圓ヲ超ユル金額ニ稅ヲ取ツテモ、預金ハ逃ゲスト思フカラト云ハレルガ、逃ゲタラドウデス、逃ゲルトハ分リ切ツテ居ル、同じ稅ガ課ルナラバ小サナ信用組合ニ預ケテ置キヨリハ、大キナ信託會社ニ預ケテ置カウデハナイカ、大キナ銀行ニ持ツテ行カウデハナイカト云フノハ人間ノ情トシテ當然ナ話デス、デスカラ逃ゲスト思フト云フヤウナコトヲ言ハズニ、サウデアルト云ハレタ方ガ事ハ早ク濟ム、其ノ點ハ逃ゲルト私ハ考ヘマス、隨テ此ノ點ハ深く考慮ヲ要スルト云フコトヲ申上ゲテ、是以上ノ答辯ハ求メマセヌ

第三十條ノ問題ハ、川崎君カラ負擔ノ利子ヲ全部控除スルト云フコトニ付テ、相當ノ質問ガアツタガ、之ニ對シテ當局ハ答辯ガナカツタ、質問ノ分ラヌ答ハナイ、是ハ分リ切ツテ居ツテ分ラヌヤウナコトヲ仰ツシヤル、私ハサウデハナイト思フ、然ラバ從來ノ仕來リデアル所ノ二割控除ヲ、其ノ儘今回モ認メテ置ケバ、是ナラ金額ハ分ラヌトハ仰ツシヤラヌカラシテ、二割控除ヲ其ノ

儘認メテ置ケバ宜イト考ヘマスガ、當局ノ意見ハ如何デアリマスカ

○大矢政府委員 提案致シマシタ原案ガ、負擔力ニ應ジタ課稅ニナルト、斯ウ存ジテ居リマス

○森田委員 サウスルト全體ノ負債利子ヲ引クコトモ工合ガ惡イシ、從來ヤツタ二割

控除モ都合ガ惡イシ、原案ガ一番宜イ、斯ウ云フ御考ラシイ、是以上ハ議論ニナルカラ問ヒマセヌ、併シ全部負債利子ヲ認メルカ、從來ノ通り一割控除ヲ認メルカ、ソレハ

一ツ能ク御考置キテ願ヒタイ、ソレカラ次ハ今日問題ニ全然ナツテ居ラナイ問題デアリマスガ、個人ノ寄附デス、個人ノ寄附ハ當然個人ノ所得カラ控除スベキモノデアアル、形ヲ變ヘタ戸數割デアアル、今度改正シタコトカラ言ヘバ住民稅デアアル、強制寄附デアアル、強制寄附ハ當然ハ個人ノ所得カラ控除ラシテ、残りノ所得ニ課稅スベキモノデアアル、ソコデ昨日モ地方稅ノ委員會デ、内務當局ニモ能ク私ハ話シテ置イタノデスガ、サウセナイト一番困ルノハ内務省デハナイカト思フ、寄附ヲ求メテ居ル官廳ハ、内務省所管ニ關スル系統ガ一番多イ、強制寄附ヲ求メテ居ルノハ内務大臣モ惡イト云フガ惡イト言ツテモヤレバ仕方ガナイ、ヤラセナイカト云フコトニハ明答ヲ與ヘナイ、サウスルト相變ラズ色々ナ中央カラノ法律ニ依リ委任事務ヲ以テ施設ヲ命ジテ來ル場合ニ、地方ノ町村役場ニハ財源ガアリマセヌ、隨テヤハリ強制寄附ニ依ラナケレバナラヌト私ハ思フ、又寄附ノ出來ル人ハ、ソレヲシタ方宜シイ、サウシテ行クガ、稅ハ取ラヌガ宜シイ、即チ法人ト同様ニ個人ノ強制寄附ニ對シテハ、所得額カラ引イテ行

クベキモノデアアルト思フガ、内務、大藏兩當局ノ御所見ハ如何デアリマスカ

○挾間政府委員 内務當局ト致シマシテハ稅金デスラ控除致シテ居リマセヌノデ、寄附等ニ付キマシテモ控除スル必要ハナイト思ヒマス

○大矢政府委員 稅ノ性質カラ致シマシテ先ツ普通世間並ニ稅ヲ納メテ後、寄附ヲシテ戴ク方適當デハナカラウカ、斯ウ考ヘテ居リマス

○森田委員 地方局長モ主稅局長モ、全部控除スル必要ハナイト言ハレマスガ、所得稅ハ引イテハイカナイガ、後ハ引イテ居ル、戸數割デアラウガ、何デアラウガ、全然引イテ計算シテ居ルカラ、斯ウ云フ方面ノ所得ハ私ハ引クナトハ言ハヌガ、強制寄附ニ待ツテシタモノハ、所得カラ引クベキモノデアアルト思フ、法人ハ引イテ居リマス、併シ是以上ハ繰返シマセヌガ、法人ガ寄附シタ場合ニ、之ヲ損金ト認メル以上ハ、個人モ當然必要經費トシテ引クベキモノデアアルト、私ハ考ヘテ居ルト云フコトヲ御諒承置キテ願ヒタイ、是以上ノ答辯ハ望ミマセヌ、恐ラク事務當局ハ自分ガ出シタ案ハ、惡クテモ通スト云フ惡イ頭ヲ持ツテ居ルカラ、同意ヲ與ヘナイ以上ハ、是カラ先ハ水掛論ニナルカラ、討論ノ時ニ讓レバ宜イガ、分類所得稅ヲ綜合所得稅ト決定スル場合ニ、分類所得稅ハ當然引クベキモノデアアル、併シ此ノ間主稅局長ハ、引イテハ工合ガ惡イヤウ大答辯ヲナサツタ、現在デモ配當ノ超過所得稅ヲ納メテ居ル者ニ對シテハ、第三種ノ所得稅ヲ決定スル際ニハ引イテ居リマス、五圓ノ配當金ヲ受ケル中カラ三十錢ニセヨ、三十五錢ニセヨ配當超過分ヲ源泉課稅トシ

テ引キ、貰ツタ金額ニ對シテ課稅ラシテ居ルノガ現在ノ狀態デアリマス、ヤハリ課稅シタ所デ分類所得稅額ハ、綜合所得稅額ヨリ引クモノデアアルト考ヘルガ、今尙ホ之ヲ固執サレマスカ

○大矢政府委員 前會ニ申述ベタ通りニ考ヘテ居リマス

○森田委員 此ノ點モ意見ガ一致シマセヌカラ、討論ノ時ニ讓ルコトニ致シマス、次ニ酒ノ稅ノコトデアリマス、第五十條ノ混合酒ヲ造ル、所謂清酒ニ持ツテ行ツテ、燒酎デアルトカ、其ノ他ノ酒ヲ混ゼテ行ク場合ニ、政府ノ許可ヲ要スルガ、水ダケハ許可ヲ要セズニ混ゼラレルヤウニナツテ居ル、ソレハ却ツテ弊害ノ多イコトハナイカ、五十條ノ二號ニ持ツテ行ツテモ明瞭ニ出テ居ル筋合ノモノデアアルカラ、ヤハリモウ少シ分リヨクスレバ、清酒ハ「アルコール」分ガ十六度、燒酎ハ二十五度、ソレヲ清酒ニ混合スル場合ニ水ヲ何「パーセント」混ゼテ行カウト云フコトモ、ヤハリ許可ノ中ニ加ヘラレルナラバ、今日ノヤウナコトニナラヌカラ、ヤハリ水ヲ混ゼサセヌト云フノデハナイ、混ゼテ宜イガ、其ノ分量ハヤハリ當局カラ許可ヲ受ケル範圍ノ中ニ入レルベキガ至當デアアル、是ハ理論トシテモ同意サレナケレバナラヌ問題デアアルト思ツテ居リマスガ、此ノ點ハ如何デアリマスカ

○大矢政府委員 五十條ハ清酒ノミデナク、總テノ酒類ヲ通ジテ適用ガアルノデアリマシテ、燒酎ノ如キモノハ、御承知ノ通り一斗ナラ一斗糶ノ中ニ入レテ運搬スルト云フヤウナ關係上、相當酒精度ノ高イノヲ製造場ヨリ引取ルガ、愈之ヲ使用スル場合ニハ相當加水シテ居ル、斯ウ云フヤウナ狀

況デアリマス、其ノ他ノ酒類ニ付テモ、サウ云フノガアリマシテ、是ハ我國デ慣行的ニ行ハレテ居テ、其處ニ別ニ弊害ハナイト思フノデアリマス、昨春秋以來市中ニ割水ガ多イ酒ガ出テ居ルノハ、是ハ酒ノ供給ノ著シク減ツタガ爲ノ一時的現象ダト思フノデアリマシテ、之ニ對シマシテ既ニ前ニ御答シテ置キマシタ通り、相當ノ措置ヲ各方面ヨリ講ズルコトニシテ居ルノデアリマシテ、是モ速カラズ適當ニ取締ガ出來得ルコトカト存ジマス、稅法ト致シマスト長イ間ノ慣行デ別ニ弊害ガナイ、一々稅務署ノ承認ヲ經ズニ行ツテモ差支アリマセヌ

○森田委員 此ノ點モ其ノ以上申シマセヌ、意見ノ相違デスカラ已ムヲ得マセヌ、慣行通りヤツテ居レバ今日ノヤウナ酒ハ市中ニ出テ參リマセヌ、慣行ヲ守ラヌカラ、今日ノヤウナ風ニ水酒ガ出テ來テ居ル、其ノ水酒ニ防腐劑ヲ入レ過ギル、其ノ防腐劑モ「サルチール」酸ノ如キモノナラバ宜イガ、其ノ他ノ劇藥ヲ混ゼテ居ル、サウ云フ風デアアルカラ、衛生上非常ニ惡イ、惡イカラ水ヲ澤山混ゼル、澤山混ゼル程防腐劑ヲ澤山混ゼヌト酒ノ保存ガ出來ヌ、酒ノ保存ヲヤラウト思フト、水ヲ混ゼタ量ノ割合ニ防腐劑ヲ澤山入レナケレバナラヌカラ、是ハヤハリ許可事項ニシテ行カナケレバナラヌ、許可事項ニシテ行カナケレバ衛生上ニ惡イト云フガ、主稅局長ガドウシテ突張ルナラバ、私ハ是以上論ジマセヌ、國民代表ノ吾々ハ衛生上ノ見地カラ、此ノ點ハ同意致シ兼ネルノデアリマス

次ハ遊興稅ノ中、今議論ニナツタ中デ、私ハ簡明率直ニ御尋申上グルガ、遊興稅ノ第三條ノ三項ヲ削除スルガ、一番宜イト思

フ

フガドウカ

其ノ次ニハ命令要綱ノ百分ノ三以下ノ手
數料ト云フ交付金ハ、百分ノ一以上百分ノ
三以下トヤツテ置クベキモノト考ヘラレル
ガ、御意見ハ如何デアリマスカ、此ノ二點

○大矢政府委員 前ノ割水ノコトデゴザイ
マスガ、其ノ弊害ガヒドイト云フコトハ、
森田サント同ジ考ヲ持ツテ居リマス、是ハ
酒造家ニ對シマシテモ亦販賣業者ニ對シ
マシテモ、非常ニオ五ニ自制シ合フヤウニ
極力指導シテ居リマシテ、業者ヲ自治的ニ
十分之ヲ抑制シテ行ク積リデ居ルノデアリ
マシテ、一方ニ於テ商工省ニ於キマシテモ、
此ノ酒ノ公定價格ヲ作ル上ニ於キマシテ、
酒精度ニ限界ヲ置キマシテ、或ル一定度以
下ニ下ルヤウナ場合ノモノハ、殆ドソレハ
市場カラ驅逐スルト云フヤウナ方針デ、大
體進ンデ居リマシテ、森田サント御心配ノ
點ハ、私共モ同様ニ思ツテ居リマス、殊ニ夏
季ヲ控ヘテノ場合ハ、尙更其ノ點ハ注意シ
ナケレバナラスト存ジテ居リマス、御趣意
ニハ全ク同感デアリマスガ、税法トシテハ
是デ差支ナイ、斯ウ考ヘテ居リマス、ソレ
カラ遊興飲食稅ノ第三條ノ第三項ト云ハレ
マシタガ、第三條第一項第三號ノコトカト
存ジマス、是ハ度々問題ニナツタノデアリ
マスガ、先程川崎委員ノ御質疑ニ對シテモ
御答シタ通りデアリマス、交付金ノコトニ
付キマシテモ、既ニ川崎委員ニ御答シタ答
デアリマス

○森田委員 川崎サング御尋ニナツテ、ソ
レニ對シテ答辯サレタコトハ、私ハ此處ニ
居ルカラ皆聽イテ居リマス、殘ラズ聽イテ
居ル、其ノ上ヲ聽イテ居ルノデス、命令要
綱ノ點ニ付テノアナタノ答辯ハ、私ハ分ツ

テ居リマス、百分ノ一以下ニ下スヤウナコ
トハナイト仰シヤツタガ、去年モ百分ノ三
ニ修正スル時ニハ、サウデアツタ、豫算ハ百
分ノ一シカ認メナイカラ、豫算ヲ何カラ以
テ賄ツテ、百分ノ三ニナルヤウニナサイト
言ツテ、アナタハソレヲ承知シテ置キナガ
ラ、今年ヤラナカツタ、ヤラナカツタカラ、
今年アナタガ此ノ席上デロデ言ウタダケデ
ハイカヌカラ、命令要綱ニビシヤツト書イ
テ置カウ、ソレニ同意サレタラドウカ、斯ウ
質問ヲシタノデス、百分ノ一以上百分ノ三以
下ニ直シテ置ケバ宜イデアリマセヌカ

○大矢政府委員 繰返シテ申上ゲルヤウデ
アリマスガ、昨年ハ議會ノ御要望通りニ致
シテ居リマス、ソレカラ只今ノ點ハ、命令
ニ是非書イタ方が宜イト云フコトナラバ、
是ハ十分考慮致シマス

○森田委員 昨年議會ノ要望ヲ容レテ居
レバ彼此レ言ハヌ、昨年ハ百分ノ一ニナツテ
居ツタノヲ三ニ修正シタ、ヤハリ百分ノ〇・
五位與ヘテ居ルモノガ多イ、ソコデ苦情ガ
出テ來テ、夜ノ夜半ニ電報ガ來テ私達ハ困
ツタカラ、問ウテ居ルノデアリマス、去年
委員ノ言フ通りヤツテ吳レレバ、今年ハ樂
ダツタ

撞球稅ハ原案ノ二割ヲ一割位ニ下ゲルト
云フコトガ、適當デハナイカト思フノデア
リマスガ、ドウ思ハレマスカ

○大矢政府委員 他トノ均衡上ヤハリ原案
ノ方が適當デハナイカト思フテ居リマス

○森田委員 原案ガ適當ダトハ思ハレマセ
ヌ、是ハ他ノ遊興飲食トハ性質ヲ異ニシテ
居リマス、多少ノコトハ已ムヲ得マセヌケ
レドモ、二十錢、三十錢ノ玉突料ヲ拂ツテ
入ルノニ、斯ウ云フ重稅ヲ課スルト、恐ラ

ク業者ハ生計ヲ營ムコトガ出來ヌヤウニナ
ツテ來ル、此ノ點ハ餘程考慮シテヤラナケ
レバナラスノデ、他ノ料理屋ヤ待合ヤ飲食
店ト同一ニハ論ジラレマセヌ、而モ百分ノ
二〇、即チ二割ト云フト、是ハ一番高イ稅
デス、ソレハ苛酷デアリマス、併シ今アナ
タハ適當ダト仰シヤラレマスカラ、茲デヨ
リ以上申シマセヌ

ソレカラハハドナタカラモ出ナカツタ問
題デス、大藏大臣、内務大臣下チラカラデ
モ宜シウゴザイマスガ、大藏大臣ニ伺ツタ
方が宜シイデセウ、此ノ間モ論ジタ通り、
特別法人稅ト云フモノノ豫算ガ、詳シク言
ヘバ百五十七萬圓ノ歲入デス、百五十七萬
圓ノ歲入ヲ得ル爲ニ、此ノ特別法人稅ヲ課
スルコトハ、思想上ニ於テモ、時局收拾
ノ上カラ見テモ、將來ノ商工聯盟ト産業組
合トノ對立カラ考ヘテ見テモ、何レカラ論
ジテモ此ノ程度ノ金ヲ取ル爲ニ摩擦ヲ起サ
ヌ方が宜シイ、摩擦ヲ起シテ百五十萬圓位
ノ稅收入ヲ得タ所ガ、遊興飲食稅ノ一日分
ニモ當ラスデセウ、ダカラ斯ウ云フヤウナ
法律ヲ此ノ儘通過サセルコトハ、私ハ宜ク
ナイト思フ、大藏大臣ハ島根縣ノ御出身デ
アルカラ、或ル方面カラ御註文ヲ受ケラレ
タラウト思フガ、ドウ御考ニナリマスカ、
此ノ點ハ私ハ全然同意致シ兼ネル、削除シ
タ方が宜イト云フ意見ヲ持ツテ居リマス

○櫻内國務大臣 是ハ度々御答辯申上ゲテ
居ル通りデアリマシテ、單ニ産業組合バカ
リデナク、商業組合、工業組合、即チ特殊
ノ使命ヲ持ツタ公共的の使命ノアル團體ニ對
シテ、特ニ當分ノ間課稅ヲ致シタイ、即チ
今日ノ時局ニ於テ協力ヲ致シテ貰フ意味ニ
於テ、課稅ヲ致スモノデアリマシテ、私ハ

今日ノ際ニ於テ、ヤハリ是ハ原案ヲ通シテ
戴キタイト思フノデアリマス

○森田委員 稅ヲ御取リニナラスデモ國民
ハ協力致シマス、産業組合モ特別法人稅ヲ
取ラスデモ協力スル、寧ロ稅ヲ取ラス方
ガ、ヨリ政府ノ政策ニ協力スルデセウ

ソレカラ次ハ相續稅ノコトデスガ、之ニ
付テハ川崎君カラ述ベラレタ通り、物納ヲ
認ヌルコトニセヌトイカヌト思ヒマス、併
シ是ハ既ニ述ベラレタカラ、私カラハ申上
ゲマセヌ

ソレカラ個人ノ清算所得ノコトニ付テ一
言御尋ヲ申上ゲテ置キマス、個人ハ今マデ
ハ株式ヲ賣却シタ場合ニハ課ツテ居ラズ、
今度モ課ツテ居リマセヌ、今度ハ清算所得
即チ解散ノ場合、清算所得ヲ受領スル時ニ
拂込金以上ノ收入ガアレバ、分類所得稅ヲ
取ル、綜合所得稅ヲ取ルヤウニナツテ居ル
ガ、是ハ甚ダ私ハ宜シクナイト思フ、從來
ハナカツタ、今度サウ云フコトヲ若シヤツ
テ行クトスレバ、株券ハ皆拂込金額以上デ
買ツテ居リマス、恐ラク倍、三倍デ買ツテ
居ルダラウト思フ、ソレニ對シテ解散ヲシ
タ場合ニ元ノ五十圓ヲ標準トシテ、ソレ以
上ノ金ガ戻ツテ來タナラバ、分類所得稅、綜
合所得稅ヲ取ルト云フコトハ、從來取ツテ
居ナカツタモノヲ取ルノデアリマスガ、私
ハ甚ダ要領ヲ得ヌト思フ、株式ヲ賣ツタ場
合ニ、値上リニ依ル利益ガ幾ラアツテモ稅
ヲ取ラスガ、清算ニナツタ時ニハ取ラウト
云フノハ宜クナイト思フガ、是ハ大藏大臣
ハドウ御考ニナリマスカ

○櫻内國務大臣 ソレハヤハリ性質ガ違フ
ノデアリマシテ、株式ヲ賣却シテ利益ガア
ツタ場合ニ於テ課稅ヲシテナイ、ソレハ其

ノ通りデアリマス、其ノ代リ此ノ問題ニ對シテハ損ヲ致シマシタ場合ニ於テモ取ラナイノデアリマス、是ハ損得ノ場合ガ兩方共多少性質ガ違ヒマスノト、實際ニ於キマシテ、課稅ヲ致スト云フコトニ付キマシテハ、株式ヲ賣ツタ買ツタト云フコトニ付テ、取扱手續ノ上ニ於テ旨ク取扱フ方法ガアリマスト宜イノデアリマス、必ズ取引所ニ於テ賣買シテヤルト云フコトニナリマス、ソレハ買ツタ時ノ値ト賣ツタ時ノ値トノ差ニ對シテ、課稅スル方法ガアルト思ヒマス、併シナガラ今日ハ必ズシモ取引所バカリニ於テ取引ヲ行ツテ居ラナイノデアリマシテ、種々ナルコトガアリマシテ、手續上相當困難ガアルト思ヒマス、併シ是ハ總テノ問題ニ對シテ、課稅スル根本方針ト致シマシテハ、サウ云フ場合ニ於ケル所ノ利潤ニ對シテモ課稅ヲスルノガ、或ハ妥當デアアルカト思ツテ居リマスガ、今回ノ稅法ノ改正ニ於キマシテハ、ソコマデ參ツテ居ラナイノデアリマシテ、之ヲ急ニ左様ナモノニ課稅ヲスルト云フコトニ付キマシテハ、相當ノ調査ト準備ガ要リマスノデ、今回ハ之ヲ認メナカツタノデアリマス、而シテ清算ニ對シマシテハ、成程例ヘバ今日立派ナ會社デ、株券ガ百圓モ百五十圓モ致シテ居ル、サウ云フ會社ガ解散ヲスルト云フコトニナツタ場合ニ五十圓ナラ五十圓ト云フ拂込金以上ノ清算所得ノアツタ場合ニ清算所得稅ヲ取ルノハ不都合ダト云フ御話デアリマスガ、ソレハ株式ヲ買フ人ハ、清算所得ト云フコトニ對シマシテ、豫メサウ云フ風ナ稅ガアルト云フコトヲ覺悟シテ買フ、斯ウ云フコトニ將來ハナルト思フノデアリマシテ、從來ト今後トハ自ら變ツテ來ルノデアリマス、即

チ清算所得自體カラ申上ゲマス、ドウシテモ株式會社ガ解散スル時ニ、儲ケタ利益ガアツタ、斯ウ云フコトナラバ、ソレニ對シテ課稅致スコトハ當リ前デアリマシテ、會社ノ配當ニ於テスラ配當ヲ致ス時ニ於テ取ルノデアリマスカラ、其ノ解散スル場合ニ於テ特殊ナ利益ガアリマシタナラバ、其ノ特殊ナ利益ニ對シテ課稅スルト云フコトハ不當デハナイヤウニ考ヘルノデアリマス

○森田委員 其ノ點大藏大臣ハ十分腹ニ入ツテ居ラレヌヤウデアリマス、サウ云フ風ニ解釋ヲスルコトガ出來ヌデアリマセウカ、アナタノ仰シヤルヤウニ利益配當ヲシタ時ニデモ稅ヲ取ルヂヤナイカ、隨テ今度解散シタ時ニ餘分ニ貫ヘバ、ソレノ稅ヲ取ルト云フコトハドウ云フ意味デアリマスカ、平素ノ利益配當ハ、營業ノ純益金ヲ配當スルノデス、清算配當ハドウ云フコトヲヤルカト云フト、從來積立金ニナツテ居ツタリ、後期繰越金ニナツテ居ツタモノ、所謂留保サレテアツタモノヲ解散ニ對シテ株主ニ分配スルノデアリマス、隨テ株價ト云フモノハ、留保金額ノ多イ會社ハ市價ガ高イ、假ニ我國デ言フナラバ、五十圓拂込ノ鐘紡ノ株ガ二百五十圓シテ居マセウ、其ノ他之ニ準ジテ社内ニ留保金ノ多イ會社ノ株價ガ高イノデアリマスカラ、斯ウ云フ時ニ解散シタ場合、假ニ五十圓ノ鐘紡ノ株ガ清算所得デ二百五十圓配當サレタトスレバ、二百圓ニ對シテ綜合所得稅ト分類所得稅ヲ取ラレルコトニナルト、一方二百五十圓買ツタ人ハドウナルデセウ、破産ヲシナケレバナラナイコトニナル、拂込シタ株主ガ其ノ儘依然トシテ株主デアラナラバ、アナタノ説ガ立ツ、株主ハ移動セス、拂込以上ニ買ハヌ、

ソレハアナタハ大藏省ニ居ラレルカラ、公債ノ價格ト間違ヘテ居ラレルノデハナイカ、公債ナラバ政府ガ價格ヲ維持シテ居ルカラ、何時マデ經ツテモ上リハセス、株券ハサウデハナイ、價格ニ變動ガアリマス、サウスルト高イ價格買ツタ人ガ損ヲスル、元ノ拂込シタ人ガ逃ゲテシマツテ得ラスル、一口五十圓拂込シタ人ガ百圓買ヘバ、其ノ五十圓ハ課カツテ來ナイ、是ハ認識ヲ改メテ貫ハヌトイカヌ

〔委員長退席、小山委員長代理著席〕

○大矢政府委員 從來所得稅法ニ於キマシテハ「株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額カ其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス」斯ウ云フ風ニ致シマシテ、斯ウ云フ場合ニハ他ノ所得ト同様ニ致シマシテ、利益配當トシテ綜合課稅シテ居タノデアリマスガ、今回ハ更ニ此ノ外ニ今御示ノ法人ガ解散シタ場合トカ、合併シタ場合ヲ加ヘタノデアリマスガ、其ノ性質ハ全ク同ジモノト思フノデアリマス、但シ從來ハ普通ノ配當ト同ジヤウニ、總テ之ヲ綜合シテ、超過累進稅率デ課稅シテ行ツタノデアリマスガ、是ハ毎年配當ヲ受ケルモノト性質ガ違ヒマスカラ、此ノ度ハ他ノ所得ト區分致シマシテ、別個ニ累進稅率ヲ以テ課稅シヨウト致シマシテ、從來ヨリモ其ノ點ハ負擔ノ緩和ニナツタ次第デアリマス、法人ノ解散シタ場合、同ジク合併シタ場合ニ付キマシテハ、從來法人ニ於テ清算所得ヲ課稅スル、個人ニ對シマシテハ課稅シテ居ナカツタノデアリマスガ、最近ノ情況ヲ見マス、此ノ制度ヲ利用シテ

相當負擔ノ輕減ヲ圖ルヤウナ傾向ガ顯著ナモノガアルノデアリマス、即チ毎年相當配當シテ然ルベキモノヲ配當セス、社内ニ蓄積シテ置キマシテ、相當積立金ガ殘ツタ場合ニ解散スル、斯ウ致シマスレバ、毎年普通ニ配當致シマスレバ、普通ノ配當トシテ綜合課稅致スベキモノデアリマスルガ、サウデナク致シマシテ、法人ニ於テ比例稅率ニ依ツテ課稅ヲ受ケテ濟マス、斯ウ云フ場合ガ餘程出テ來タノデアリマス、併シナガラ是ノミヲ以テ今度ノ改正ヲ致シタノデアリナイノデアリマシテ、森田サシノ方ハ株ノ移動ハ非常ニ多ク行ハレルモノト云フ前提デアリマスガ、一面ニ於テ資產家等ニ於キマシテハ、永ク所有シテ居ルノガアルノデアリマシテ、殊ニ同族會社等ニ於キマシテハ是ガ多イノデアリマス、ソレガ解散シタ場合ニ、從來ノ課稅方法ニ依リマスルト、普通ニ毎年配當スル配當金トノ間ニ於テ、非常ナ負擔ノ不均衡ガ起ル、斯ウ云フノデアリマシテ、ソレ等ノ點ヲ考慮致シマシテ、此ノ度ハ個人デ課稅スルト云フコトニ致シタノデアリマスガ、併シ他ノ所得ト區分シテ累進稅率ヲ盛ルト云フノハ、是等ノ性質カラ致シマシテ、左様致スベキデアルト考ヘテ此ノヤウニ致シタ次第デアリマス、是ハ丁度數年前利益配當稅ニ於キマシテ、高率ノ配當ヲシテ居ル株ニ對シテ、特別ニ課稅スルノガ善イカ惡イカト云フ問題ガアツタ場合ニ論議セラレタノト、大體同ジナノデアリマシテ、何レヲ重キニ見ルカト云フノデアリマシテ、來ルコトカト存ジマス、ソレデ私共ハ今申上ゲタヤウナ點ニ重キヲ置キマシテ、斯ウ云フ方法ニ致シタノデアリマスガ、一旦此ノヤウニ致シマス、先程大

藏大臣カラ御答致シマシタ通り、將來株式ノ賣買ヲスル者ハ、之ヲ前提トシテ取引スルト云フコトニナツテ居リマスノデ、其ノ點ハ將來ハ此ノ制度ガ出來タ以上ハ支障ナク行ハレルモノ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、ソレハ恰モ利益配當稅ノ課稅ガアルト云フコトヲ前提トシテ取引セラレルノト同ジダト存ジマス

○森田委員 答辯ハ成ベク簡單ニ願ヒタイ、澤山答辯ナスツテ、到頭何ガ何ヤラ分ラヌヤウニナツテシマフ、ソレヨリモ「イエス」カ「ノー」カ言ツテ貰ヒタイ、ソレガ上手ナ答辯カモ知レヌガ、要領ヲ得ヌ、澤山言ツテ貰ハヌデモ宜イ、其ノ質問ノ趣旨ニハ贊成、其ノ質問ノ趣旨ニハ反對ト云フ風ニヤツテ貰ヘバ宜イ、今ノ清算所得ノ問題ハ、吾々ハ退職手當同様に扱フベキダト思ツテ居リマス、分類所得ミタヤウナモノデヤツテ行クベキモノデアル、大藏大臣ノ仰シヤルヤウニ豫メ斯ウ云フ稅法ガ出來タカラ、ソレヲ覺悟シテ賣買シヨウト言ヘバ株價ハ上ラヌデセウ、株價ガ上ラヌコトニ依ツテ日本ノ産業ガ發達セヌコトハ、アナタモ能ク御承知ノ通りデアリマス、株價ガ下ルヤウナ時ハ生産ノ擴充ハ出來ナイデセウ、株價ノ上ルヤウナ時代ニシナケレバ生産ノ擴充ハ出來マセヌ、アナタノ仰シヤルヤウナコトデ生産ノ擴充ヲ圖ラウナドト云フコトハ思ヒモ寄ラヌコトデアル、賣買ニ先ダツテ解散ノ場合ニ斯ウ云フ稅ガ課カルト云フコトヲ豫メ知ラシテヤルコトモ出來ナイ、殊ニ今日ハアナタノ方ハ統制經濟ノ名ノ下ニ於テ、強力ナ業者ノ合併ヲ勸メラレテ居ルデハアリマセヌカ、其ノ場合ニハ解散ト同様ナ扱ヲ受ケテ、此ノ改正法ニ依ツテ、

澤山ノ稅ヲ取ラレルコトニナリマス、ソレカラ主稅局長ハ、配當ヲシテ置キサヘスレバ解散ヲシタ時ニ餘計清算所得ガナイト云フノハ、御尤モデアル、ソレナラバ許可シタラドウカ、一割以上ノ配當ヲサセヌヤウニシテ、認可ノ申請ヲシテモアナタノ方ハ許可セヌ平常配當サシテ置イタナラバ、今ノ主稅局長ノ理論ハ立ツガ、平常ハ一割以下デナケレバイカスト抑ヘテ置イテ、今度清算所得ガ多ケレバソレダケ取ツテシマハウト言フナラ、モウ少シ明瞭ナ答辯ヲシタラ宜イ、詰リ清算所得ヲスル際ニ取ルト言ハレルノナラバ話ハ分ル、ソレヲ如何ニモ合理合法的ニ答辯シヨウトスルカラ、無理ガ出來テ來ル、私ハ此ノ點ハ是レ以上追究セヌ、併シナガラ今ノ當局ノ答辯ニ満足デコロデハナイ、問題ニナラヌト云フコトヲ申上ゲテ、次ノ段ニ移リマス

同族事業會社ノ加算稅ハ廢ル方ガ宜イト思フガ、御所見如何、理由ハ屢、申上ゲタカラモウ申上ゲナイ、保全會社デナイ、同族會社デアツテ、建物ヤ土地ヤ株券ヲ持ツテ、他ノ營利法人ト同様ニ事業ヲシ、産業ヲ行フ、之ニ對シテハ加算稅ハ全然課ケヌ方ガ宜イト思フガ、御意見ハ如何デスカ

○櫻内國務大臣 全然課ケヌト云フコトハ、私ハドウモイケンイト思ヒマス、ソレカラ前ノ清算所得ノ問題、清算課稅ノ問題デアリマスガ、主稅局長ガ申シマシタ通り、若シ左様ナコトヲ致シマス、留保所得ヲドンドンヤツテシマツテ、留保所得ヲシテ纏メテ解散スルト云フヤウナ弊モ起ツテ來ルノデアリマシテ、ヤハリ其ノ場合ニ於キマシテハ、現行ノ課稅方針ヲ執ツテ行ク方ガ宜シイト思ヒマス

○森田委員 然ラバサウ云フ答辯ナラ、今ノ同族會社ニヤハリ取ツタ方ガ宜イト云フノハドウモ理由デスカ、同族デヤル事業會社ト、同族デナイ株ノ分散シテ居ル會社ガ事業ヲ行フモノト、ドウ云フ違ヒガアルカ、一體同族會社ニ加算稅ヲ課ケルト云フコトハ御承知デアラウト思フガ、保全會社ガ出來、サウシテ合法的ニ脫稅行爲ヲヤルカラ加算稅ト云フモノハ途中カラ課ケテ最初ハナカツタ、御承知ノ通り合法的脫稅ヲ防止スル爲ニ同族會社ト云フモノヲ認メルコトニ依ツテ、ソレニ加算稅ヲ課ケルヤウニナツタ、然ルニ其ノ當時ニ同族會社ト云フモノハ事業ヲ行フモノハナカツタ、土地、建物、株券ヲ保存スル保全會社デアル、今日ハ立派ニ他ノ同族ニアラザル會社ト同様ニ事業ヲ行フ會社ニナツテ居ル、何ノ必要ガアツテ加算稅ヲ取ルノカ、其ノ理由ヲ承リタイ、寧ロ其ノ方ガ政府ハ獎勵シナケレバナラス、同族會社デヤツテ吳レタ方ガ綜合所得稅ガ澤山入ル、ソレヲ株主ガ分散シテ居ツテ僅カナ株主ガ多イ場合ニハ分類所得稅シカ入りマセヌ、同族デヤツテ居ル時ニハ綜合所得ガ澤山入ツテ來ル、其ノ點ハ算盤ヲ持ツテ一ツ御考ニナツタラ宜イ

○櫻内國務大臣 御意見ハ御意見トシテ拜聽致シマスガ、從來ノ同族會社ニ於テハ俗ニ「シニア・ホールダー」、株券保有ノ性質ヲ持ツテ居ルノデアリマシテ、一種ノ脫稅的行爲ガ含マレテ居ルト云フ風ニ見ラレテ居ツタ傾ガアリマス、即チ負債ノ利子モ他ノ者ガ株ヲ持ツテ居レバ引カレナイガ、同族會社ヲ拵ヘテヤツテ居リマスレバ、其ノ負債モ引クノデアリマシテ、隨テ課稅モ減ツテ來ルト云フ事柄ハアリ得ルノデアリマス、

而シテ事業ヲヤツテ居ル場合ニ尙ホ課稅スルト云フノハ不都合デヤナイカト云フ御話デアリマスガ、併シナガラ同族會社ニ於テ事業ヲヤツテ居リマス場合ト、株式會社ニ於テ事業ヲヤツテ居リマス場合トハ自ら違フ點ガアリマス、若シ極ク小サナ點ヲ申セバ、斯ウ云フコトガアルトハ私ハ申シマセヌケレドモ、爲シ得ルコトガアル、例ヘテ言ヘバ自分ノ乗ツテ居ル自動車ノ運轉手モ自分ノ會社ノ傭人ニスル、自動車ノ「ガソリン」ナドモ含メテ會社ノ經費ニ立デルト云フヤウナ事柄ニ依ツテモ脫稅ガ出來ナイコトハナイ、出來ルノデアリマス、又個人ガ同族會社トシテ殆ド全權ヲ持ツテ居リマスレバ、自ラソコニ於テ稅ノ少イコトヲ圖ル途ハ多クアルト思フノデアリマス、隨ヒマシテ一部ノ人ガ同族デ持ツテ居ル場合ニハ幾分課稅ヲ加ヘルコトハヤツテ差支ナイト思ヒマス

○森田委員 其ノ點ハ時間ヲ費シマスカラ成ベク言ヒタクナイガ、併シ相當私ハ早く切り上ゲテ居ル積リデス、今アナタノ答辯ニ於テ、同族會社ト株式會社ト仰シヤツタガ、同族會社モ株式會社モ大體同ジデス、ソレカラ同族會社ノ者ハ運轉手ノ給料ヲ拂フ、「ガソリン」代ヲ拂フ、勿論同族會社デモ會社ノ所有ノ自動車ニ對シテハ重役モ社長モサウデアリマス、サウスルト同族會社ニアラザル株式會社ノ社長トカ總裁トカ、アナタノ監督下ニアル會社ハ澤山アルガ、ソレハ皆個人ガ拂ツテ居リマスカ

○櫻内國務大臣 兎ニ角民間ニアリマス會社ノ重役ナドニ付テハ、自分ノ金デ拂ツテ居ル所ガ澤山ゴザイマス、全部ガサウデアルトハ申シマセヌケレドモ、サウ云フ所ガ

多々アルノデアリマス、殊ニ同族會社ニ付テ尙ホ一遍申シマスト云フト、同族會社ニ於キマシテハ配當スベキ所ヲ無配當ニスル場合モ起リマス、ソレハ結局全部ニ於テハ相違ガ起ツテ來ルノデアリマス、隨テ負擔ノ均衡ノ上カラ行キマシテモ、サウ云フ場合ニ於テモ多少ノ加重ヲシテモ差支ナイヤウニ思ヒマス

○森田委員 モウ議論ハ致シマセヌガ、アナタノ仰シヤルコトハ少シモ肯定ガ出來ナイ、他ノ銀行ヤ會社ハ重役ガ個人デ持ツテ居ルト云フナラ例ヲ擧ゲテ貫ヒタイ、日本銀行デモ、日本興業銀行デモ、斯ウ云フ所ノ重役諸君ガ個人デ「ガソリン」代ヲ拂ツテ自動車稅ヲ拂ツテ居リマセウカ、私ハサウ云フコトハシテ居ラスト思フ、サウ云フコトハアリ得ヌコトデアアル、ソレカラモウ一ツ配當セヌ虞ガアルトカ、留保スル虞ガアルト仰シヤルガ、其ノ虞ガアレバコソ私ガ前段質問シ、アナタガ答ヘタヤウニ、解散シタ時ニ對シヒドイ案ヲ立テタノデハナイカ、是レ以上ハ繰返シマセヌケレドモ、アナタノ答辯デハ満足ハセヌ、是ハイカヌト云フコトガ自分ナガラ御分リニナツタラウト思フ

次ニハ鑛區稅法ノ第十條ニ依ルト、今高橋君カラモ一寸御話ガアリマシタガ、十五年十六年ノ二箇年間に徵稅サセナイヤウニシテ、十七年カラ取レルヤウニナツテ居ル、サウストル此ノ二箇年間ノ經過期間ハ地方ハドウ云フ財源ニ依ツテ賄ツタ宜イノデアリマスカ、之ヲ取ラセヌ代リニ、其ノ稅額ニ相當スル財源ハ何ヲ與ヘテヤルト云フ御考デアリマスカ、私ハヤハリ十五年カラ取ルノガ宜イト云フ意見ヲ持ツテ居ル、當局ハ取ラセヌ代リニ其ノ財源ハ何ヲ與ヘル

カ、ソレヲ承リタイ
○挾間政府委員 ソレハ今度ノ稅制改正ニ於テ一般ノ歲入ノ計畫デ、各團體トモ賄フコトガ出來ルヤウニナツテ居リマス
○森田委員 其ノ稅ヲ取ラズ、其ノ稅額ニ相當スルモノヲ名目ヲ變ヘテ別ニヤルノデスカ、分與稅ノ方デハヤレナイ、分與稅ノ方デハ、鑛產稅ガ取レヌヤウニナツタカラト云フノデ、餘分ニ配付シテヤル方法ハナイ
○挾間政府委員 今マデ取ラナイノデスカラ、十五年十六年ト變リハオイ、十七年カラ取レルヤウニナルノデス
○森田委員 ソレハ今マデモ取ツテ居リマス、今マデハ地方ノ稅源トシテ取ツテ居リマス
○挾間政府委員 鑛產稅ハ營業稅ニ代リマシテ十五年度カラ直グニ取リマス、併シナガラ鑛區稅ハ現在ハ取ツテ居リマセヌ
○森田委員 ソレハ營業稅ハ前ニハ地方デ取リ今度ハ國デ取ル……
○挾間政府委員 營業稅ハ國デ取リマスガ、附加稅ヲ地方デ取ルノデス、鑛產稅モ同様デアリマス
○森田委員 私ハアナタノ話ハ分ラヌ、今マデハ鑛產稅ハ地方稅トシテアツタガ、今度ハ形ヲ變ヘテ國ガ取ル、隨テ附加稅ハ僅カチモノデス、ソレデハ賄ツテ行ケマセヌ、ダカラ此ノ第十條ノ十六年度マデト云ハズニ、直グニ取ラセバ宜イノダカラ、ソレニ贊成シタラドウデス

○大矢政府委員 是ハ現在ノ鑛業法ノ第十八條ノ第二項ニ「北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シヌハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直

接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ヌ」トアリマスノデ、此ノ規定ニ依リマシテ直接鑛業ノ用ニ供スル家屋ニ對シテハ地方稅ノ賦加ハ許シテ居リマセヌ、家屋稅ハ十七年度カラ國稅ニ於テ課稅スルコトニナルガ、ソレマデノモノハ今マデモ課稅シナイシ、賃賃價格モ附イテ居ラナイモノデアルカラ、二年間ハ暫ク從來ノ通りニシテ行カウ、斯ウ云フ譯デアリマシテ、此ノ規定ガアル爲ニ地方團體ガ從來ヨリモ財源ニ缺陷ヲ生ズルト云フコトハナイノデアリマス

○森田委員 サウストル、アナタハナイト言ウテモ、地方デハアルト言ウテ陳情シテ來テ居ル、今炭礦地カラ皆陳情ニ來テ居ルデハアリマセヌカ、ナイモノガ來ル譯ガナイ、ダカラシテ十七年度カラ取ラズニ十五年度カラ取ル方ガ宜イト思フ
次ハ市町村民稅ノ問題デアリマスガ、是ハ昨日モ申上ゲタノデアリマスケレドモ、一人ノ平均ガ三通リニナツテ居ル、隨テ最高モ三種程度ニ變ヘルベキモノデアルト思フ、其ノ點ハ内務大臣ハ昨日ト違ツタ答辯ヲシテ貫ヒタイ

○兒玉國務大臣 私ハ原案ガ適當ダト思ヒマス
○森田委員 適當ダト思ハレテモ私ハ贊成シマセヌ、何レ其ノ他ノ點ハ討論ノ時ニ讓リマシテ、私ノ質問ハ是デ終リマスガ先程申上ゲタヤウニ、一ツ用意ト準備ヲシテ置イテ貫ヒタイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○堀切委員長 川崎君、此ノ際内務大臣ニ、留保サレタ問題ニ付テ質問サレテハ如何デスカ

○川崎(克)委員 内務大臣ニ伺ヒタイノデアリマスガ、高橋君モ御質問ニナツタノデ、スケレドモ、政府委員カラ御答辯ガアツタ問題ガ一ツアリマス、ソレハ内務大臣ガ御出デニナツテ居リマスカラ内務大臣ニ伺ヒマス、高橋君モ市町村民稅ノコトデ御質問ニナツテ居リマスガ、最高稅額ノ千圓ヲ二千圓トスルト云フコトデス、之ニ對シマス答辯ハ、住民稅ノ性質上ハ極メテ低イ程度ノ負擔ヲ住民ニ要求スル意味カラ來テ居ルノデ、稅額ノ方カラ來テ居ルノデハナイノデアルト云フ趣旨ノ答辯ガアツテ、先ツ千圓程度ト云フヤウナ趣旨ノ御答辯ガアツタノデアリマス、所デ之ニ對シテ二千圓ニシタナラバドウデアラウカト思フコトハ、稅額ノ二千圓ト云フモノヲ抑ヘテ、ソレ以上殖ヤサナイコトニシテ、サウシテ人口ノ割合カラ言ヘバ先ヅ七十萬石程度位ナ都會地ニハ二千圓位ナ程度ニシタナラバドウデアラウカ、其ノ譯ハ、同ジ住民デモ貧富ノ懸隔ガ非常ニ違フカラ、ソコニ社會政策的ノ意味モ加ハル譯デアアル、サウスレバ下ノ者ガ輕クナツテ來ル所以デモアル、是ハ負擔均衡ノ意味モ加ハリ、社會政策ノ意味モ加ハリマシテ、稅額ヲ上デ抑ヘテソコデ負擔ノ均衡ヲ見ルコトガ宜イノデハナイカ、斯ウ云ツタヤウナ見地デ居ルノデアリマス、其ノ意味デ一ツ内務大臣カラ御返事ヲ願ヒタイ

○兒玉國務大臣 之ヲ千圓ト抑ヘマシタノハ、只今川崎サンカラ御述ベニナリマシタ理由ニ依リマシテ千圓ト抑ヘタノデアリマス、併シ千圓デナケレバナラヌト云フ強イ理窟ハ私ハナイト思フノデアリマス、併シ只今申上ゲマシタ通り、原案ニ於キマシテハ只今川崎サンガ繰返シテ申サレタ理由ニ

依リマシテ、何レ其ノ他ノ點ハ討論ノ時ニ讓リマシテ、私ノ質問ハ是デ終リマスガ先程申上ゲタヤウニ、一ツ用意ト準備ヲシテ置イテ貫ヒタイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

於テ、千圓ヲ以テ適當ナリト思フノデアリ
マス

○川崎(克)委員 能ク分リマシタ、私共モ必
ズシモ二千圓ガ妥當ナリト主張スルノデハ
ナク、斯様ニモ考ヘラレドハナイカト云
フコトヲ質問シタ譯デアリマス

ソレカラ更ニ伺ヒタイノハ、三部制ノ制
度ヲ今度廢セラレコトニナルノデアリマス
ガ、之ヲ廢サレル結果トシテ——是ハ或ハ
小委員會デ問題ニナツタト思ヒマスケレド
モ、最後ニ此ノ問題ヲ確メテ置キタイト思
フノデスガ、愛知縣ハ御承知ノヤウニ、市
ノ之ニ對スル負擔ハ六百三十萬圓、郡ノ
方ハ二千六百萬圓ト云フコトニナツテ居リ
マシテ、市ノ方ノ六百三十萬圓ニハ償還財
源ガアル譯デスガ、片一方ハナイト云フヤ
ウナ負擔ノ不均衡ガ現ハレテ居ル、ソレカ
ラ兵庫縣ノ方ハ亦非常ナ懸隔ガアリマシ
テ、市ノ方ガ二百万圓シカ負擔ガナイノニ、
郡ノ方ハ四千七百萬圓ト云フコトニナリマ
シテ、是ハ五十六倍モ負擔ガ違ツテ居ル、
之ヲ今度三部制ヲ廢セラレルト云フコト
ニナリマス、同一ノモノニナツテ、餘
リ懸隔ノアル負擔ヲ市部ガ受ケテケレバナ
ラヌト云フヤウナ不均衡ナ情勢ガ茲ニ現ハ
レル、斯ウ云フコトハ今マデノ先例デハ、
何デモ之ヲ緩和スル爲ニ、廣島等ニ於テハ
三年間之ヲ延期セラレタト云フヤウナ例モ
アルヤウニ承ルノデアリマスガ、左様ナ例
ニ依ルコトガ出來ナイモノカドウカト云フ
コトト、若シ此ノ不均衡ヲ是正スルト云フ
ナラバ、何カ對策ヲ以テ、之ニ對處スルノ
ニハドウ云フ風ニヤツタラ此ノ不均衡ヲ直
セルカト云フコトニ付テノ御案ガ御アリデ
アレバ、具體的ノ案ヲ御示シテ願フコトガ

結構ダト思ヒマスノデ、ソレヲ承ツテ置キ
タイ

○兒玉國務大臣 三部制ノ廢止ニ付キマシ
テハ、小委員會ニ於テモ色々御議論ガアツ
タノデアリマスケレドモ、政府ト致シマシ
テハ此ノ際是非此ノ三部制ハ廢止シタイト
云フ固イ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス、ソ
コデ三部制ヲ此ノ際廢サヌデ、多少ノ猶餘
期間ヲ置イタラト云フヤウナ御議論モアル
ノデアリマスケレドモ、猶餘期間ヲ置クト
云フ事柄ハ却ツテ其ノ間ニ色々弊風ヲ生
ズルト云フ虞レガアリマスノミナラス、地方
税法ヲ施行スル上ニ、殊ニ配付稅等ノ問題
ニ關シマシテ、三部制ヲ存置スル時ニ於キ
マシテハ、之ヲ實行スルコトガ殆ンド不可
能ニ屬スルト云フコトニナルノデアリマス、
ソレ故ニ此ノ三部制ハ此ノ際廢止致シタイ
ト思ツテ居リマス、而シテ三部制ハ差當リ
廢シマスケレドモ、併シ後ノ始末ニ付テハ
數箇月ノ間ニ始末致セバ宜シイノデアリマ
ス、是ハ只今御話ノヤウニ、最も大ナル問
題ハ地方債ノ問題ニ屬スルノデアリマス、
之ニ付キマシテハ知事ヲ中心ト致シマシテ、
地方的ニ之ヲ解決スルヤウニ善處スルト云
フ考デ居ルノデアリマス、此ノコトニ付キ
マシテハ、只今假想的ニ斯ウシタラ宜カラ
ウト云フ考ハアルノデアリマスケレド
モ、ソレハ實際ニ付キマシテ能ク調査ヲ
致シマシテ、可能ナ善處ノ方法ヲ講ズルコ
トノ必要ヲ感じテ居ルノデアリマス、而
シテ此ノ問題ハ今日ニ於キマシテハ只今
御話ノヤウナ事情ガアリマスケレドモ、
恐ラクハ圓滿ニ解決シ得ベキ問題ダト固ク
信ジテ居ルノデアリマス、而シテ從來猶豫
期間ヲ置キマシタノハ、課稅ノ率ニ非常

ナル差ガアリマスルノヲ、一度ニ直ス
譯ニ參ラナイモノデアリマスカラ、茲ニ數
年ヲ置キマシテ、其ノ間ニ課稅率ヲ平均サ
セマシテ、均衡ヲ得タ上デ廢止スル、斯
ウ云フ順序ニナツテ居ルノデアリマス、原
則ト致シマシテハ、此ノ三部制ナルモノハ
段々ニ廢サレマシテ、今日御承知ノ通り二
縣ダケ存シテ居ルノデアリマス、是ハ何レ
ノ時ニカ廢止シナケレバナラスノデアリマ
ス、只今ノヤウニ地方税法ヲ施行スル上ニ
於キマシテ、之ヲ廢止スベキ必要ガ起ツテ
參リマシタノデ、此ノ機會ニ於テ廢止スル
ト云フコトニ致シ、此ノ善後措置ニ付キマシ
テハ、出來ルダケ圓滿ニ負擔ノ均衡ヲ得マ
スルヤウニ努力シタイト考ヘテ居ルノデア
リマス

○川崎(克)委員 是ハ內務大臣ニ私ノ質問ノ
要旨ヲ更ニ分ケテ申上ゲマスガ、私共ハ制度
ノ改廢ノ問題ト、負擔ノ問題トハ分ケテ考ヘ
テ見タイ、三部制ノ廢止問題ト云フ其ノ制
度問題ニ對シテ疑義ヲ言ツテ居ルノデア
リマセス、ソレカラ此ノ三部制ノ廢止ヲ爲ス
ガ爲ニ、斯様ナ負擔ノ重イモノト輕イモノ
トノ不均衡ヲ生ズルト云フコト自體ニ對シ
テハ、三部制ヲ廢止スル場合ニ豫メ前提條
件トシテ御考ニナルベキモノデハナイカト
思ハレル、難カシイ理窟ノヤウニナリマス
ケレドモ、一體此ノ負擔ニ關スル問題ハ、憲
法上ノ問題カラ言ヘバ、會議ヲ開イテ承諾
ヲ得ナケバナラナイト云フ難カシイ論モア
ル譯デ、其ノ建前カラ行ケバ、唯法令一本
デ三部制ヲ廢サレタト云フコトニナル、併
シ其ノ制度ノ改廢ハ宜シイ、制度ノ改廢ア
ルガ爲ニ茲ニ負擔ノ不均衡ヲ生ミ出ス、其ノ
事ガドウカ、ソレノ無イヤウニシテ三部制ノ

廢止ヲシケレバナラスデハナイカ、茲ニ論點
ハアルト思フ、私共ハ三部制ノ廢止ノコト
ソレ自體ニ對スル異議ヲ言ツテ居ルノデナ
シニ、負擔ノ不均衡ガ法令一本デ生ズル場
合ニ處シテ、帝國議會トシテ左様ナ事ヲ見
テ居ツテ宜イカ悪イカト云フコトニナレバ、
吾々議員ノ職分トシテ負擔ノ問題ニ對シテ
ハ當然之ヲ主張シテ、改ムベキモノハ改メ
ナケレバナラス、政府ノ氣ノ付カヌ所ハ改
メサスベク主張ヲシナケレバナラス、斯様
ナ建前ニ立ツノデアリマス、其ノ意味ガ能
ク御分リ願ヒマシタラバ、ドウスルカト
云フ私ノ先刻投ゲタ質問ニ對シマスル御答
モ明瞭ニ御願出來ルノデハナイカ、斯様ニ
思フ

○兒玉國務大臣 川崎サンノ前ノ御質問ニ
對シテモ能ク了解シテ居ルノデアリマス、
負擔ノ不均衡ニ付テ從來ノ例ヲ申シマスル
ト、課稅上ノ負擔ノ不均衡ガアリマシタガ
故ニ之ヲ順次直シテ行ク爲ニ猶豫期間ヲ置
キマシテ、其ノ期間内ニ於テ整理致シマシ
テ廢止スル、今回ニ於テハ其ノ課稅上ノ
負擔ノ不均衡ト云フコトハナイノデアリマ
シテ、茲ニ殘ツテ來ル問題ハ、只今御話ニ
ナツテ居リマシタ地方債ニ依リマスル所ノ
問題ガ殘ツテ參ルノデアリマス、市部ト郡
部トノ間ノ債務ノ關係ガ一番大キナ問題ニ
ナルノデアリマス、之ヲ如何ニ處理スルカ
ト云フ事柄ガ一番難カシイ問題ニナルノデ
デアリマス、此ノ債務ノ問題ヲ處理スルガ爲
ニハ、只今申上ゲマシタル通りニ實際ノ事
情ニ應ジマシテ適當ナル解決ヲ致シマシテ、
市部ニ對シテ非常ナル迷惑ヲ掛ケルコトナ
ク、郡部ニ於テモ納得スルヤウナ方法ニ依
リマシテ、話ヲ圓滿ニ付ケル、此ノ方針ヲ

以テ今日進シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ問題ハ恐ラクハ私ハ圓滿ニ解決ラシテ、茲ニ三部制ノ廢止ガ實現シ得ルコトト信ジテ居ルノデアリマス、又責任ヲ以テ其ノ解決ノ任ニ當リタイ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス

○川崎(克)委員 私ハ大臣ニ申上ゲマスガ、課稅ト云フコトヲ言ツテ居リマセヌ、負擔ト云フコトヲ言ツテ居ル、負擔ハ負債ノ意味ニ於ケル負擔ノコトヲ言ウタノデス、其ノ不均衡ヲ生ズルコトヲ御認メニナツテ、適當ニヤルト云フコトヲ仰シヤツテモ、ソレデハ分ラナイデス、具體的ニドウ云フ風ニシテオヤリニナルノカ、ソレガ分ラナケレバ非常ニ不明確デス、斯ウ云フ問題ハソレヲ適當ニヤルベキモノナリト御認ニナル以上ハ、ドウ云フ風ニシテ適當ニヤルカト云フコトヲ御示ニナラナケレバナラヌ

○兒玉國務大臣 此ノ負債ノ處理ノ問題ニ付キマシテ、斯ウモシタラ宜カラウト云フ腹案ガアリマスノデ、政府委員カラ御話ヲ申上ゲルコトニ致シマス

○挾間政府委員 三部制廢止ニ伴ツテ起リマス最モ大キナ善後處理ノ問題ハ、市部債ト郡部債トノ不均衡デアルト云フ點ヲ如何ニ善後ニ處理スルカト云フ問題デアリマス、是ハ色々方法ガアルト思ヒマスガ、少クトモ愛知縣ト兵庫縣トノ間ニ於テ事情ガ違ツテ居リマス、又愛知縣民ノ望マレル所ト兵庫縣民ノ希望セラレル所トニモ自ラ相違ガアルデアラウト思フノデアリマス、隨テ畫一シタル標準、畫一シタル方法ヲ以テ此ノ問題ヲ處理スルト云フコトハ適當デナイト思ヒマスノデ、政府ノ考ヘル所ト致シマシ

テハ、各地元ニ於テ適當ノ案ヲ考ヘ、サウシテ市部郡部才互ニ協調致シマシテ、ソコニ適當ナル善後處理ノ成案ヲ得ラレルコトヲ希望シテ居リマス、併シナガラソレニ付キマシテ政府トシテハ色々ノ方法ヲ考究致シテ居リマス、例ヘバ市ガ持つテ居リマス負債ヲ縣ガ或ル程度引受ケマストカ、若クハ市ノ持つテ居リマス負債ニ對シテ縣ガ利子補給乃至ハ或ル程度ノ元利補給ヲ致シマストカ、若クハ市ノ事業ニ對シテ相當高率ノ補助ヲ與ヘマストカ、乃至ハ市ノ事業ヲ一部縣ガ引取ツテ施行シマストカ、私ガ今茲ニ氣付イタノハ左様ナ四點デゴザイマスガ、其ノ外ニ於キマシテモ現在アル市部債ト郡部債トノ「バランス」ヲ取ルト云フコトニ付キマシテハ、色々手段方法ガアルト思ヒマス、併シソレニハ各縣民、市部郡部ノ間ニ於ケル希望ナリ考ガ違フト思ヒマスカラ、之ヲ政府ガ一律ニ斯ウスルト云フコトヲ斷定致シマスコトハ適當デナイト思ヒマス、隨テソレニ付キマシテハ地元ノ知事ヲ中心トシ、郡部、市部才互ニ案ヲ練リマシテ、ソコニ適當ナル成案ヲ得ルコトヲ期待シテ居リマス、同時ニ政府ト致シマシテハ如何ナル案ガ最モ妥當デアルカ、將來縣政ヲ最モ圓滿ニ執行スル上ニ於テ適當デアルカト云フコトニ付キマシテ出來得ル限りノ援助、助力ヲ咨マナイ考デ居ルノデアリマシテ、其ノ意味ニ於キマシテ郡部市部ノ負債關係ヲ適當ニ處理致シタイト思フノデアリマス

○川崎(克)委員 只今ノ市部、郡部ノ負債ノ不均衡ヲ是正スル爲ニ四ツノ案ヲ御考ニナツテ居ルト云フコトデアリマス、而シテ市部、郡部ノ議員ニモ御相談ニナツテ圓滿ニヤツテ行クト云フ御意思ハ宜シイ、建前ハ

ソレデ宜シイ、ソレヨリ仕方ガナイ、私ハ別ノ考ヲ持つテ居ルガ、ソレガアナタノ御案デアレバソレデ宜シイ、併シ市部、郡部ト言ヒマシテモ、御承知ノヤウニ愛知縣モ兵庫縣モ市部ノ議員數ガ少ク、兵庫縣モ愛知縣モ同ジヤウニ、郡部ノ議員數ガ多イ、頭數デ行ケバ郡部ノ利益ニ引摺ラレテ行クベキ形ニナル、サウ云フ場合ニ中央トシテ公正ノ見地カラ、中央ハ一ツノ指導權ヲ以テ之ヲ正シク導イテ行ツテ負擔ノ不均衡ニナラナイヤウナ方針ヲ御立テナリ、サウシテ是ガ何時マデノ間ニヤル御方針デアアルカ、半年ナラ半年ノ間ニソレヲヤル積リデアルカト云フコトヲ——私ハ案ハ別ニアリマスケレドモ、ソレガアルナラバソレヲ承ツテ置キタイ

○挾間政府委員 此ノ問題ノ解決ヲ致シマス具體案ニ關シマシテハ、折角今關係知事ニ於テ研究シテ居リマスカラ、數箇月ノ内ニ成案ヲ得ルコトガ出來ルト思ヒマス、ソレカラ今川崎サンノ御述ニナリマシタ市部議員ト郡部議員トノ數ノ問題デアリマスガ、是ハ私共ノ見ル所デハ、先程申上ゲマシタヤウニ關係方面ニ於キマシテ案ヲ練リ、其ノ結果出來得ル限り圓滿ニ縣會ノ議決ヲ經ルコトヲ期待スルノデアリマスガ、萬一ニモ知事ノ練リマシタ案ニ對シマシテ、而モソレハ私ハ適當デアルト思ヒマスガ、ソレニ對シテ多數、少數ヲ以テ或ハ其ノ案ヲ否決スルト云フヤウナコトガアリマス場合ニハ、是ハ已ムヲ得マセヌ、自治監督ノ内務大臣ノ權限ト致シマシテ原案執行ノ途モアリ、其ノ用意ハ十分致シタイト考ヘテ居リマス

○川崎(克)委員 私ハ其ノ御答辯デ全部満足ハ致シマセヌガ、ソレハソレデ宜シイ、唯一言ダケ内務省ニ伺ヒタイノデスガ、自動車稅ヲ市ニ委讓スル考ハアリマセヌカ、是ハ理由ハ申上ゲマセヌ、市ハ自動車ニ對スル道路負擔ノ重キニ任ジテ居ル關係カラス様ナ見方モアル、是ハ左様ノ御考ハアリマセヌカ

○挾間政府委員 自動車ト道路ノ關係ニ付キマシテ御説ノヤウナ御考ニ付キマシテハ一應御尤モニ思フノデアリマス、併シナガラ御話ハ大體六大都市ノコトダト思ヒマスガ、六大都市ノ所在府縣ニ於キマシテ、之ヲ市稅ト致シマス、郡部ニ於ケル自動車稅ノ關係ヲ如何ニスルカト云フコトガ非常ニ困難デアリマス、殊ニ自動車ノ如ク利用範圍ノ極メテ廣イモノニ付キマシテハ、之ヲ市稅ニスルコトハ適當デナイト考ヘテ居ルノデアリマシテ、從來通リ府縣稅ニ止メテ置キマシタ、但シ大都市ノ如キ方面ニ於キマシテハ、所在ノ府縣ト市トノ間ノ相互ノ關係ニ於キマシテ、或ハ府縣稅ノ方ノ課率ヲ下ゲマシテ、市稅ノ方ヲ餘計取ルヤウニ致ストカ、其ノ間ノ話合ハ出來ルコトダラウト考ヘテ居リマス

○堀切委員長 河野君

○河野委員 簡單ニ二三點御尋申上ゲマス、先日大藏大臣ニ御質問申上ゲマシタ中ニ、大藏大臣ト内務大臣トノ説明ノ中ニ計數上ノ違ヒガアルコトヲ御質問申上ゲタノデスガ其ノ點ハハツキリ致シテ居リマセヌカラ之ヲハツキリシテ戴キタイト思ヒマス、其ノ結果中央地方ヲ通ジテ現實ニ國民ノ負擔ヲ増ス額ハ一體幾ラ位ニナルカト云フコトヲ明確ニ御答願ヒマス

○櫻内國務大臣 河野サンノ先日ノ御尋ニ

カ云フヤウナ方面ノ關係ヲ脱合セテ居ツテ、一方ライデルナラバ、一方モ當然ハハイヂラナケレバナラナイヤウナ建前ニナツテ居ルカドウカ、此ノ點ヲ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○櫻内國務大臣 此ノ全體ヲ通ジマシテ大體ニ於テ一貫シテ考慮致シテ居ルノデアリマシテ、一部ライデルバ一部ニ影響ヲ致シテ來ル部分ガ相當ニ多イノデアリマス、併シナガラ或ル部分ニ付キマシテ修正ニ相成ツタト致シマシテモ、其ノ爲ニ全體ガ毀レルト云フコトノナイ部分モアリマス、隨ヒマシテ今是々ノ御話ニナツタヤウナ稅種ヲ修正サレタ場合ニドウデアアルカト云フコトニ付キマシテハ、是ハ相當私ノ關係ガアルト思ヒマスケレドモ、所謂個々ノ具體的問題デナケレバ、直チニ之ニ對シテ御答ハ致シ兼ネルノデアリマス

○河野委員 具體的ニ御尋シマスガ、基礎控除ヲイヂツタ場合ニ、綜合所得稅モ當然是ハ稅率ヲイヂラナケレバナラナイモノト私ハ考ヘマスガ、如何デアリマスカ

○櫻内國務大臣 ソレハ控除率ノ變更ノ程度ニモ依リマシテ、自ラ違ツテ來ルノデアリマスガ、全然關係ガナイト云フコトハ考ヘテ居リマセヌ

○河野委員 ソレト關聯シテ配當所得ノ二割控除ヲ止メルコトト、所謂現行ノ第二種所得ノ綜合ヲ選擇ニサレタト云フコトト、其ノ間ノ關係ハ如何ニ考ヘラレテ居リマスカ、配當所得ノ二割控除ヲ御止メニナツタ以上ハ、ドウシテモ第二種所得ノ綜合ト云フモノヲ貫カナケレバ此ノ稅法ノ立前ガ崩レルモノデハナイカト云フヤウニ御考ニナリマスカ

○櫻内國務大臣 河野君ノ御話ノヤウナ風ニハ考ヘテ居リマセヌ

○河野委員 細カイ點ヲ一ツ二ツ御尋致シテ置キマス、法人稅ノ第十六條ノコトデアリマスガ、法人稅ノ第十六條ニ於テ、此ノ法人ノ支拂ツタ分類所得稅ヲ、法人ノ稅額カラ引イテ居リマスガ、之ヲ所得カラ控除スルノト稅額カラ御引キナルノトハドウ云フ違ガアリマスカ

○大矢政府委員 分類所得稅ヲ課シテ更ニ法人稅ヲ別ニ課スト云フノガ建前デハナイノデアリマシテ、兩者ガ重複シタ場合ニ調整ヲ要スル、斯ウ考ヘマシテ分類所得稅ヲ法人稅額ヨリ控除スルト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ分類所得稅ノ稅額ヲ法人ノ所得ヨリ引クト云フノハ、大體ノ立テ方ニハ副ハナイト考ヘテ居リマス

○河野委員 私ハ法人ノ收入ト云フモノガ入ツテ來タモノヲ現ニ帳面ニ現ハスノガ法人ノ收入ダト思フテ居ルガ、所得ノ中ヨリ引ク方ガ寧ロ合理的デハナイカト思ツテ居リマス

○大矢政府委員 是ハ別個ニ課稅シテ宜イモノダト思フ、竝立シテ課稅スベキモノダト云フ建前ニ致シマスレバ仰セノヤウニナリマスケレドモ、是ハ竝立シテ課稅スルノガ建前デハナイ、兩者重複スル場合ニハ是ガ調整ヲ要スル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○河野委員 其ノ點ハソレダケニ致シテ置キマス、其ノ次ハ所得稅法ノ第七十五條ノ問題デアリマスガ、論議ガアリマシタカラ私ノ聽キタイ所ダケ御尋致シマス、是ハ現行法ノ減損更訂ノ規定ニ代ルモノデアルコトハ申スマデモアリマセヌガ、ソレデ「納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ」ト云フノデ廣ク考ヘテアリマスガ、之ヲ見マスト資力ヲ喪失シテ納稅困難ト認メル時デナケレバ、此ノ所得稅ヲ輕減又ハ免除シナイヤウデアリマスガ、豫算課稅デナク、實績課稅デアルト云フ立前カラ言ヘバ當然カモ知レマセヌ、例ヘバ去年ハ營業シテ居ツタガ今年ノ三月マデニハ營業ヲ廢メタ、併シ營業ヲ廢メタケレドモ納稅困難ナル事情デハナイ、斯ウ云フ場合ニ於テハ此ノ法律ハ適用ニナラナイノデアリマスカ

○大矢政府委員 仰セノ通りデアリマス

○河野委員 私ハソレハ少シク不合理デアツテ、健力原案ノ時分ニハ減損更訂ヲ止メルガ、年ノ初メニ營業ヲ廢メテシマフト云フヤウナ場合ニハ當然此ノ中ニ入ルモノデアアル、斯ウ云フ風ニ私ハ記憶致シテ居ルノデアリマスガ、是ハ御考慮アルベキモノダト思フノデアリマス、今一言御答辯願ヒタイト思ヒマス

○大矢政府委員 ソレハ當初カラ其ノヤウニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、同ジ營業ヲ廢メルト致シマシテモ、モウ資産ガ十分ニ出來テ營業ヲ廢メルト云フヤウナ場合モアルノデアリマシテ、斯ウ云フ場合ニハ實績デ一年送りニ課稅致シテ居ルノデアリマスカラ、毫モ課稅ヲ輕減免除スル理由ガナイト思ハレマス、結局其ノ年ニ直ダ稅ヲ徵收スルノデハナイ、一年送りニ稅ヲ徵收シテ行ク結果ト致シマシテ、現實ニ所得稅ヲ納付スル場合ニ非常ニ納稅困難デアリ、資力ヲ喪失シタガ爲ニ納稅困難ト云フ場合ニ例外的ニ救濟シヨウト云フ規定デゴザイマス

○河野委員 特別法人稅ニ付テハ色々議論ガアリマシタカラ止メマスガ、特別法人稅ノ中デ醫療利用組合ト云フノガアリマス、是ハ御承知ノヤウニ組合デ醫療ヲヤツテ居ル、之ニ對シテ百分ノ九ノ稅率デアリマスルガ、普通町デ營業ヲシテ居リマスル醫者

トハ申スマデモアリマセヌガ、ソレデ「納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ」ト云フノデ廣ク考ヘテアリマスガ、之ヲ見マスト資力ヲ喪失シテ納稅困難ト認メル時デナケレバ、此ノ所得稅ヲ輕減又ハ免除シナイヤウデアリマスガ、豫算課稅デナク、實績課稅デアルト云フ立前カラ言ヘバ當然カモ知レマセヌ、例ヘバ去年ハ營業シテ居ツタガ今年ノ三月マデニハ營業ヲ廢メタ、併シ營業ヲ廢メタケレドモ納稅困難ナル事情デハナイ、斯ウ云フ場合ニ於テハ此ノ法律ハ適用ニナラナイノデアリマスカ

○大矢政府委員 我國ニ於キマシテハ日露戰爭時分ニ通行稅ガ施行セラレ、ソレカラ此ノ度ノ支那事變ニ際シマシテ更ニ復活シタ、斯ウ云フコトデゴザイマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ此ノ稅ヲ起ス時ハ正ニ戰時事變下ノ秋デアリマスルガ、併シ日露戰爭後ニ於キマシテモ相當永イ間施行セラレテ居タルデアリマシテ、必ズシモ臨時稅トマデ考ヘル必要モナイカト思フノデアリマス、外國ニ於キマシテハ人ノ通行バカリデナク、貨物ノ運搬ニ對シテモ相當恒久稅トシテ課稅シテ居ルモノモアルノデアリマスガ、我國ニ於キマシテハ人ノ通行ダケニ課稅致シマシテ、而モ短距離ノモノニ付キマシテハ、三等ニ於テハ課稅外ニ置ク、斯ウ云フコトカラシテ、是ハ必ズシモ臨時稅タルヲ要スルモノト云フ風ニハ考ヘテ居リマセヌ

○河野委員 特別法人稅ニ付テハ色々議論ガアリマシタカラ止メマスガ、特別法人稅ノ中デ醫療利用組合ト云フノガアリマス、是ハ御承知ノヤウニ組合デ醫療ヲヤツテ居ル、之ニ對シテ百分ノ九ノ稅率デアリマスルガ、普通町デ營業ヲシテ居リマスル醫者

トハ申スマデモアリマセヌガ、ソレデ「納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ」ト云フノデ廣ク考ヘテアリマスガ、之ヲ見マスト資力ヲ喪失シテ納稅困難ト認メル時デナケレバ、此ノ所得稅ヲ輕減又ハ免除シナイヤウデアリマスガ、豫算課稅デナク、實績課稅デアルト云フ立前カラ言ヘバ當然カモ知レマセヌ、例ヘバ去年ハ營業シテ居ツタガ今年ノ三月マデニハ營業ヲ廢メタ、併シ營業ヲ廢メタケレドモ納稅困難ナル事情デハナイ、斯ウ云フ場合ニ於テハ此ノ法律ハ適用ニナラナイノデアリマスカ

○大矢政府委員 仰セノ通りデアリマス

○河野委員 私ハソレハ少シク不合理デアツテ、健力原案ノ時分ニハ減損更訂ヲ止メルガ、年ノ初メニ營業ヲ廢メテシマフト云フヤウナ場合ニハ當然此ノ中ニ入ルモノデアアル、斯ウ云フ風ニ私ハ記憶致シテ居ルノデアリマスガ、是ハ御考慮アルベキモノダト思フノデアリマス、今一言御答辯願ヒタイト思ヒマス

○大矢政府委員 ソレハ當初カラ其ノヤウニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、同ジ營業ヲ廢メルト致シマシテモ、モウ資産ガ十分ニ出來テ營業ヲ廢メルト云フヤウナ場合モアルノデアリマシテ、斯ウ云フ場合ニハ實績デ一年送りニ課稅致シテ居ルノデアリマスカラ、毫モ課稅ヲ輕減免除スル理由ガナイト思ハレマス、結局其ノ年ニ直ダ稅ヲ徵收スルノデハナイ、一年送りニ稅ヲ徵收シテ行ク結果ト致シマシテ、現實ニ所得稅ヲ納付スル場合ニ非常ニ納稅困難デアリ、資力ヲ喪失シタガ爲ニ納稅困難ト云フ場合ニ例外的ニ救濟シヨウト云フ規定デゴザイマス

○河野委員 特別法人稅ニ付テハ色々議論ガアリマシタカラ止メマスガ、特別法人稅ノ中デ醫療利用組合ト云フノガアリマス、是ハ御承知ノヤウニ組合デ醫療ヲヤツテ居ル、之ニ對シテ百分ノ九ノ稅率デアリマスルガ、普通町デ營業ヲシテ居リマスル醫者

トハ申スマデモアリマセヌガ、ソレデ「納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ」ト云フノデ廣ク考ヘテアリマスガ、之ヲ見マスト資力ヲ喪失シテ納稅困難ト認メル時デナケレバ、此ノ所得稅ヲ輕減又ハ免除シナイヤウデアリマスガ、豫算課稅デナク、實績課稅デアルト云フ立前カラ言ヘバ當然カモ知レマセヌ、例ヘバ去年ハ營業シテ居ツタガ今年ノ三月マデニハ營業ヲ廢メタ、併シ營業ヲ廢メタケレドモ納稅困難ナル事情デハナイ、斯ウ云フ場合ニ於テハ此ノ法律ハ適用ニナラナイノデアリマスカ

ハ事業所得トシテ百分ノ七・五ノ税率デアリ
マスルガ、此ノ間ノ關係ハ如何ナモノデア
リマセウカ、均衡上斯ノ如キ醫療利用組合
ト云フヤウナモノニハ免稅セラルルノガ妥
當カト存ジマスルガ、當局ノ御所見ヲ伺ヒ
タイノデアリマス

○大矢政府委員 個人ニ於キマシテハ分類
所得稅ハ百分ノ七・五デアリマスケレドモ、
此ノ外ニ又綜合所得稅ノ課稅ヲ受ケル場
合モアルノデアリマス、一面ニ於キマシテ
課稅標準ノ算出方法モ違ツテ居リマスル
デ、兩者ヲ並ベテ税率ノ點ダケデ比較スル
ノモ如何カト存ズルノデアリマス、實際問
題ト致シマシテハ醫療利用組合ハ、其ノ事
業ヨリハ殆ド剩餘金ヲ得テ居ナイ、是ハ其
ノ仕事ノ性質カラ尤ノコトト存ズルノデア
リマシテ、醫療利用組合ノ事業ヨリ剩餘ヲ
得テ課稅ニナルト云フ場合ハ事實上ナイモ
ト存ジテ居リマス

○河野委員 今度ハ地方稅ニ付テ二三點御
尋申上ゲマス、地方分與稅ノ第二條ニ依リ
マスルト、所得稅及ビ法人稅ノ徵收額ノ
百分ノ十六・五五、入場稅及ビ遊興飲食稅
ノ百分ノ五十、之ヲ所謂分與稅ノ稅源ニ充
テテ居ルノデアリマスガ、此ノ百分ノ十六
・五五ト云フノハ如何ニモ小刻ミデドウ云
フ所カラ出テ來タノカ、吾々ハ理解ニ苦シ
ムノデアリマスガ、大體所得稅及ビ法人稅
ノ徵收額ノ百分ノ二十程度ト云フノガ根
本デハナカツタカト存ジマスガ、此ノ點御
伺致シマス

○狹間政府委員 是ハ今回ノ稅制ノ基礎總
額ヲ十億三千二百萬圓ト押ヘマシタ結果、
獨立財源ト配付財源トノ割合ガ斯ウ云フ風
ニナリマシテ、ソレヲ所得稅、法人稅ノ稅

收入總額ノ率ニ致シマス十六・五五ト云フ
コトニナツタノデアリマス

○河野委員 サウシマス、其ノ十億三千
二百萬圓ト押ヘタ總額ヲ、他ノ何等カノ理
由デ殖ヤサナケレバナラヌト云フ場合ニハ
百分ノ十六・五五ヲイデツテモ宜シイ譯デ
スネ

○狹間政府委員 是ハ御承知ノ通り昭和十
五年度ニ於キマシテ、現行稅制ニ依ツテ自
然增收分ヲモ含メマシテドレダケノ稅收入
ガアルデアラウカト云フコトヲ計算シマシ
テ、ソレヲ用ヒタノデゴザイマスカラ、此
ノ率ヲ只今ノ所變更スル考ハナイノデアリ
マス

○河野委員 御配付ニナツタ資料ニ依リマ
スト六大都市ニ於ケル稅制改正前後ノ稅收
入見込額比較ガ出テ居リマス、之ニ依リマ
スト如何ニモ六大都市ハ稅ノ彈力性ヲ持ツ
テ居ルカノヤウニ見エルノデアリマスガ、
此ノ配付稅ヲ入レテ初メテ此ノ改正前ノ稅
額カラ一定ノ率ヲ以テ殖エテ居ルト云フヤ
ウナ實情デアリマス、之ヲ以テシマスルト
必ズシモ六大都市ノ稅收入ニ付テ伸縮性或
ハ彈力性ガアルモノト云フヤウニハ考ヘラ
レナイト思ヒマスガ、此ノ點ハ如何ニ御考
デスカ

○狹間政府委員 差上ゲテアリマス表ニ付
テ御覽戴キマス、附加稅及ビ獨立稅ニ於
テ一億五千萬圓ノ稅收入ガゴザイマスノデ、
十分ノ伸縮性ヲ附與シテ居ルト考ヘテ居リ
マス

○河野委員 サウ致シマス、現實ニ昭和十
五年度ニ於テ六大都市ノ收入ハ稅收入及ビ
配付稅ヲ入レテ一億六千餘萬圓、是ガ現
實ニ六大都市ノ收入ニナル譯デアリマスガ

○狹間政府委員 是ハ概數デゴザイマスガ
ラ、ハツキリトハ申上ゲ兼ネマスガ、大體
此ノ數字ガ稅收入トシテ入ル見込デアリマ
ス

○河野委員 六大都市ノ稅ノ伸縮性ニ付テ
地租、營業稅ノ收入、其ノ附加稅ノ收入ガ
殖エルカラト云フヤウナ御話デアリマシタ
ガ、營業ノ如ク行詰ツタモノ、或ハ地租ノ
如ク一定ノ固定性ヲ持ツタモノト云フ以外、
六大都市ノ如キ仕事ヲシテ行ク都市ニハ本
當ニ伸縮性ノアル稅源ヲ獨立稅トシテ與ヘ
ル必要ガアルノデハナカラウカト存ジマス、
先程川崎委員ノ御質疑ニ對シテ內務大臣
ハ、自動車稅ヲ六大都市ノ獨立稅トスル譯
ニハ行カナイガ、併シ六大都市ト所在府縣
トノ間ニ於テ府縣ノ課稅率ヲ少クシテ六
大都市ノ附加稅率ヲ多クシテ、六大都市ノ
收入ヲ圖ルト云フヤウニ仰セラレマシタ
ガ、六大都市ニ限ツテ、自動車稅ノ課稅率ハ
六大都市對所在府縣ノ關係ハ六大都市ニ餘
計ニ行クヤウニスルノダト云フ點ヲ、一ツ
明確ニ御答願ヒタイト思ヒマス

○狹間政府委員 伸縮性、伸張性ノ問題ニ
付キマシテハ、茲ニ示シテ居リマス通り一億
五千萬圓ノ稅收入ガゴザイマスカラ、之ニ
依ツテ伸縮性ハ十分アルト思ヒマス、ソレ
カラ營業稅ガ全額地方財源ニナツテ居リマ
スノデ、其ノ伸張力ハ相當大キナモノデア
ルト考ヘテ居リマス、ソレカラ先程自動車
稅ニ付テ申上ゲマシタノハ、實收入ニ於テ
左様ナ方法ガ府縣ト市トノ間ニ於テ爲シ得
ルデアラウ、是ハサウ云フ意味デ申上ゲタ
ノデアリマシテ、課稅率變更スルト云フコ
トハ六大都市ノミニ付テ爲シ得ナイト考ヘ
テ居リマス

○河野委員 課稅率變更スルト云フノハ語
弊ガアルカモ知レマセヌガ、要スルニ附加
稅トシテ餘計ニ取ルコトヲ許ス、斯ウ云フ
意味デス

○狹間政府委員 附加稅トシテ餘計ニ取ル
ト云フコトハ、ドウモ餘リ適當デハナイト
思ヒマス、併シ實收入ニ於キマシテ、團體相
互ノ間ニ於テ適宜ノ措置ヲ執リ得ル餘地ハ
存シテ居ルト考ヘテ居リマス

○河野委員 サウスルト、法律上デナクテ、
實際ノ取扱トシテサウナサル、斯ウ云フ御
趣旨ナンデスカ

○狹間政府委員 其ノ通りデアリマス

○河野委員 ソレデハ少シク不満足デアリ
マスルガ、其ノ點ハ先程カラ川崎委員ノ御
質疑ガアリマシタノデ、私ハ簡單ニ致シテ
置キマスソレカラ分與稅ノ第五十六條デ百
分ノ五ヅツ年々殖エテ行クト云フヤウナ率
デ以テ、配付稅ヲ御考ニナツテ居リマスガ、
此ノ百分ノ五ヅツト云フノハ、是ハ一率ニ
ナサルノデ、六大都市ニ付テハ特別ナ御考
慮ヲナサル必要ガアルト思ヒマスガ、如何
デセウ

○狹間政府委員 六大都市ニ付テ、特別ノ
考慮ヲ拂フト云フコトハ考ヘテ居リマセヌ

○河野委員 先程カラノ所謂仕事ニ比例シ
テ、色々費用ガ殖エテ行クト云フノハ、是
ハ六大都市ノ通有性デアリマスルガ、其ノ
六大都市ノ費用ノ殖エテ行クニ付テ、稅收
ノ點ニ付テ百分ノ五ヅツ増シテ行ケバ宜シ
イト云フノハ、私ハ聊カ不穩當デアラウト
思フノデ、此處ラニ所謂伸縮性或ハ伸張性
ト云フモノガ足ラナイノデハナカラウカ、
斯様ニ考ヘマス、此ノ點モ御考慮ヲ願ヒタ
イト存ジマス

○狹間政府委員 六大都市ニ付テ、特別ノ
考慮ヲ拂フト云フコトハ考ヘテ居リマセヌ

○河野委員 先程カラノ所謂仕事ニ比例シ
テ、色々費用ガ殖エテ行クト云フノハ、是
ハ六大都市ノ通有性デアリマスルガ、其ノ
六大都市ノ費用ノ殖エテ行クニ付テ、稅收
ノ點ニ付テ百分ノ五ヅツ増シテ行ケバ宜シ
イト云フノハ、私ハ聊カ不穩當デアラウト
思フノデ、此處ラニ所謂伸縮性或ハ伸張性
ト云フモノガ足ラナイノデハナカラウカ、
斯様ニ考ヘマス、此ノ點モ御考慮ヲ願ヒタ
イト存ジマス

○狹間政府委員 六大都市ニ付テ、特別ノ
考慮ヲ拂フト云フコトハ考ヘテ居リマセヌ

○河野委員 先程カラノ所謂仕事ニ比例シ
テ、色々費用ガ殖エテ行クト云フノハ、是
ハ六大都市ノ通有性デアリマスルガ、其ノ
六大都市ノ費用ノ殖エテ行クニ付テ、稅收
ノ點ニ付テ百分ノ五ヅツ増シテ行ケバ宜シ
イト云フノハ、私ハ聊カ不穩當デアラウト
思フノデ、此處ラニ所謂伸縮性或ハ伸張性
ト云フモノガ足ラナイノデハナカラウカ、
斯様ニ考ヘマス、此ノ點モ御考慮ヲ願ヒタ
イト存ジマス

〔委員長退席、高橋委員長代理著席〕

其ノ次ハ地方稅ノ第六十一條ノ問題デア
リマスルガ、之ニ依リマスルト、色々ナ災害
ガアツタ場合ナドハ當然ニ百分ノ二百四十
マデハヤルコトガ出來ルト云フコトニナツ
テ居リマシテ、百分ノ二百四十ヲ超エテモ
亦特別ナ府縣知事ノ許可ヲ得ルナラバ出來
ル、斯ウ云フコトニナルノデアリマスガ、
是ハ斯ウ云フコトヲスルト折角負擔ノ均衡
ヲ圖ルト云フ意味ガナクナリマスシ、茲
ニ百分ノ二百或ハ百分ノ二百四十ト云
フノハ、地租、營業稅、家屋稅ニ限ルノデ
アリマシテ、例ヘバ配當利子トカ或ハ勤勞
所得トカ云フモノニハ、斯ウ云フモノガ課
カラヌノデ、是ハ度々議論ガアリマシタガ
非常ニ地方的ニ私ハ或ル人々ガ、特ニ負擔
ヲ過重ニ受ケルト云フヤウナ結果ニナルノ
ガ一ツト、横ニ各地域々々ノ負擔ノ均衡ガ、
此ノ邊カラ破レルコトニナルノデハナイカ
ト思フノデアリマスガ、如何デセウ

○**揆間政府委員** 此ノ點ハ先程御述ベニナ
リマシタ地方團體ノ財政ノ伸縮性ヲ、十分
ココデ認メテ積リデアリマス、但シ此ノ點
餘リニ無制限ニ致シマスコトハ、考慮ノ餘
地ガアリマスノデ、監督官廳ノ許可ヲ要ス
ルコトニ致シテ居ル譯デアリマス

尙ホ配當利子所得、俸給生活者等ニ付テ
ノ、地方稅ノ負擔ノ關係ヲ御尋デアリマ
スガ、是ハ負擔ト致シマシテハ、今回ノ稅
制ニ於キマシテハ、國稅、地方稅全體ヲ通
ジテノ負擔ノ均衡ヲ圖ルヤウナ構成ニナツ
テ居リマスノデ、左様御承知願ヒマス

○**河野委員** 質問ノ趣旨ハ能ク分ツテ居ラ
ツシヤルノダラウト思ヒマスガ、故ラニ願
ミテ他ヲ御答辯ニナツテ居リマスケレド

モ、吾々ノ言ハントシ、又此處デ議論ニナ
リマシタノモ、災害ガアツタヤウナ場合
ニ、地租、營業稅、家屋稅ヲ持ツテ居ル者
ハ、負擔ガ餘計ニ殖エテ行ク、百分ノ二百
ガ百分ノ二百四十モ自然ニ課セラレルヤウ
ニナルガ、ソレニ對シテ外ノ所得ヲ持ツテ
居ル者ハ、之ニ對シテ何等ノ負擔ガ増サナ
イ、斯ウ云フ所ニ地方ノ團體ノ經理上不都
合ガアル、斯ウ云フコトガ此處デ度々議論
ニナツテ居ル、其ノ點ヲ明確ニシテ戴キタ
イト云フノガ、私ノ質問ノ趣旨デアリマ
ス

○**揆間政府委員** 先程申上ゲマシタ通りデ
ゴザイマシテ、是ハ今回ノ稅源ノ性質上、
斯様ナ事態ガ起リマシタ場合ニハ、茲ニ伸
縮力ヲ認メザルヲ得ナイノデアリマシテ、
是ハ稅源ノ性質カラ致シマシテ、已ムヲ得
ナイコトデアルト思ツテ居リマス

○**河野委員** 最後ニ、度々モ議論サレマ
シタカラ、今マデ議論ニナラナカツタ點ダ
ケヲ御質問申上ゲマス、市町村民稅デアリ
マスガ、先程地方局長ガ御答辯ニナツタ中
ニ、市町村民稅ノ如キモノハ、甲ノ者ガ一
ツノ地域カラ他ノ地域ニ移ツタヤウナ場合
ニ於テ、稅負擔ガ違ツテハ面白クナイ、斯
ウ云フ意味デ此ノ稅ノ建前ガ出來テ居ル、
斯ウ云フコトヲ仰シヤイマシタガ、一體市
町村民稅ヲドウシテサウ云フコトガ出來ル
ノデアリマスルカ、吾々ハサウ云フコトハ
不可能ナコトデアリマスカラウカト思フノデア
リマスガ、如何デアリマスカ

○**揆間政府委員** 先程申上ゲマシタノハ、
此ノ稅ハ非常ニ多額ノ稅收入ヲ擧ゲルト云
フコトハ、稅ノ性質上適當デナイト思フノ
デアリマス、隨テ各團體ノ收入スベキ總

額、同時ニ各人ノ納ムベキ稅額ノ最高ト云
フモノヲ押ヘル必要ガアルト思フノデアリ
マス、隨テ此ノ各人ノ納ムベキ最高額ト致
シマシテ、千圓ト云フ制限ヲ設ケタノデア
リマシテ、是ハ其ノ團體別ニ依ツテ、ソレ
ヲ二三ニスルト云フコトハ適當デナイト思
ヒマス、但シ此ノ千圓ト申シマスノハ、法
律ノ規定ニ依リ最高限デアリマスカラ、各
團體ノ條例ニ依リマシテ賦課スル場合ニ於
キマシテハ、ソコニ相違ガ出來ルト云フコ
トハ、是ハ事實上認メテ居リマス以上、當
然起リ得ル結果ダラウト思ヒマス

○**河野委員** サウシマス、最高千圓デ、
法律上各團體毎ニ千圓ハ變ラスガ、個人ガ
東京ニ居ル場合ト横濱ニ居ル場合トニ於
テ、東京ニ居ル時ハ百圓ノ負擔ヲシタ者
ガ、横濱ニ行ツタ時ハ二百圓ニナツタト云
フコトハ已ムヲ得ザル處置ダ、斯ウ云フノ
デアリマスカ

○**揆間政府委員** 其ノ通りデアリマス、團
體ニ依ツテ其ノ人ノ納稅額ガ變ルト云フコ
トハ、是ハ已ムヲ得マセス

○**河野委員** ソコデ疑ガアルノデスガ、斯
ウ云フコトヲ御答辯ニナルナラバ、市町村民稅
ヲ最高千圓ト云フノハ、戶數割ノ弊害ヲ防
止スルト、斯ウ仰シヤラレル程ノモノデア
ナカラウト私ハ思ヒマス、サウスレバ六大
都市ハ二千圓、或ハ人口七十万以上ノ都市
ハ千五百圓、或ハ町村デアアルナラバ千圓、
斯ウ言ツタツテチツトモ私ハ差支ナイコト
ダラウト、斯ウ思フノデアリマシテ、其ノ
點ハドウモ、戶數割ノ弊害ヲ除去スルト言
ヒナガラ、一貫シテ居ナイヤウニ考ヘラレ
ルノデアリマス

ウニ、法律上ノ制限デゴザイマスカラ、ソ
レガ團體ニ依ツテ區別セラレルト云フコト
ハ適當デナイト思フノデアリマシテ、稅ノ
性質上、如何ナル人デアアツテモ、千圓以上
ハ如何ナル團體ニ於テデモ納メルコトハナ
イト云フ風ニ制限スルコトガ、適當デア
ルト考ヘテ居リマス

○**河野委員** 最後ニ大藏大臣ニ一點御尋シ
テ終リマス、此ノ委員會デ度々消費稅ノ轉
嫁ノ問題デ議論ニナリマシタ、此ノ委員會
デ、消費稅ヲ轉嫁スル、何人ガ負擔スルモ
ノカ、ドウ云フ標準ニ依ツテ爲スベキモ
ノカト云フ點ガ、明確ニ御答ニナツテ居ラヌ
ヤウニ考ヘラレマスルノデ、其ノ點ダケヲ
明ニシテ私ノ質問ヲ終リマス

○**櫻內國務大臣** 原則トシマシテ、是ハ此
ノ消費稅ノ金額ダケハ、其ノ物品ノ價格ガ
上ルコトヲ認メタイト思ヒマス、例外ハア
リマス

○**高橋委員長代理** 北勝太郎君
○**北委員** 所得稅ノ基礎控除ヲ勤勞所得ト
事業所得トヲ同率ニスル、即チ六百圓ツツ
ニスルト云フ稅ノ減額、ソレカラ課稅人員
ノ減少、是ハ極メテ簡單デアリマスカラ御
調査ガ出來テ居ルト思ヒマスガ、出來テ居
リマシタラ御知ラセテ願ヒタイ、ソレカラ
不動産所得ノ控除額ニ付テハ、他ノ委員カ
ラ御質問ガアリマシタカラ、私ハ止メテ置
キマス、其ノ次ハ特別法人稅デスガ、産業
組合、工業組合、何レモ其ノ剩餘金ハ組合
員同士ノ過拂金デアアルコトハ、昨日モ屢、申
上ゲタノデアリマスカラ、今更繰返シマセ
スガ、産業組合、工業組合ハ組合員全體ノ
共同經營デアアル、ソコデ此ノ組合員全體
ハ——組合ト組合員トハ一體ナンデアアル、ソ

○**揆間政府委員** ソレハ度々申上ゲマスカ
ラ、

コデ元來利潤ト云フモノハ一人ノモノガ他ノモノカラ抽出スル、即チ抽出スル所ノ餘剩デアル、即チ他人カラ儲出シタモノヲ言フノデアリマス、何人モ自分自身カラ利潤ヲ抽出シ得ナイ、自分ガ自分カラ儲ケ出スト云フコトハナイモノダ、然ルニ産業組合、工業組合等ノ剩餘金ニ課税セントスルコトハ非常ニ誤デアルト云フコトヲ、有力ナル學者ハ言ツテ居ルノデアリマスガ、當局ノ所見ハ如何デアリマスカ

○大矢政府委員 基礎控除ノコトハ取調ベテ後ニ御答致シタイト思ヒマス、特別法人税ニ付キマシテハ、北サント大分質問應答致シマシテ、今更附加ヘルコトハゴザイマセヌ

○北委員 御答辯ヲ得ラレナケレバ次ノ問題ニ移リマス、政府ガ特別法人税ヲ起サレタノハ、稅收入ヲ得タイト云フノガ目的デアツタノカ、或ハ又屢、御力説ニナリマシタヤウニ、組合員ニ原價配給ヲサセル、即チ配當ヲタクサセルコトニ重キヲ置ク、斯ウ云フヤウニサセヨウト云フノデアリカ、ソコヲドツチガ本當ノ目的デアルノカ承リタイ

○大矢政府委員 國家ノ狀況、一般國民負擔ノ程度等ニ顧ミ、産業組合等ノ現實ノ狀況ヲ見テ、或ル程度ノ負擔ハ負ヘルノデハナカラウカ、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス

○北委員 昭和十二年度ノ農林省ノ統計、是ハ一齊監査ノ結果ノ統計デアリマスガ、ソレニ依リマス、組合數ガ全國デ一万四千五百十二組合、剩餘金ガ千七十七万七千三百三十九圓、ソコデ組合ノ常務役職員ノ數ガ十万人、一人當リ一月ノ平均ノ月給ガ二

十四圓、其ノ他ノ役員ノ數ガ十五万人、ソレハ無給デアル、ソコデ常務役職員ノ待遇改善ニ要スル經費トシテ、若シ産業組合ガ之ニ月給五圓増給シテ二十四圓ノモノヲ二十九圓ニスルト、六百萬圓要ル、ソレカラ常務役職員ノ賞與トシテ一年ニ十五圓ツツ支給スルト百五十萬圓、役員ノ手當月二圓支給スルト三百六十萬圓、合せて一千一十萬圓ニナル、斯ウ云フコトニナツテ、是ダケノコトヲヤツタダケデモ剩餘金ト云フモノハ一ツモナクナツテシマフ、斯ウ云フ工合ニ調査ガ出來テ居ルノデアリマスガ、此ノ點ニ對シテ大藏當局ハドウ云フ工合ニ御考ニナツテ居リマスカ

○大矢政府委員 數字ノコトハ仰セノ通りトスレバ、其ノ通りニナルカト存ジマス

○北委員 勞シテ何モ功ナシデスガ、先程森田委員カラ産業組合貯金ニ課税スルト、同時ニ組合ノ貯金ハ他ニ逃避スル場合ガアルト云フヤウニ御話ニナリマシタガ、當局ハソノ心配ハナイト云フ工合ニ御答ニナツテ居リマス、所ガ産業組合貯金ト云フモノハ、今マデズツト毎月非常ニ勢デ殖エテ居ル、ソレヲ今度課税ノ噂ガ立ツヤウニナツテカラ、此ノ一月、二月カラ既ニ頭ガ聞ヘテシマツテ伸度ガ全ク止ツテシマツタト云フ事實ガアルノデアリマスガ、當局ハ此ノ伸度ニ付テ、何カ調査サレタモノガアリマスカ、之ヲ承リタイ

○大矢政府委員 一月、二月ニ付テノ調ハ今手許ニ持ツテ居リマセヌ

○北委員 ソレデハ已ムヲ得マセヌガ、私ノ數字ノ方ガ正シイト思ヒマス、其ノ次ハ地方稅關係デ御伺シマス、ソレハ鑛區稅ノ問題デアリマスガ、先程カラ色々御話ガア

ツタノデアリマスガ、此ノ鑛山地帯ハ生産擴充上急激ニ從業員ノ増加ヲ來シテ居ルノデ、町村ニ依ツテハ、町村ノ教育費、其ノ他設備費ハ非常ニ急激ナル増加ヲ要スルノデアリマス、此ノ増加スル從業員ノ擔稅力ヲ調ベテ見マスト極メテ低イ、隨テ色々設備ハ總テ他ノ町村民ノ負擔ニ俟タナケレバナフヌ、斯ウ云フコトニナツテ來ルノデアリマス、是ハ北海道ハ特別デアリマスガ、私自分デ炭鑛地ニ居リマスカラ、其ノ附近ノコトヲ申シマス、美唄町ハ昨年モ増シタガ、本年一年ニ二十一學級増サナケレバナラス、砂川町ハ二十一學級増サネバナラス、中富良野村ハ二十學級、歌志内村ガ十八學級ヲ増サナケレバナラス、此ノ學級ヲ増スダケデモ、如何ニ人口ガ急ニ殖エルカト云フコトガオ分リニナルト思フノデアリマス、斯ウ云フヤウナコトデアリマスガ、ソコデ先程モ御希望ニナリマシタヤウニ、鑛區稅法ノ第十條ヲ削除シテ、サウシテ町村ニ財源ヲ與ヘテ貰ヒタイト云フノデスガ、當局ハソレハヤラレナイ、十七年マデハ調査ガ出來ヌカラヤラレナイノデアリマスガ、サウナルト特ニ一ツ何カノ財源ヲ與ヘテ貰ハナケレバナラスト思フノデアリマス、ソコデ地方分與稅法ノ分與ノ基礎ニ用ユル人口ノコトニ付テ承ツテ置カネバナラスノデアリマスガ、前々年度ノ人口ヲ基準ニスルコトニナツテ居ルト、此ノ間カラ答辯サレテ居ルノデアリマス、サウ云フ工合ニナリマス、先ニ申シマシタヤウニ、非常ニ人口ガ急ニ殖エルノデアリマスカラ、後廻リノコトニナツテ町村ハ非常ニ困ルコトニナルノデアリマス、殊ニ老衰シカケタ地方ノ炭鑛地アタリト違ヒマシテ、

北海道ハ實際急激ニ新進地デスカラ、隨テ前々年度デハ全く事情ニ合ハヌノデアリマス、一方カラ考ヘテ見ルト、鑛產稅ノ半額以上ト云フコトハ、是ガ今度廢止サレル、其ノ關係デ各町村ハ非常ニ影響ヲ受ケル、北海道ノ夕張町デハ其ノ爲ニ二十六萬圓ノ財源ガ失ハレル、美唄町デハ十九萬圓、砂川町デハ十萬圓バカリ減ル、斯ウ云フヤウナ狀況デアリマス、勿論還付稅幾ラカ來ルモノト思ヒマスガ、到底此ノ位ノ還付稅ノ來ルコト位デハ町村ガ賄ヘルモノデハナイ、ソコデ何トカ特別ノ方法ヲ講ジテ貰ハナケレバナラス、若シ鑛區稅法ノ第十條ノ是ガ出來ナイト云フコトデアレバ、ソレハ特ニ一ツ何トカ方法ヲ講ジテ貰ハナケレバナラス、更ニ地方分與稅ノ分與ノ基礎ニナル人口、是ハ僅カバカリノ全國ノ炭鑛地帯ノコトデアリマスカラ、成ベク新シイ調査ニ依ル人口、出來得レバ其ノ年度ノ四月一日現在位ノ人口ニ依ツテ、特ニソレハヤツテモ宜シイ、分配シテヤル、斯ウ云フ工合ニオヤリニナルコトハ出來ヌモノカ、是ハ全國的ニハ成程サウ云フ表ヲ全部集メルコトハ、此ノ間モ御答辯ニナリマシタヤウニ、中々難カシイコトト思フデアリマスガ、僅ニ全國デ何十箇町村シカナイ、コンナモノハ四月一日現在ヲ御摺ミニナルニハ、サウ困難デハナイ、デスカラサウ云フヤウナ方法ニ依ツテデモ、非常ニ急激ニ困ル町村ニ對シテ、何カ緩和サレル御考ハナイカ、伺ヒマス

○大矢政府委員 炭鑛地方ノ財政收入ノ御話デゴザイマスガ、鑛產稅ハ廢止ニナリマスケレドモ、營業稅ヲ取ルコトニナリマスノデ、相當増額スル見込デアリマス、尙ホ

今回ノ稅制改正ハ全般的ニ財政收入ヲ見テ
機構ガ立テテアリマスノデ、殊ニ炭礦地方
ノ如キ方面ニ於キマシテハ人口モ非常ニ多
イコトデゴザイマスカラ、相當多額ノ配付
稅ガ參ルト思ヒマス、隨テ御述ニナリマシ
タヤウナ町村ノ財政經理ハ、ズツト樂ニナ
ルト考ヘテ居リマス

○北委員 私ハ是デ終リマス

○高橋委員長代理 是ニテ質疑ハ全終部了
致シマシタ、次會ハ公報ヲ以テ御通知致シ
マス、是ニテ散會致シマス

午後六時二十二分散會

〔參照〕

小山委員質問要旨

私ハ曩ニ板谷君ノ質問ニ關聯シテ質問
ヲシタノデアリマスガ、時間ヲ節約スル
爲ニ質問ノ意ヲ盡スコトガ出來ナカツタ
ノト、政府委員ノ是レニ對スル御答辯
ガ、懇切丁寧ヲ極メ、大ニ教ヘラレル所ガ
多クツタノデアリマスケレドモ、更ニ是
レニ對シテ質問ヲ試ムル暇ガナカツタ
ハ甚ダ遺憾デアリマスカラ、此ノ際、數
點ニ關シ質問ヲ致シ政府ノ御所見ヲ伺ヒ
度イト存ジマス

第一ニ、法人ノ純益ヨリモ、納稅額ガ
多クナル場合ナキヤ、私ハ前回一千万圓
ノ資本金ノ會社ガ、一割ノ百万圓ヲ儲ケ
タ場合ニ、法人稅一割八分トシテモ、臨
時利得稅、其ノ他ノ課稅ヲ合計スレバ、
三割八分ノ稅金ヲ納メルコトトナリ、三
百万圓ノ利益ヲ擧レバ、八割五分、五百
万圓ノ利益アル場合ニハ十割四分デアツ
テ純益ヨリモ、納稅額ノ方ガ多クナリ、
政府ハ法人ニ對スル課稅ハソシナニ高イ

モノデナイト仰セラレテキルニ拘ラズ、
斯クノ如キ高率課稅トナルノデハナイカ
ト例示シタノデアリマシタガ、政府ハ斷
ジテ斯ルコトナシト斷言セラレタノデア
リマス、私ノ言フ純益ト云フノハ、法人
ガ自由ニ處分シ得ル純粹ノ純益ノコト
デ、稅金モ總テ拂ツタ後ノ金額ヲ云フノ
デ、法人ガ今日迄稱シテ居ル普通ノ純益
ノコトデアリマス、此ノ純益カラ見ルト
一千万圓ノ資本デ一年五百万圓ノ純益即
チ稅引純益ガアルト、コノ法案ニヨレ
バ、法人稅ガ七十六万四千圓、臨時利得
稅(基準利益一割トシテ)四百二十二万七
千圓、營業稅ト附加稅共、デ二十三万三千
圓合計五百七十五千圓トナリ、即チ純益
五百万圓ニ對シテ稅合計實ニ百〇四%
ニ上ルノデアリマス、政府ノ方デ純益ヨリ
モ納稅額ガ多クナル場合ガ無イト仰セラ
レルノハ、從來ノ經濟界ノ通念トナツテ
居ル純益トハ異ツタ考ヲ以テ、新ニ大藏
省デ稅制ヲ造リ上ゲタ稅込ノ益金ヲ以テ
前ノ計算デハ八百六十一万圓ヲ以テ純益
ト見ラレル爲メニ其稅金込ノ益金カラ見
テ、之ヨリ多イ納稅額ハ無イト仰セラレ
ルノデハナイカト思フノデアリマス、家
ヲ造ルニ曲尺デ十間ナラ十間、五間ナラ
五間ト云フモノヲ、鯨尺デ計ツテ、十間
ナイ、五間ナイト云フ筆鋒デハナイデア
リマセウカ

元來政府ノ稅方針ハ可成、重稅デナ
イヤウニ云ツテ實ハ重稅ヲ取ル傾向
ガアル、即チ徵稅技術ニ匿レル嫌ハナイ
トハ致シマセヌ、戰時ニ於テ誰カ國家ニ
對スル負擔ヲ避ケル者ガアリマセウカ、
重稅デアツテモ、之ヲ忍ブノハ當然デア
リマシテ、重稅負擔ニ耐エズト云フヤウナ
議論ヲスルコトハ、國民ノ愛國心ガ許サ
ヌ所デアリマスガ、戰爭遂行上大陸國策
遂行上生産力擴充ヲ急務トスル現下ニ於
テハ、之ヲ助長シ、戰爭中經濟界ニ惡影
響ヲ來タサシメナイコトニ留意スベキデ
アリマス、私ハ本會議ノ質問ノ際ニモ申
上ゲマシタ通り、租稅ハ取レルト云フコ
トト取ツテハナラヌト云フ限界ヲ、ソノ
時ノ國家ノ使命ト經濟ノ實情ニ照ラシテ
決定スルコトハ必要デアリマス、納稅者
ヲ強壓スル態度ニ出テハナリマセヌ、納
稅者ハ例ヘ應ジタトシテモ國ノ財源ヲ壞
ハス結果トナツテハナリマセヌ、戰時中
ニ於テ國民ノ愛國心ニ訴ヘルト共ニ政府
トシテハソノ行過ヲ防止スルコトニ留意
シナケレバナラヌト存ジマス

第二 法人ノ稅金ヲ經費ト見ザル爲メ
急激ナル増稅トナルコトニ就キ緩和
スル意思ナキヤ

法人ノ計算方法ヲ變更スル爲メニ法人
ノ稅負擔ノ增加程度ハ大體一割五分ナ
リト政府ハ言明サレテキマスガ、利益ノ
多イ法人ト少ナイ若クバ無イ法人トヲ平
均シテ言ハレタノデアアラウガ、平均ナルモ
ノハ實在ノモノデハナイ、實際利益ノ相
當アル法人デハ、四割五割ノ増稅トナル、
斯ル法人ニ對シテハ、其急激ナル負擔増
加ノ爲メニ法人ノ經營ニ打撃ヲ與フルコト
ナキヤウニ相當緩和スル必要ガアルト存
ジマス、政府ノ御所見ヲ伺ヒマス、政府
ハ實際スル實例ガアツテモ、理窟上稅金
ヲ經費ト見ザルコトガ正シイト云フ見地
カラ飽クマデ固執サルノデアアルカ、コノ點
ヲ御同致シタイ、私ノ見解ヲ以テスレバ

稅金ヲ經費ト見ルモ經費ト見ザルモ、執
レニモソレ相當ノ理窟ガツクト思ヒマス、
要ハ是レニ依ル實際ノ負擔ノ多寡ニ依
ルノデアリマス

第三 法人企業ノ重複課稅ヲ是正スル
意思ナキヤ

法人企業ノ重複課稅ハ大正九年ノ所得
稅法改正ニ始マルノデアリマシテ、ソノ
當時ノ經濟ハ御承知ノ如ク法人人格說ニ
出タノデハナク、寧ロ偶然ソウナツタノ
デ、實ハ立法者ノ手落デアツタ、大正九
年前ノ所得稅法ハ一旦課稅シタモノニハ
重複課稅ヲシナイコトニナツテ居タノデ
アリマス、即チ法人配當ニ就テハ次ノ條
文ガアリマス

總益中此法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレ
タル法人ヨリ受ケタル配當金又ハ此法
律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社
債ノ利子アル時ハ之ヲ控除ス、保險會
社ノ利益金又ハ剩餘金ノ計算ニ付亦同
ジ(第四條第二項)

個人ノ受ケタル配當金及割賦賞與金ハ
第三種所得中所得稅ヲ課セザルモノト
シテ次ノ一項ガアル

此法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法
人ヨリ受ケタル配當金及割賦賞與金
此割賦賞與金トハ會社ノ重役賞與金デ
アル、此ノ如ク一旦課稅セラレタルモノ
ニハ之ヲ受ケタル者ニ課稅シナイ方針デア
ツタモノヲ大正九年ノ改正ニ當リ政府ハ
法人課稅ヲ止メテ全部個人ノ綜合課稅ニ
シヨウトシタ、然ルニ貴衆兩院ニ於テ全
部個人綜合課稅ニ反對ガ起リ、一部ヲ法人
ニ課シ、一部ヲ個人ニ課スルコトトシ、法
人課稅千分ノ七五ヲ百分ノ五ニ輕減シ、

個人ニハ四割控除ヲ配當ニ課税スルコトト
ナツタノデアリマス、其ノ時政府原案ハ法人
課税ヲシナイ方針デアツタカラ前記ノ條文
ガ削除サレテキタノデアリマスガ、ソレヲ
法人個人ニ分割課税スルコトトナツタノ
デ、コノ條文ヲ活カス必要ガアツタノニ
不拘、之ヲ活カサナカツタ爲ニ茲ニ重複
課税ノ端ヲ啓イタノデアリマス、然ルニ
當時ハ税率ガ百分ノ五ト云フヤウニ低カ
ツタ爲メニハ實際問題トハナラカツタノデ
アリマス、今日ノ如ク税率ガ段々高クナ
ツテ來テハ重複課税ニ對シテハ相當考慮
スベキデハナイカト存ズルノデアリマス
斯ナ過去ノ歴史ヲ長々ト申述ベルツ
モリデハナカツタノデアリマスガ、大矢
局長ノ御話モアリマシタノデ、陳ベタ次
第デアリマス

勿論私ハ重複課税ヲ絕對ニ避ケナケレ
バナラヌト申スノデアリマセヌ、又過
去ノ經過ハドウデアラウト國家ノ必要ノ
前ニハ、何物モ犠牲ニセズバナラヌノデ
アリマスカラ、重課ト雖敢ヘテ之ヲ非難
スベキデハナク、國民ハ進ンデ之ヲ應諾
シナケレバナラヌノデアリマスガ、度々
申上ゲマス通りソノ程度ニ就テ卑見ヲ申
陳ベル次第デアリマス
前回大矢局長ハ私ノ米獨ノ實例ヲ引イ
テ陳ベタ所ニ對シテ種々御垂教ヲ賜ハツ
タノデアリマスガ、ソノ中ニ、米國ニハ
州法デハ重複課税ヲヤツテ居ルトノ御説
明デアリマシタ、所ガ州ニ所得税ノアル
ノハ三分ノ二デ、ソノ中法人税ノアルノ
ハ、更ニ少ク、主税局長ノ云ハルル如ク、
米國ノ租税ハ州カラ發達シテ來タノデア
ルガ、今日ハ所得税系統ノモノハ聯邦税

ガ發達シテ、州税ハソノ餘リヲアサルニ過
ギマセヌ、ソレデ税ノ法人税ハ一割五分
ヲ超ユルモノハナイト存ジマス、而カモ
ソノ法人利益ハ聯邦所得税ヲ控除シタモ
ノヲ純益トシテ之ニ課税スルコトニナツ
テキル州モアリマス、若シ或州デ苛酷ナ
州税ヲ課スレバ、會社ハソノ所在地ヲ他
州ニ移スコトモアルノデ、州税ハ自ら制
限ヲ受ケルコトニナリマス、デアリマス
カラ重複課税ガアルト云ツテモ、其レハ稅
率ハ一割五分ヲ超ヘナイ程度デアリマス
カラ耐ヘテ居ルノニ過ギマセヌ、決シテ
是レハ適正ナル稅法デアルト見ルコトハ
出來ナイノデアリマス
所得税ノ尤モ發達シタ英國ノ如キハ全
然重複課税ハアリマセヌ、法人ガ所得税
ヲ納レバ個人ニハ普通所得税即チ「ノー
マル・レート」ハカカラナイノデアリマ
ス
斯ル外國ノ例ヲ見テモ我國ノ重複課税
ハ猶ホ考慮ノ餘地ハナイデアラウカ、主
税局長ガ米國ノ州税ヲ例ニ取ツテ重複課
税ノ辯護ヲ爲サルルノハ何ウカト思フノ
デアリマス
我國ノ法人企業ノ状態ヲ見マストト法
人ガ法人ニ投資シテ居ルノハ非常ニ多イ
ノデアリマス、是レハ事業經營ニ聯絡ト
管理トヲ必要トスルカラ起ツタノガ多イ
ノデアリマス、殊ニ近時ノ統制會社ハ即
チ是レデアリマス、又中ニハ利廻計算ノ
ミデ投資シタモノモアリマス、又同族會
社中ニハ税金逃避ノ爲メニ會社組織トシ
タモノモアリマス、(一)ノ事業經營ニ聯絡
ト管理トヲ必要トシテ法人ニ投資シタ者
ハ重複課税ノ爲メニ生産費ヲ高メテ、不

適正ナル課税ノ爲メニ生産費ヲ高メ一國
産業ノ他國トノ競争力ヲ殺コトハ慎マナ
ケレバナラヌノデアリマス、(二)ノ場合
ノ利廻計算ノミデ株ヲ持ツ者ハ税金モ
利廻計算ニ這入ルカラ株ノ價格ノ高低ト
ナル、是ハ猶ホ忍ビ得ルトシテモ(三)ノ
税金逃避ノコトハ同族會社ニハ其レガ爲
ニ留保金ニ加算税ガカカルカラ是レデ防
ゲルト思フ、政府ハ我國ノ財閥ガ法人組
織トナリ、投資ヲシテ居ル者ト事業經營
ノ爲ニ親ノ關係ノ會社ヲ起シタ場合ト分
界點ヲ作ルコトガ困難デアリトシテ、重
複課税ヲ看過サレヨウトシテ居ラルガ、
要ハ其ノ組織分子ガ誰レデアラウト、事
業經營管理ノ爲ニスル者ニ限、重複課税
ヲ避クルコトトスレバ自然不當ニ生産費
ノ高マルコトハナクナルト思フノデアリ
マス、又政府ハ此ノ重複課税ヲ是正スル爲
ニ非常ニ稅收入ノ激減ヲ來スト云ハルル
ナドモ、之ヲ是正スルコトガ必要デアレ
バ稅收入ノ減少モ亦止ムヲ得ナイコトデ
稅收入ノ減少ヲ救フ途ハ他ニ自ラアルト
存ジマス
法人ノ重役賞與ハ利益處分デアルカラ
利益ニ課税シテ其レヲ受クル重役個人ニ
更ニ綜合課税スルコトハ差支ナイヤウニ
見エマスガ、前ニ、大正九年ノ所得稅改
正ノコトヲ述ベタ時ニ述ベタ如キ經緯カ
ラ生ジタ重複課税デアルカラ是正スベキ
モノデアルカノ如ク思ハレマス、今日勞働
者モ職員モ法人ノ利益ノ多寡ニ依ツテ賞
與ヲ受ケル者ガ多イノデアリマスガ、重
役ノミニ獨リ重複課税ヲスルコトハ理由
ハナイヤウニ思ハレマス、或ハ重役ハ出資
者デアアルカラト云フ說モアリマセウガ、

商法ガ改正サレテ今後ハ重役ハ出資者ト
ハ限ラナイコトニナリマタ、コノ點ニ疑問
ガアリマスカラ特ニ御垂教ヲ願ヒマス
第四 超過所得ニ對スル課税ハ過重ナ
ラザルカ
超過所得稅ト臨時利得稅トヲ一本ニシ
テ超過所得分ニ對スル稅率ヲ非常ニ
引上ゲタノハ如何ナル趣旨ニ出テタモノ
カ名ヲ租稅ノ簡易化ニ借リテ、實ハ稅
率ノ急激ナル引上トナラザルカ、本會議
ノ席上ニテ述ベタ如ク超過所得ハ經營者
ノ苦心ノ結晶デアツテ、決シテ時局ニ惠
マレタ巨利ト同一視スルコトハ出來ナイ
ノデアリマス、然ルニ之ヲ殆んど同一視
シテ、一本ノ臨時利得稅デ課税スルコト
ハ苛酷ニ渡ラナイデアラウカ、斯クノ如
キハ企業ノイニシアチーブヲ冷却スルモ
ノデ事業經營上甚ダ面白カラヌ結果ヲ來
スデアラウコトヲ慮レルノデアリマス、
世界何レノ國デモ超過所得ニ斯クノ如キ
重稅ヲ課スル國ハ私寡聞ニシテ未ダ之ヲ
ヲ知ラナイノデアリマス、私ハ超過所得ト
臨時利得トハ其ノ性質ガ全然異ナルモ
ノデアアルカラ、之ヲ截然一ツニ分ケテ、ソ
ノ稅率ヲ異ニスベキモノデアルト信ジマ
ス、世間ニハ資本ニ對スル利益ノ多キモノ
ヲ不當視スル者ガアツテ、超過所得重課
ヲ是認シヤウトスル者ガアルカモ知レマ
セヌガ、コレハ甚シキ謬見デアツテ、新
シキ機械、新シキ工夫ニヨツテ生産費ガ下
リ、利益ガ多クナルノデアツテ、斯クノ
如キハ國家ニ對シテモ大ナル貢獻デアツ
テ、外國トノ競争ニモ、之ニヨツテ打勝
ツノデアリマス、紡績ノ如キ其一例デアツ
テ決シテ其ノ超過所得ヲ不當視スベキモ

ノデハナイノデアリマス、若シ我國ノ紡績が成績ガ悪ク英國ノ紡績ニ打勝ツテ世界ノ市場ヲ兩分スルガ如キコトガ、無カツタナラバ、勿論超過所得モナイデアラウガ、コノ場合超過所得ノ無イト云フコトハ決シテ國ノ爲ニ名譽デハナイノデアリマス

第五 海外所得ニ對シテ臨時利得稅其他稅ヲ輕減スル意ナキカ
海外所得ハ言ハバ、敵地ニ踏ミ込シテ經濟戰ニ從事シテ居ル者デアリマス、其ノ上其ノ國ノ稅モ負擔シテ居ル、斯ル困難ト戰ヒツツ利益ヲ擧ゲタ者ニ對シテハ法人稅ノ輕減ヲ現在ノ營業收益稅分ニ止メズ、更ニ相當輕減スルコトヲ至當ト認メルノデアリマス、殊ニ其ノ超過所得ヲ利得ノ如キ時局柄正金ヲ外國ニ獲得スル者ニ對シテハ寧ロ獎勵スベキデアラウト思ヒマス、然ルニ高率ナル臨時利得稅ヲ課スルハ如何カト存ジマス、就中超過所得ニ對シテハ適度ノ課稅ハ認メマスガ時局ノ影響ニ依ラス外國ニ於ケル利得ニ對シテハ臨時利得稅ハ課スベキモノデハナイト思ヒマス、私ハ青年時代ヨリ外國貿易ニ從事シ姑、世界各國ニ於ケル貿易上ノ實戰ニ參加シ、各國ノ強九ナル經濟力ニ直面シ、日本ノ經濟力ノ伸張發展ヲ企圖セネバナラスコトヲ痛感シテキタノデアリマスガ、コノ時局ニ於テ一段ト日本ノ國力ヲ進展セシメネバナラスコトヲ思ヒマシテ敢ヘテ政府ノ御所見ヲ御伺致ス次第デアリマス

第六 個人ノ營業所得ノ計算ニ於テ相當以上ノ規模ノモノハ法人ニ準ズル意ナキカ

個人ノ營業所得即チ臨時利得稅ノ計算ニ於テ資本金ノ多少ハ一切見ズ唯ダ其ノ收益額ノミヲ見テ營業利得トナシ臨時利得稅ヲ課スルコトハ甚ダシク不當ナリト思ヒマス、小營業者ハ別トシテ、相當以上ノ規模ノモノハ法人並ニ取扱フシテモ然ルベシト思フノデアリマス、然ラズンバ百万圓ノ資本ヲ二百萬圓ニ増シテ事業ヲ營ム場合其ノ收益ガ倍加シタトシテ高率ノ利得稅ヲ課スルノハ頗ル不當デアルト存ジマス、斯ル場合ニ法人組織トスレバ、脫稅ノ爲メニ同族會社ヲ組織シタモノト睨マレル、中ニハ同族會社ノ組織ヲ爲シ得ナイモノモアリマス、誠ニ進退維レ谷マルト云フ立場ニ置クコトハ好マシクナイト思ヒマス

第七 新規事業ニ對シテハ、臨時利得稅ヲ輕減スル意思ナキヤ
昭和十二年度以後設立シタ事業ハ勿論其レ以前ニ設立シタ事業デモ、設立日尙淺クシテ事業ノ基礎未ダ定マラナイモノニ對シテハ臨時利得稅ノ基準利益一割ヲ今少シク高ク見ル必要ガナイデアラウカ、已ニ基礎ノ定レル事業デハ相當積立金ガアツテ、同ジ一割ノ利益ト云ツテモ、新事業トハ雲泥ノ差ガアリマシテ、積立金ノ少キ總資本ノ一割デハ拂込金ニ對シテ五分ノ配當モ困難デアリマス、五分ノ配當モ困難ナル者ニ對シテ餘分ノ利得ヲ得タ者トシテ高率ノ利得稅ヲ課スルコトハ新規事業ヲシテ到底浮フ瀕無カラシムル結果トナリハセヌカラ憂フルノデアリマス

第八 法人及個人共事業ノ固定資産原價銷却年數ヲ此ノ際特別ニ短縮スル

ヲ許ス意ナキヤ
我國ノ固定資産原價銷却年數ハ長キニ失スル、之ニ對シテハ當局者ニモ短縮ノ意思ノアラレマスコトハ、之ヲ諒トスルノデアリマスガ、抑モ固定資産原價銷却ハ産業ヲ發達セシムルニハ成ルベク之ヲ短縮スルヲ可トスルノデアリマス、我國ガ産業上ノ後進國トシテ急速ノ進歩ヲ爲シ直チニ先進國ノ壘ヲ摩スルニ至リマシタノハ、其ノ間種々ノ原因ガアリマスガ、一ニハ後進國ダケニ其ノ機械ガ新シイカラデアリマス、英國ノ如キ老國ハ總テノ設備ガ古イノ、而カモ之ヲ改メントシナイ所ニアルノデアリマシテ、是レデハ能率ガ惡クテ到底産業戰ニハ勝テナイノデアリマス、米國ノ如キハマダ使ハレル機械デモ新シイ機械ガ出ルト古イ機械ハ直チニ「スクラップ」ニシテズン、能率ヲ擧ゲテ居ルノデアリマス、我國ハ新シイ機械ヲ買ツタ當分ハ善イガ、其レガ原價銷却年數ニ縛ラレテ新機械ガ出テモ之ヲ取換ヘルコトガ六ツカシクナルト我國ノ産業ノ進歩ガ止マルノヲ恐レルノデアリマス、銷却年數ノ短縮ハ思ヒ切ツテヤラナケレバナラズノデアリマス、ソレノミナラズ租稅ガ急激ニ増加スル場合ニハ是レガ緩和手段トシテ英國ノ如キハ度々臨時特別ノ原價銷却ヲ許シテ居ルノデアリマス、我國ニ於テモ今回ノ如キ急激ナル租稅ノ増加ニ當リマシテハ、特別銷却ニヨツテ緩和スル必要ガアルト思ヒマス、早く銷却シタカラト云ツテ後ニハ利益トナツテ稅金ヲ課シ得ルノデアルカラ決シテ國ガ損スル譯合ノモノデハナイノデアリマス政府ハ之ヲ斷行スルノ意思アリマセヌカ

第九 株式取得ノ爲ノ負債利子トハ如何ニシテ之ヲ認ムルカ
株式取得ノ爲ニ要シタル負債ノ利子ヲ綜合所得ヨリ控除スルト云フ規定ハ現行法ヨリ一步進ンダモノノ如クデアリマスガ、而シレバ實施ニ當ツテハ、殆ンド適從スル所ヲ知ラザルニ至ルコトナキヤヲ恐ルノデアリマス、株式買入ト名義書換トガ、日ガ異ナリ借入金ノ日附ガ買入ノ日ト前後スル場合如何ニシテ取得ノ爲ニ要シタル負債ト認メラルルヤ、茲ニ當座預金者ガ、其所有株式ヲ借越擔保トシテ提供シ置キ爾後預金ノ出入ヲ爲シ時ニハ借越ヲナシツツアル内偶、適當ナル株式ヲ見テ、之ヲ買入レ借越ヲナシタルニ、其ノ借越額ハ爾後ノ預金ノ出入ニヨリテ一定セザルモノガアツタナラバ、如何ニシテ株式取得ノ爲ノ負債幾何ト云フコトヲ算出スルカ實際ニ當リテハ稅務官ノ手心ニヨツテ如何様ニモナリ國民ニ取リテ甚ダ危險千萬ノコトトナリ、ソノ結果ニ於テハ結果コノ恩典ニ預カラザル者ヲ生ジ空支ニ終ハルコトナキカラ疑フノデアリマス

現行法ノ二割控除ハ前ニ述ベタ大正九年ノ所得稅法ノ四割控除デアツタモノガ、支那事變ノ爲ニ二割控除ニナツタノデアリマスガ、是レハ決シテ負債利子控除ニ當ルモノト見ルコトハ出來ナイノデアリマス、負債利子モアルカラト云フコトデハアリマシタガ、要ハ法人課稅ト個人課稅トノ重複ヲ避クル意味カラデアツタ、然ラバ負債利子控除ヲ許スカラ二割控除ヲ止メルト云フコトハ理窟ニハ合ハヌノデアリマス、負債利子ハ利子ヲ受取ル者ガ所得稅ヲ拂フカラ、之ヲ支拂フカラ

ハ所得稅ヲ取ラヌガ正當デアリマス、是ハ株式取得ノ爲ノ負債ト限ラズ總テノ負債ノ利子ニ課スベキデナイ或ハ總テノ利子ヲ免稅ニスレバ、自分ノ家屋ヲ建築スルノ必要シテ負債ノ利子モ免稅ニナリ、自分ノ家屋ニ所得稅ガ課セラレヌ以上不當ナリト云フ議論モアルガ利子ノ用途ト云フヨリハ、其ノ利子ガ支拂者ト受取者トノ重複課稅ニナラヌ様ニスルノガ正當デアナイデアラウカ、然ラバ負債利子控除ト配當所得ニ割控除トハ全然別ニ見ルベキデアツテ寧ロニ割控除ヲ擇ブベキデアルト存ズルモノデアリマス、又負債利子控除ニ一ノ危險ガアリマス、私ハ過日ニ關聯シ御同致シマシタ通り假裝の負債ノ起ル恐ノアルコトデアリマス、例ヘバ一方ニ預金シ一方ニ借入金ヲシテ、其利子ヲ支拂ヘバ其利子ハ綜合所得カラ控除サレ、預金利子ハ源泉課稅ヲ擇ブト、預金利子ノ源泉課稅率以上ノ綜合所得稅率ノ納稅者ハ株式ヲ取得スル資金ガアツテモ、其レハ銀行預金トシテ別ニ所要ノ資金ヲ借入レ、ソノ利子ヲ綜合所得カラ控除サル、コトガ利益デアアルコトハ明カナル事實デアリマス、預金ト借入金トノ利子ノ差ノ如キハ云フニ足ラヌノデアリマス又預金ヲ引當ニ借入金ヲスル場合ニハソノ利子ハ甚ダ僅カデアリマス、政府當局ハ斯ル事實ヲ藐視シテ借入金ヲ假裝スル者ノ無イコトヲ主張セラレマスガ、決シテ絶無デハナク、今後其ノ虞レガ益、多クナルコトガ察スルニ餘リアルノデアリマス

今日ノ如ク寄附ノ多キ、殊ニ租稅ヲ以テ辨ズベキ事柄ヲ寄附ニヨルコト多キ場合ニ於テハ、個人ノ所得ヨリ責メテ之ヲ控除スルコトハ正當デアルト思ハレマス、之ヲ租稅トシテナラバ左程マデ徵收サレナイデアラウモノガ、寄附ノ名ヲ以テ、租稅同様ニ強制サルルコトハ堪ヘラレナイコトデアリマス、殊ニ寄附金ニ付テハ資金調整令モ適用サレナイデアリマス、又此ノ稅制改正ノ結果地方稅ガ窮屈ニナレバ、從來ノ戶數割ガ寄附金ト變形シ、或ハ警察署ノ建築、官廳自動車ノ購入、學校ノ建築等ガ寄附金ニ依ルコトガ多クナルコトヲ恐レルノデアリマス、故ニ一方寄附金ニ關シテ相當取締ヲ爲スト同時ニ、一方之ニ對シテ所得稅法上控除規定ヲ設クル必要アリト存ジマス、而シコノ點ハ姑ク質疑應答ハ繰返サレテ居リマスカラ、政府ノ御注意ヲ再ビ喚起スルニ止メテ置キマス

前同ノ關聯質問ニ對シテ主稅局長ハ日本ノ相續稅ノ負擔ハ重イトハ存ジマセヌト答ヘラレマシタ、又伊太利ノ相續稅ノコトヲ問ヒマス、近親ニ對シテ相當程度ノ相續稅ヲ課シテ居ルト云ヒ、「ムッソリー」ニモ一度近親相續稅ヲ廢止シテ見タガ、再ビ課稅スルコトニナツタコトヲ指摘セラレマシタガ、私ノ問フタノハ伊太利ノハ百分ノ十デハナイカト云ツタノデ、ソレニハ明答サレナカッタ、伊太利ノ百分ノ十ト日本ノ家督相續ノ、最高率百分ノ三十三トハ決シテ比較ニナラヌ「ムッソ

リー」ガ一旦止メテ又復シタトハ云ヒ、ソレハ百分ノ十二過ギマセヌ、我國ノ建國二千六百年ト云フノハ其間家族制度ガ儼然トシテ維持サレタノデアリマス、然ルニ新相續稅法ガ實施サル、コトニナリマスト最高三分ノ一ガ取ラレル、相續稅ハ一家ノ不幸ニ際シテ其三分ノ一ノ財產ヲ國家ガ徵收スルノデアツテ、斯クノ如キハ、我國ノ祖先ノ祭祀ヲ絶タナイ家族制度ニヒビガ來タ處ハナイデアラウカ主稅局長ハ米國ナリ英國ハ更ニ高率デアルト仰セラレマシタ、私モ承知シテ居リマス、個人主義ノ國家ニ於テ相續稅ノ高イノハ當然デアツテ、我國トハソノ國體ヲ異ニシテキルノデアリマス、況ンヤ米國ノ如キハ一代主義デアリマシテ、金ハ一代デ儲ケル、而シソノ金ハ一代デ使ツテシマウ、ソノ金ヲ或ハ一州ノ爲メニ、或ハ米國ノ爲メニ、或ハ世界ノ爲メニ不朽ノ事業ヲ遺スト云フ慣習ガアリマス、ソノ國ト日本ト比較スベキデアリマセヌ我國ノ如キ家族制度ノ國、特ニ資本ノ蓄積ノ低イ國柄ニ於テハ寧ロ獨逸ノ如ク、伊太利ノ如キ相續稅ノ低イ國ト比較スベキデアナイデアラウカ

又英國ノ如キモ相續稅ガ高イ爲メニ、貴族ノ如キハ其ノ田舎ニアル「エステート」ヲ賣拂ツテ、資産モナクナリ、英國ノ傳統ハ日ニソノ影ヲヒツテ勞働黨ガソノ勢力ヲ占メテ立法ノ上ニ於テモ社會主義的傾向ハ濃厚トナリ、國力ハ今日以上ニ延ビル餘地ハナク後退シツ、アル現狀デ英國ノ覇權ハ失ハレツ、アルデアリマス、ソノ英國ト新興日本、大陸ニ進展ヲ期セントスル、家族主義ヲ基調トスル日本ト比較スベキデアナイト存ジマス

世間デ大キナ財閥ト言ハル、者デモ一度ニ三分ノ一ノ財產ヲ持ツテ行カレテハ、軀テハソノ事業ヲ漸次人手ニ渡シテ後退スルヨリ外無キニ至ルデアリマセウ、又華族、地方ノ地主等我國ノ中堅ヲナス者モ相續稅ノ爲メニソノ存立ノ基礎ヲ危クスルコトナキヤ甚ダ懸念ニ堪エザルモノガアリマス

高率ノ相續稅ハ黃金ノ卵ヲ産ム鵝鳥ヲ殺スヤウナモノデ、愚ノ至リデアリマセヌカ、寧ロ其レヨリモ、其年々ノ所得タル黃金ノ卵ヲ取ツタ方ガ賢明ノ處置デアナイデアラウカ

又相續稅ノ財產評價ノ如キニ稅務官ノ評定ニ委スルガ如キコトハ危險デアリマス、獨逸ノ如ク詳細ナル財產評價法ガアレバ頗ル結構デアリマスガ、夫レガ制定ハ他日トシテモ、相續財產中時價ノ明カナラザルモノ及時價ノ變動甚シキモノハ收益力ヲ加味シテ算定シ各稅務監督局内ニ設クル財產評價委員會ノ議ヲ經ルヲ要ストスル規定ヲ設ケル意思ハアリマセヌカ政府ノ御所見ヲ伺ヒマス

第十一 法人ノ清算ニヨル分配金ノ超過金額ハ株式取得金額ニヨルコトトシ、ソノ分配金ハ現行法通個人ニ綜合セザルコトトスル意思ナキヤ

コノ度ノ改正ニ依リマシテ法人ノ解散又ハ合併ノ際ニ於ケル分配金ニ對シテハ分類所得稅及綜合所得稅ガ賦課サレルコトニナツタノデアリマスガ、之ヲ法人ノ解散ノ場合ニ例ヲ取リマストソノ株式ヲ例ヘバ五十圓ノ拂込金ヲ以テ取得シタ者ガアリマス、之ヲ市場ニ於テ七十五圓

テ取得シタル者モアリマス、又ソノ解散セ
ラレタル會社ガ「プレミアム」ニ付テ株式
ヲ賣出シタ場合ニハ七十五圓デ取得シタ
者ガアツタト致シマスレバコノ取得者ニ
三種類ガアリマス、コノ會社ヲ清算セラ
レタ場合ニハ株式ノ價格七十五圓ト認メ
ラレタ場合ニハ五十圓デ取得シタル者ハ
二十五圓ニ對シテ税金ヲ納メサセテモ後
ノ二者ノ七十五圓デ取得シタル者ニ對シ
テハ免稅スベキデアリマス、株式取得金
額トハコノ意味デアリマス、コノ際ニ於
ケル超過金額ハソノ會社ノ多年經營辛苦
ノ結果デアツテ一種ノ蓄積ノ分配デアリ
マス、一定ノ率ヲ以テ受ケル配當金ト同
一視スベキモノデハナク、云ハバ一時取
得テ個人カラ云ヒマス、或財産ヲ處分
シテ得タル益金デアリマシテ、一率ノ配
當所得ト全然區別スベキモノデアリマス、
從ツテ分類所得稅ハ之ヲ課シテモ、綜合
所得稅ハ課セズ、一時取得ト同様ノ取扱
ヲ爲スベキデハナイデアラウカ、若シ斯
ル緩和的手段ヲ取りマセスト今日ノ如ク
統制經濟ガ強化セラレテ併合合併ノ熾シ
ニ實行セラルル際ニ當リマシテハ却ツテ
株主ヨリコレガ反對ノ氣勢ガ上ガリ之ヲ
阻止スルコトナキヲ保シ難イノデアリマ
ス、政府ノ所見如何デアリマスカ

右質問ニ對スル大矢政府委員答辯
要旨

御質問ノ第一點ト付テ御答ヘ致シマス、御
尋ネノ主旨ハ法人ニ對スル課稅方法改正
ノ結果場合ニ依ツテハ、利益ヨリモ稅額ノ
方ガ多クナル場合ガナイカトノ事デアリ
マスガ、左様ノコトハ如何ナル場合ニ於

テモ生ジナイト云フコトハ、前會ノ御尋
ニ對シ御答ヘシタ通りデアリマス、此ノ
點ハ彙ニ資料トシテ提出致シマシタ法人
ノ所得計算方法改正ニ依ル負擔關係說明
ヲ御覽ニナレバ、自然御了解ノ行クコト
ト存ジマスカラ、御答ヘノ便宜上右ノ說
明ヲ此處ニ採録スルコトト致シマス
法人ノ所得計算方法改正ニ依ル負擔
關係說明

關係說明

先ヅ資本金百萬圓、事業年度年一回ノ會
社ガ毎期年二割ノ利益ヲ擧ゲタル場合ヲ
假定シテ計算シタル別紙計算例其ノ一ニ
付說明スルコトトスル
現行法ニ依ル稅額ヲ計算スレバ、計算例
ノ第一期分ノ稅額ハ、資本金ノ年二割即
チ二十萬圓ノ利益ニ對シ

第一種所得稅 二八、九〇〇圓

同附加稅 五、八八〇圓

(課率ハ全國平均)
營業收益稅 八、〇〇〇圓

同附加稅 一〇、二〇〇圓

臨時利得稅 四六、〇〇〇圓

法人資本稅 一、二〇〇圓

以上合計稅額一〇〇、一八〇圓トナル
次ニ第二期分デアアルガ、第一期分ノ合計
稅額一〇〇、一八〇圓ヲ第二期ノ實際營
業利益二十萬圓ヨリ差引クトキハ第二期
分ノ課稅所得ハ九九、八二〇圓トナリ其
ノ稅額ハ

第一種所得稅 一一、二二七圓

同附加稅 二、〇九六圓

營業收益稅 三、九九二圓

同附加稅 五、〇九〇圓

臨時利得稅 五、九六四圓

法人資本稅 一、二〇〇圓
以上合計稅額 三〇、五七一圓
ニシテ其ノ負擔稅額ハ實際營業利益ガ第
一期ト同様ナルニモ拘ラズ第一期ノ稅額
一〇〇、一八〇圓ノ約三分ノ一トナルガ
如キ不合理ナル結果ヲ生ズルノデア
ル而シテ第三期ニ於テハ事業利益ハ第二期
同様二〇〇、〇〇〇圓ナルニ拘ラズ前期
(第一期分)ノ稅額ガ僅カ二三〇、五七一
圓ナリシ爲此ノ少額ナル稅負擔ヲ損金ト
シテ控除スル結果課稅所得ハ負擔稅額ガ
減少シタダケ多額トナリ從テ稅額モ七
八、九二三圓ニ増加スルノデア
ル、即チ
專業利益ハ第一期以降每期同額ナルニ拘
ラズ前期分ノ稅額ヲ損金トスルガ爲、第
一期分ノ稅額ハ一〇〇、一八〇圓、第二
期分稅額ハ三〇、五七一圓、第三期分稅
額ハ七八、九二三圓ト云フガ如キ波動ヲ
生ズルノデア
ル、此ノ波動ハ第四期以降
ニ於テモ別紙其ノ一ノ計算例ニ示ス通り
一期交替ニ繰返シ生ズルノデア
ル之ニ反シ改正案ヲ適用スルトキハ斯ル波
動ハ全然ナク次ニ說明スル如ク每期營業
利益ニ應ジタル稅額トナルノデア
ル改正案ニ依リ第一期分ノ稅額ヲ計算スレ
バ

臨時利得稅 四五、〇〇〇圓
所得ニ對スル法人稅 二七、九〇〇圓
資本ニ對スル法人稅 一、五〇〇圓
營業稅及同附加稅 九、三〇〇圓
計 八三、七〇〇圓

而シテ第二期分ノ稅額ヲ計算スレバ
營業利益二〇〇、〇〇〇圓ヨリ第一期分
ノ營業稅及同附加稅九、三〇〇圓ノミヲ
損金トスルノデア
ルカラ、第二期分ノ
稅利益ハ差引一九〇、七〇〇圓トナルノ
デア
ル、先ヅ此ノ利益ニ對スル臨時利得稅ヲ計算
スレバ
臨時利得稅 四〇、八一五圓
トナル
次ニ法人稅ヲ計算スレバ、課稅利益一九
〇、七〇〇圓ヨリ先ニ算出シタル臨時利
得稅四〇、八一五圓ヲ控除シタル殘額一
四九、八八五圓ガ法人稅ノ課稅所得トナ
リ之ニ對スル法人稅ヲ計算スレバ
所得ニ對スル法人稅 一六、九七九圓
資本ニ對スル法人稅 一、五〇〇圓
法人稅合計二八、四七九圓トナル、
更ニ營業稅ヲ計算スレバ
營業稅及同附加稅八、九九三圓トナル
以上稅額合計七八、二八七圓ノ負擔トナル
ノデア
ツテ第三期以降ニ於テモ專業利益
ニ變動ナキヲ以テ稅額ハ每期略同額トナ
ルノデア
ル、即チ改正案ニ依ル稅額ハ每
期營業利益ニ應ジタルモノトナリ、現行
法ノ如ク營業利益ガ每期同一ナルニモ拘
ラズ其ノ負擔稅額ニ甚シキ變動ヲ生ズル
コトハナイ、斯ノ如ク現行法ノ場合ニ於
テ負擔稅額ガ一期交替ニ波動スルコトガ
改正ノ結果是正セラルルコトハ計算例ノ
第四期以降ニ於テモ同様デア
ル尙利益率三割ノ場合、利益率五割ノ場合
ニ至ツテハ現行法ノ場合ニ於テ生ズル負
擔稅額ノ波動ノ幅ハ一層大キナル傾向
ニアリ、之ガ改正ニ依リ是正セラルル關
係ハ一層顯著デア
ル、詳細ハ計算例其ノ二
(利益率年三割ノ場合)又ハ其ノ三(利益
率年五割ノ場合)ニ付夫レ夫レ現行法ニ

計 八三、七〇〇圓

同附加稅 五、〇九〇圓

營業稅及同附加稅 九、三〇〇圓

計 八三、七〇〇圓

同附加稅 五、〇九〇圓

營業稅及同附加稅 九、三〇〇圓

依ル負擔稅額ト改正案ニ依ル負擔稅額ト
ヲ比較對照セラレタシ
次ニ負擔ノ變動關係ヲ見ルコトトスル、
先ヅ計算例其ノ一デアルガ、其ノ第一期
ニ付テハ、改正案ハ稅率ニ於テハ引上ゲ
ヲ爲シ居ラザルノミナラズ當該事業年度
分ノ臨時利得稅ヲ控除シタル殘額ニ對シ
法人稅ヲ課スルコトトセルヲ以テ、却テ
現行法ニ依ル稅額ヨリモ減少スルガ、第
二期ニ付テハ、改正案ニ依ル負擔稅額ガ
現行法ニ依ル負擔稅額ニ比シ相當增加ス
ル、然シ第三期ニ付テハ改正案ニ依ル負
擔稅額ガ現行法ニ依ル負擔稅額ヨリモ僅
カナガラ却テ減少スルノデアル、又第四
期ニ付テハ改正案ニ依ル負擔稅額ガ相當
増加シ、第六期ニ付テハ比較的增加シナイ
イ、要スルニ改正ノ結果負擔稅額ガ相當
増加スル期ノ翌期ハ比較的增加シナイ傾
向ニ在ルノデアツテ、數期間通算スルト
キハ結局急激ナル負擔增加トハナラナイ
即チ計算例其ノ一ニ付第一期ヨリ第十期
迄ヲ通算スレバ、改正案ニ依ル稅額ハ平
均一期ニ付七八、九六七圓トナリ、現行
法ニ依ル稅額ハ平均一期ニ付六一、四五
四圓トナル、即チ改正案ニ依ル稅額ハ現
行法ニ依ル稅額ニ對シ二割八分四厘ノ

其ノ二 所得ニ對スル負
擔稅額ノ割合 四割五分一厘

其ノ三 同 五割五分五厘

以上ハ利益率ガ相當高率ナ場合デアツテ
而モ基準利益率最低(一割)ノ場合即チ臨

增加ニ當ル

尙計算例其ノ二(利益率年三割)及其ノ三
(利益率年五割)ニ付同様ノ方法ニ依リ改
正案ニ依ル稅額ト現行法ニ依ル稅額トヲ
比較スレバ左ノ通ニシテ、數期間通算スル
トキハ負擔ガ急激ニ増加スルヤウナコト
ハナイノデアル
一、利益率年三割ノ場合
現行稅額ニ對シ二割八分八厘ノ
増加トナル
二、同 五割ノ場合
同四割一分六厘ノ増加トナル

次ニ改正案ニ依ル負擔稅額ガ所得ニ對シ
何程ノ負擔トナルカラ計算スルコトトス
ル
先ヅ計算例其ノ一ニ付テ見レバ改正案ニ
依ル稅額ハ每期平均七八、九六七圓ニシ
テ利益金額二〇〇、〇〇〇圓ニ對シ三割
九分四厘ノ負擔トナリ、此ノ法人ハ右ノ
稅額ヲ利益中ヨリ支出シタル後ニ於テモ
尙資本金ニ對シ年一割二分二厘ノ利益率
ニ當ルノデアル

計算例其ノ二及其ノ三ニ付同様ノ方法ニ
依リ改正案ニ依ル負擔割合ヲ計算スレバ
左ノ通りデアル

稅負擔後ニ於ケ
ル利益率 一割六分五厘

同 二割二分二厘

時利得稅ノ負擔ノ最モ重キ場合ヲ採ツタ
ノデアツテ一般法人ノ負擔割合ハ設例ヨ

リモズツト輕イノガ通常デアル
例ヘバ、資本金百萬圓、利益率年一割ノ
會社ニ付テ前設例ト同様ノ方法ニ依リ計
算シタル稅負擔增加割合及利益ニ對スル
負擔割合ヲ示セバ左ノ通デアル
十期間通算平均一期分ノ稅額
現行法 二二、〇二一圓
改正案 二四、二六八圓

利益ニ對スル稅負擔ノ割合
現行法 二割二分
改正案 二割四分二厘
改正ニ依ル負擔ノ増加割合
一割三厘
法人ノ所得計算方法改正ニ依
ル負擔關係計算例

其ノ一 資本金百萬圓ノ會社ガ年二割ノ利益ヲ擧ゲタル場合
(新設法人、事業年度一ケ年)

事業年度	利益金額	負擔稅額	
		現行法	改正案
第一期	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、一八〇	八三、七〇〇
第二期	二〇〇、〇〇〇	三〇、五七一	七八、二八七
第三期	二〇〇、〇〇〇	七八、九二三	七八、四六五
第四期	二〇〇、〇〇〇	四五、三〇四	七八、四五九
第五期	二〇〇、〇〇〇	六八、六七九	七八、四六〇
第六期	二〇〇、〇〇〇	五二、四二六	七八、四六〇
第七期	二〇〇、〇〇〇	六三、七二七	七八、四六〇
第八期	二〇〇、〇〇〇	五五、八六九	七八、四六〇
第九期	二〇〇、〇〇〇	六一、三三三	七八、四六〇
第十期	二〇〇、〇〇〇	五七、五三四	七八、四六〇
合計	二、〇〇〇、〇〇〇	六一四、五四六	七八九、六七一
平均	二〇〇、〇〇〇	六一、四五四	七八、九六七
對利益負擔割合		〇、三〇七	〇、三九四
對現行增加割合			〇、二八四

備考

一、現行法ノ負擔稅額ハ第一種所得稅、同附加稅(基本稅ノ四十二%)、營業收
益稅、同附加稅(基本稅ノ百五十%)、臨時利得稅及法人資本稅ノ合計稅額トス
二、改正案ノ負擔稅額ハ臨時利得稅、法人稅、營業稅及同附加稅ノ合計稅額ト
シ、課稅標準ノ計算ニ當リテハ前期ノ營業稅及同附加稅ヲ損金トシテ利益金
額ヨリ控除ス

其ノ二 資本金百萬圓ノ會社ガ年三割ノ利益ヲ舉ゲタル場合
(新設法人、事業年度一ヶ年)

事業年度	利益金額		現行法		修正案	
	金額	割合	金額	割合	金額	割合
第一	三〇〇,〇〇〇	三〇%	一七八,八三〇	三〇%	一四一,九〇〇	三〇%
第二	三〇〇,〇〇〇	三〇%	四三,三六九	三〇%	一三四,五六六	三〇%
第三	三〇〇,〇〇〇	三〇%	一四三,一四六	三〇%	一三四,八〇〇	三〇%
第四	三〇〇,〇〇〇	三〇%	七〇,一七九	三〇%	一三四,八〇〇	三〇%
第五	三〇〇,〇〇〇	三〇%	一三三,六三三	三〇%	一三四,八〇〇	三〇%
第六	三〇〇,〇〇〇	三〇%	八三,七四七	三〇%	一三四,八〇〇	三〇%
第七	三〇〇,〇〇〇	三〇%	一一,二九六	三〇%	一三四,八〇〇	三〇%
第八	三〇〇,〇〇〇	三〇%	九一,一六六	三〇%	一三四,八〇〇	三〇%
第九	三〇〇,〇〇〇	三〇%	一〇七,一二七	三〇%	一三四,八〇〇	三〇%
第十	三〇〇,〇〇〇	三〇%	九五,二二三	三〇%	一三四,八〇〇	三〇%
合計	三,〇〇〇,〇〇〇	三〇%	一,〇五一,三八二	三〇%	一,三五四,八七四	三〇%
平均	三〇〇,〇〇〇	三〇%	一〇五,一三八	三〇%	一三五,四八七	三〇%
對現行增加割合	〇	〇	〇,三五〇	〇	〇,四五五	〇

備考

其ノ一ノ備考ニ同シ
其ノ三 資本金百萬圓ノ會社ガ年五割ノ利益ヲ舉ゲタル場合
(新設法人、事業年度一ヶ年)

事業年度	利益金額		現行法		修正案	
	金額	割合	金額	割合	金額	割合
第一	五〇〇,〇〇〇	五〇%	三二九,八八〇	五〇%	二八八,七〇〇	五〇%
第二	五〇〇,〇〇〇	五〇%	七九,四〇四	五〇%	二七六,三六八	五〇%
第三	五〇〇,〇〇〇	五〇%	二七四,六一四	五〇%	二七六,六二七	五〇%
第四	五〇〇,〇〇〇	五〇%	一一〇,一四五	五〇%	二七六,六二七	五〇%
第五	五〇〇,〇〇〇	五〇%	二四六,二五八	五〇%	二七六,六二七	五〇%
第六	五〇〇,〇〇〇	五〇%	一四二,八九七	五〇%	二七六,六二七	五〇%
第七	五〇〇,〇〇〇	五〇%	二二〇,四二二	五〇%	二七六,六二七	五〇%
第八	五〇〇,〇〇〇	五〇%	一五四,九〇二	五〇%	二七六,六二七	五〇%
第九	五〇〇,〇〇〇	五〇%	二二一,一五三	五〇%	二七六,六二七	五〇%
第十	五〇〇,〇〇〇	五〇%	一六一,一九二	五〇%	二七六,六二七	五〇%
合計	五,〇〇〇,〇〇〇	五〇%	一,九六六,八六七	五〇%	二,七七八,〇四二	五〇%
平均	五〇〇,〇〇〇	五〇%	一九六,一八六	五〇%	二七七,八〇四	五〇%
對現行增加割合	〇	〇	〇,三九二	〇	〇,四五五	〇

備考

一、現行法ノ第一種所得稅ニ付テハ増徴稅額ノ制限規定ノ關係上所得ノ三分ノ一ヲ留保シタル場合(制限ノ限度所得ノ百分ノ五十)トシテ計算セリ
二、其ノ他ノ點ハ其ノ一ノ備考ニ同シ

御尋ネノヤウナ御疑念ノ生ジマシタルハ、恐ラク法人ノ利益ノ見方ニ付テノ行キ違ヒカト存ジマス、即チ御意見ハ從來ノ如ク法人稅及臨時利得稅ヲ損金ニ算入シタル場合ノ利益ヲ尺度トシテノ御話ノヤウデアリマスガ、サウ云フコトデアレバ、其ノ利益ハ既ニ稅ヲ負擔シタ後ノ殘額デアリマスノデ、其ノ利益カラモウ一度稅ヲ支拂フカノ如ク論ゼラレマシテ、利益殘額ニ對シ稅額ノ方ガ却テ多イナドト云ハレマスコトハ、其處ニ聊カ錯誤ガアリハシナイカト存ズルノデアリマス、要スルニ前期ノ稅負擔ヲ損金ニ算入シタル場合ノ當期ノ利益ハ既ニ稅負擔ヲ支拂シタ純手取利益デアリマスカラ、之ニ對シモウ一度稅ガ課セラレルト考ヘルコトハ、恰モ法人ノ或ル期ノ利益ハ、前期ノ稅ト當期ノ稅トヲ二重ニ負擔シナケレバナラナイカノ如ク前提シテノ御話ニ外ナラナイノデアリマス

擔トナリ、資本金額ニ對シ利益率年三割ノ場合ニハ、大體利益ニ對シ四割五分程度ノ負擔トナリ、資本金額ニ對シ利益率年五割ノ場合ニハ、大體利益ニ對シ五割五分程度ノ負擔トナルノデアリマシテ、利益率ノ相當高率ナル法人ニ對シマシテ、此ノ程度ノ負擔トナルコトハ、負擔ノ均衡上已ムヲ得ナイコトト存ジマス、而シテ如何ナル場合ニ於テモ、稅額ガ利益額ヨリモ多額トナルコトハ、決シテ起リ得ナイノデアリマス

御質問ノ第二點ニ付テ御答ヘ致シマス、御尋ネノ主旨ハ法人ノ利益ノ計算方法ヲ改メタル結果、負擔ガ急激ニ増加スル場合ニ付キ、經過的ニ緩和規定ヲ設ケテハドウカトノ御質問デアリマス、法人ノ利益ノ計算方法改正ニ依ル負擔ノ變動ヲ檢討致シマスルニ、偶々施行後第一期ニ於テ相當負擔ノ増加ヲ來ス法人ハ、其ノ翌期ニ於テハ比較的負擔增加シナイ傾向ニアリマス、又施行後第一期ニ於テ比較的負擔ノ増加ノ少イ法人ハ、其ノ翌期ニ於テハ相當負擔ノ増加ヲ來ス傾向ニアリマス、其ノ程度及ビ狀態ハ各法人ノ事情ニ依リマシテ、千差萬別デアリマスガ、何レモ數事業年度間通算致シマスレバ、改正ニ依ル負擔ノ影響ハ略、同様トナル傾向ニアリマスノデ、或ル事業年度ノミヲ捉ヘテ、改正ニ依ル影響ヲ緩和スル經過的措置ヲ講ジマスコトハ、却テ負擔ノ公平ヲ害スル場合ヲモ生ズルノデアリマシテ、各法人ニ付キ公正妥當ナル經過的措置ヲ講ジマスコトハ、困難ト認メラレルノデアリマス、ソコデ立案ニ當リマシテハ、稅率ノ盛り方ニ於

テ計算方法改正ニ依ル影響、其ノ他法人ノ負擔ヲ緩和スル爲、臨時利得稅ノ最低平均利益率ヲ百分ノ十ト致シ、又法人稅ノ稅率ヲ百分ノ十八ト致シ、法人ノ負擔全體ニ於テ相當程度ノ緩和ヲ圖ツテ居ル次第デアリマス

御質問ノ第三點デアリマスガ、法人企業ハ其ノ組織員トハ別個ニ擔稅力ガアルモノト認メマスノデ、法人企業ガ親會社、子會社關係ニ依リ二重機構トナツテキル場合ニ、親會社ノ利益ニ課稅シ、其ノ利益ノ分配ヲ受ケタ子會社ニ課稅スルコトハ、二重課稅トハ考ヘナイノデアリマス、御質問ノ第四點デアリマスガ、御質問ノ主旨ハ法人ノ臨時利得稅ノ稅率ノ問題デアリマス、法人ノ臨時利得稅ハ御承知ノ通り昭和四、五、六年ヲ基準年度トスル甲種利得ト、事變利得トモ稱スベキ昭和九、十、十一年ヲ基準年度トスル乙種利得トノ二種ヨリ成ツテ居リマスガ、甲種利得ハ現在ニ於テハ餘リニ古キ年度ヲ基準トシテキル爲、種々實情ニ添ハナイ憾ガアリマスノデ、之ヲ廢止スルト共ニ、從來ノ超過所得稅トノ重複競合ヲ避ケル爲、超過所得稅ヲ本稅ノ中ニ織込ミマシテ、負擔ノ適正ヲ圖ルト共ニ、稅制ノ簡易化ヲ圖ラウトスルモノデアリマス、其ノ結果臨時利得稅ノ稅率ガ苛酷ニ失スルノデハナイカトノ御尋ネデアリマスガ、今回ノ改正ニ依リ甲種利得ヲ廢止シマシタノデ、從來ノ甲種利得ノ基準年度ノ平均利益率ノ最低割合百分ノ七ハ撤廢サレマシテ、利得算出ノ最低基準ハ利益率年百分ノ十二引上ゲテレタコトナルノデアリマス、利益率年百分ノ十八假リニ之

ヲ稅引計算ニ引直スコトヲ考慮致シマシテモ從來百分ノ七以上ノ利益ニ對シ、甲種利得トシテ課稅シテ居リマシタノニ比ベマシテ、相當ノ緩和ニ當ルノデアリマス

尙稅率ニ於キマシテモ從來ノ甲種利得ノ稅率ハ百分ノ二十デアリマシテ、又資本金額ノ一割超過ノ部分ノ超過所得稅ノ稅率ハ、百分ノ四・四デアリ、其ノ地方附加稅ヲ加算シマスレバ、百分ノ六餘ニ當リマスノデ、之ト甲種利得ノ稅率百分ノ二十トヲ合算スレバ、百分ノ二十六餘ニナルノデアリマスガ、今回ノ改正ニ依リ此ノ部分ニ當ル利得ニ對スル臨時利得稅ノ稅率ヲ、百分ノ二十五ト致シタノデアリマスカラ、稅率トシテハ引上ゲトハナツテ居ラナイノデアリマス、隨テ之ニ依リ生産力ノ擴充ニ支障ヲ來ストカ、又ハ國民ノ企業心ニ惡影響ヲ及ボスコトハナイト信ジマス

御質問ノ第五點ハ海外企業ノ利得ニ對スル臨時利得稅ヲ輕減スル意思ハナイカトノコトデアリマスガ、海外ノ企業ニ付キマシテハ、臨時租稅措置法ニ依リ法人稅ノ稅率ヲ輕減スルコトト致シテ居ルノデアリマス、臨時利得稅ハ通常ノ利益率以上ノ利益アル場合ニ限リ、其ノ通常以上ノ利益ニ課稅スルモノデアリマスカラ、特ニ之ヲ輕減スル理由ニ乏シイト存ジマス

御質問ノ第六點ハ個人ノ營業利得デモ、大規模ニ經營スルモノニ付テハ、其ノ利得ノ計算方法ヲ法人同様トシテハ如何トノ御尋ネデアリマスガ、個人經營ノ企業ニ付キマシテハ、投下資本ノ大小及其ノ經理ガ明確デナイノガ通常ノ狀況デアリ

マスノデ、法人ノ場合ノ如ク資本ノ利廻ヲ基礎トシテ利得ヲ計算スルコトハ實行困難デアリマス

御質問ノ第七點デアリマスガ、御尋ネノ主旨ハ臨時利得稅ニ於テ、新規開業ノ場合ニ付キ輕減規定ヲ設ケテハ如何トノコトデアリマスガ、元來臨時利得稅ノ仕組ニ於キマシテハ、既往事業年度ノ平均利益率過少ナル場合、及ビ新規開業ノ場合ニ付キ負擔過重トナラザルヤウ、既往事業年度ノ平均利益率ノ最低限度ヲ定メテ居ルノデアリマスカラ、特ニ新規開業ニ付テ別途ニ輕減スルノ要ハナイト存ジマス

御質問ノ第八點ハ減價償却年限ノ短縮方ニ付テデアリマスガ、此ノ點ニ關シマシテハ充分研究致シ見込デアリマス

御質問ノ第九點ハ配當所得ニ割除ノ制度ヲ廢止シ、株式取得ニ要シタル負債利子控除ニ改ムルコトニ付テノ御尋ネデアリマスガ、之ニ付テハ既ニ再三御答ヘ申上ゲテキル通り、現行ノ二割控除ノ制度ハ必ズシモ負債利子ヲ控除スル意味バカリデハアリマセスガ、負債利子ヲ控除スル代リデアルト云フ理由モ相當考ヘラレルノデアリマス、隨テ從來ノ如ク一律ニ二割控除ヲ爲ストキハ、債務ナキ者ニハ理由ナキ課稅ノ輕減トナリ、債務ヲ有スル者ニハ尙控除シ足リナイ場合モアツテ、負擔過重トナル場合モ少クナイノデアリマス、殊ニ高度ノ累進課稅ヲ爲ス場合ニ於テハ今回ノ如ク負債利子ノ實額ヲ控除スルコトトシテ、負擔ノ實情ニ添フヤウニ致スノデアリマス

御質問ノ第十點ハ個人ノ寄附金ニ付テ

モ、其ノ性質及金額ニ一定ノ制限ヲ置イテ、綜合所得稅カラ控除シテハドウカトノ御主意デアリマスガ、寄附金ハ元來所得ヲ得タ後ニ、所得ノ處分トシテ支出サレルモノデアリマスノミナラズ、場合ニ依ツテハ所得ハナクテモ、財産ノ内カラ寄附スルト云フコトモ少クナイノデアリマスカラ、之ヲ個人ノ所得稅ノ課稅ノ對象トナル所得カラ差引クノハ適當デナイノデアリマス、法人ニ付テハ其ノ所得ノ計算方法ガ個人ノ場合トハ全ク異ツテ居リマスノデ、寄附金ノ支出モ之ヲ損金ト認メマスガ、個人ノ所得ハ法人ノヤウニ一切ノ財産ノ増加ト財産ノ減少トヲ差引計算シテ所得ヲ計算スルノデハナク、財産ノ處分益トカ値上リ益トカ、其ノ他ノ一時ノ所得等ハ課稅外デアツテ、個人ノ所得ノ計算ハ必ズシモ全部ノ所得ヲ網羅シテハ居ラナイニモ拘ラズ、寄附金ダケヲ一方ニ控除スルノハ却テ不合理ナ結果トナルノデアリマス

御質問ノ第十一點ハ相續稅ニ付テデゴザイマスガ、我國ノ現行相續稅ノ稅率ハ、諸外國ニ比ベマスと比較的低位ニゴザイマスガ、我國固有ノ家族制度トノ關係モアリマシテ、之ガ増徴ハ慎重考慮ヲ要スルモノガアルト思ヒマス、ガ然シ今回一般ニ租稅ノ増徴ヲナス際、相續稅ニ付テモ改正案程度ノ増徴ヲスルコトハ已ムヲ得ナイコトト認メマス共ニ、改正案ニ依リマシテモ課稅價格五千圓乃至一萬圓程度デ、一%ヨリ始マリ同十萬圓程度デ四%、四十萬圓程度デ初メテ一〇%トナリマスカラ、此ノ程度ノ増徴ニ依ツテ特ニ我國家族制度ニハ、別段ノ影響ハナイ

ト信ジマス

御質問ノ第十二點ハ清算分配金中拂込超過額ヲ配當ト看做シ、課稅スルノヲ、清算分配金中株式ノ取得價額ヲ超ユル部分ニ課稅スルコトニ改メテハ如何トノ御主意デアリマスガ、株式ノ取得價格ハ各人區々デアリマスノミナラズ、株式ノ賣却利益ニハ課稅セラレマセヌノデ、分配ヲ受クル前ニ賣買スルコトニ依リ、課稅ヲ免カレルコトトナリマスノデ、一率ニ株式ノ拂込額ヲ超過スル部分ヲ配當ト認メルコトトシタノデアリマス、其ノ結果株式ヲ額面以上デ取得シタ者ニ對シ、苛酷トナリハシナイカトノ御尋ネハ、一應御尤モノ點モアリマスガ、此等ノ點ハ株式ノ賣買ノ際ニ其ノ價額ニ折込マレマスノデ、サウ云フ採算ノ下ニ株式ヲ取得スルコトニナリマスカラ、是ニシテ苛酷ニハナラナイト存ジマス、尙株式ノ銷却ニ依ル拂戻シ超過額ハ、從來モ配當ト認メテ綜合課稅シテ居ツタノデアリマス、又其ノ他ノ點ニ付テモ從來カラ比例稅デ課稅シテ居ツタモノヲ、今回綜合課稅スルコトニ改メタノミデアリマスノデ、此等ノ負擔關係ハ株式ヲ取得スル際ニ既ニ折込濟ニナツテ居ルト存ジマス

昭和十五年三月十三日印刷

昭和十五年三月十四日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局